

2022 年度総合研究報告書

ウェルビーイング

～新たな都市の評価に関する研究～



U R C

Fukuoka Asian
Urban Research Center

公益財団法人 福岡アジア都市研究所

2022 年度総合研究報告書

ウェルビーイング ～新たな都市の評価に関する研究～

公益財団法人 福岡アジア都市研究所

2023 年 3 月

はじめに

2022年度、公益財団法人福岡アジア都市研究所（URC）では、新たな都市の指標という研究テーマを受け、都市の指標の変遷や指標の背景にあるものを探りつつ、これからの都市に求められる指標を検討してきた。その中で、本報告書の表題にもなっている「ウェルビーイング」という概念の、都市の指標としての可能性に焦点を絞ることとなった。

この「ウェルビーイング」という概念を都市の指標に位置づけるにあたり、最も大きな特徴は何かと聞かれれば、おそらく「主観的な評価が求められること」と答えるのではないだろうか。主観的とは、後に本論でも示すが、「自分ひとりの考え方や感じ方」に基づくことであり、それと対になるのが、客観的という「特定の個人的主観の考えや評価から独立して、普遍性をもっていること」である（いずれも広辞苑より）。

ただし、主観的な評価は、何も今初めて指標として取り入れられるわけではない。これまでも、都市の指標として、緑地へのアクセスや公共交通の利便性、住宅環境などへの満足度等において、主観評価は取り入れられてきた。では、何が従来の主観的指標と主観的ウェルビーイングの指標は違うのか。

試しに、昨年11月にリリースされた人工知能チャットボット ChatGPT に聞いてみた。それによれば、従来の主観評価は、市民サービスや政府への信頼感など個別のテーマに対する評価であったが、ウェルビーイングの主観評価は、人々の総合的な生活満足感や幸福に由来する評価である、との答えが返ってきた。他にも非常にもっともらしい例えが提示され、人工知能の博識さと貪欲な学びへの姿勢？を体感したところである。しかし、我々がこのテーマに取り組む中で感じた、従来の主観評価と主観的ウェルビーイングの最も大きな違いは、「何を良しとするのか」が決まっていないという点ではないかと思う。本論でも幾度となく、「ウェルビーイング」とは何であり、何を目指すのかという問いに答えるような思考の反復を行ってきた。

政策立案において、ゴール自体が定まっていない課題に取り組むことには、多くの困難が待ち受けるであろう。しかし、これからの社会においては、人々が何を目指し、どうアプローチするのかを互いにコミュニケーションを取りながら共に探っていく過程が求められるのではないだろうか。

また、今回、様々な人々と会話を進める中で、ウェルビーイングというカタカナをどう市民に理解してもらい、浸透させるかという課題も浮かび上がってきた。幸福と同義であると単純に説明することもできないわけではない。しかし、これまでの幸福という概念より広い概念であることは、本論の中でも述べている。ウェルビーイングという新たな響きの言葉が、新たな時代を表現し切り開くことに繋がるよう、政策を以て周知していくことが肝要であろう。

個々人の感覚や考えに依存するウェルビーイングを、政策として位置づけることは、個人のウェルビーイングを包含しつつも都市全体のウェルビーイングへと昇華させる試みとも言える。個々人の豊かさと都市の豊かさを同時に実現する方策が、今後、形になっていくことが期待される。その一端を本報告書が担えれば嬉しい。

目次

第1章	なぜいま新たな都市の指標か.....	7
1.1.	価値観の変化.....	7
1.2.	社会変化.....	9
1.3.	理想の都市像と都市評価.....	13
1.4.	新しい都市評価の希求とウェルビーイング.....	15
第2章	ウェルビーイングとは.....	19
2.1.	ウェルビーイングに関する動向.....	19
2.2.	ウェルビーイングの定義.....	20
2.3.	ウェルビーイングにまつわる議論.....	22
2.3.1.	主観と客観.....	22
2.3.2.	幸福とウェルビーイング.....	24
第3章	ウェルビーイングの評価.....	27
3.1.	評価尺度の開発.....	27
3.2.	既存の都市のウェルビーイング調査.....	30
3.2.1.	荒川区民総幸福度（GAH）.....	31
3.2.2.	熊本県県民総幸福量（AKH）.....	35
3.2.3.	Liveable Well-Being City 指標（LWCI）.....	39
3.2.4.	カナダ・ウェルビーイング指標（CIW）.....	43
3.2.5.	世界幸福度レポート（WHR）.....	46
3.3.	福岡市市民意識調査のウェルビーイング項目.....	48
3.3.1.	市政に関する意識調査.....	48
3.3.2.	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査.....	49
3.4.	意識調査へのウェルビーイングの取り入れ方の検討.....	53
3.4.1.	都市のウェルビーイング指標に必要な項目.....	53
3.4.2.	都市のウェルビーイング調査の特徴.....	54
第4章	ウェルビーイングの政策形成.....	57
4.1.	政策的フレームワーク.....	57
4.1.1.	ロジックモデルによる政策の目的と手段の関連付け.....	57
4.1.2.	過程の評価における「潜在能力」の考え方.....	58
4.1.3.	政策的プロセスとフレームワーク.....	61

4.2.	政策的フレームワークに即した運用事例	66
4.2.1.	ビジョン共有のためのウェルビーイング指標.....	66
4.2.2.	施策に紐づけられたウェルビーイング指標	69
4.2.3.	ウェルビーイング調査から事業実施へ	73
4.2.4.	ウェルビーイング調査の期待される効果.....	76
第5章	実践に向けた方策.....	79
5.1.	アンケート調査	79
5.1.1.	アンケート概要.....	79
5.1.2.	アンケートの設計	81
5.2.	ウェルビーイング×政策分野マトリックス	87
5.3.	ウェルビーイング施策の活用	88
第6章	まとめ	89
	参考文献.....	91

第1章 なぜいま新たな都市の指標か

1.1. 価値観の変化

都市の指標について論じる上で、人々の価値観の変化に注目しなければならない。現在、われわれは、大きな価値観の変化を目の当たりにしている。世界の価値観調査を率いてきたイングルハートによれば、過去30-40年の間に、経済と身体の安寧を最優先する「物質主義的」価値観から、自由選択と自己表現に重きをおく「脱物質主義的」価値観へのシフトが起こっているという⁽¹⁾。

イングルハートは、2つの段階で大きな価値観の揺れが起こっていると指摘する。まず第1に、近代化に伴い「世俗的・合理的価値観」が現れ、それによって幸福の最大化が図られた。経済成長や社会的流動性がない近代化以前の農耕社会では、人々の選択肢は限られており、かつ宗教が人々の願望を低く抑えることで幸福が実現していた⁽¹⁾。宗教や集落の中での権威が人々の心の道標となり、それに従うことで心の安寧が得られていたと言える。しかし、近代化によって生き方の選択肢が拡がり、選択肢の拡大それ自体が幸福感に寄与するようになる。その結果、宗教等の信仰のある人の方が無宗教の人より幸福であるが、非宗教的な近代国家の人々は、宗教的で近代化の遅れた国の人々より幸福である可能性が示された。つまり、幸福を最大化するうえで、近代化戦略は伝統的な戦略よりも効果的であると言えるのである。これが第一の価値観のシフト、「世俗的・合理的価値観」の現れである。

そして第2として、個人の選択において、非経済的な目標を重視するという価値観が現れる。近代化によって経済成長が進むと、平均余命や主観的幸福が上昇するが、あるポイントに到達すると、上昇が見られなくなる。そこでの合理的戦略は、経済成長を、それ自体が善であるかのように最優先し続けるのではなく、非経済的な目標をより重視していくこととなる。ただ単に経済成長から選択の自由に価値観が切り替わるというよりも、経済発展自体が自己表現重視の価値観へのシフトを促す傾向にある。例えば、ジェンダー間の平等が促進され、寛容性が増し、民主化が進展するという具合だ。

こうした価値観の変化は、世界の国・地域・宗教などで分類され、図1のように示されている。その結果、プロテスタント系のヨーロッパ諸国が世俗的・合理的価値ならびに個人の選択の自由の両方の価値観を強く持つことが示され、その対極にイスラム系アフリカ諸国がプロットされる。日本は「世俗的・合理的価値観」が極めて高く、1980年からの30年間、大きな動きが見られなかった。つまり、高い世俗的・合理的価値観をキープしつつも、「個人の選択の自由」の方向にベクトルが向かなかつた。ただし、近年になって（過去5年ほど）、「個人の選択の自由」を重視する価値観の増大傾向が確認できるようになっている。

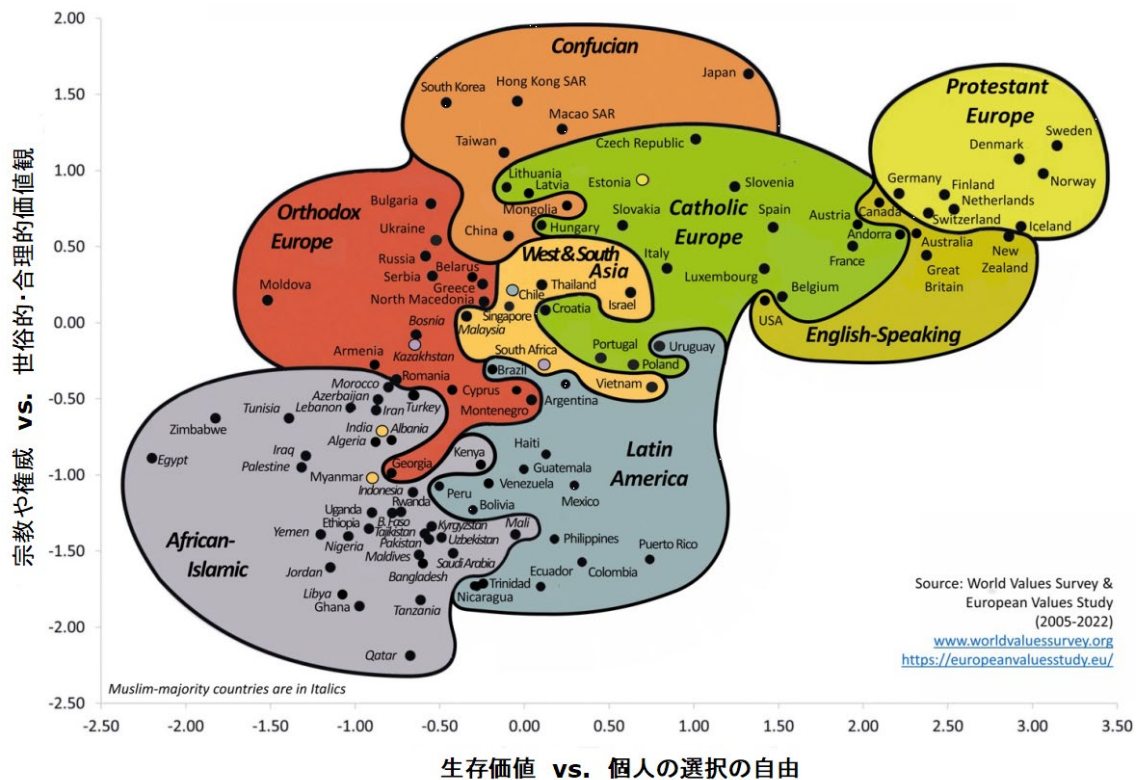


図 1 インゲルハート・ヴェルツェル図 2022

出所：https://www.worldvaluessurvey.org/WVSCContents.jsp

こうした世俗的・合理的価値観のような経済的合理性を重視する価値観から、個人の選択の自由へとシフトする流れは、さらに大きな歴史的視野で見た時代の移り変わりと重ね合わせて見ることができる。図 2 は、広井による、狩猟採集社会、農耕社会、産業化社会という生産様式の移行と、人類史から見た、人口・経済の規模の<拡大・成長>と<定常化>のサイクルを表した図である⁽²⁾。ここでは、約 20 万年前の人類誕生から拡大・成長が続き、一定期間を経た後に成熟期を迎える様子が描かれている。こうした拡大・成長と成熟・定常化は、これまで狩猟採集社会と農耕社会で 2 度繰り返されてきており、現在は、産業化社会の成長の終着地点にいるのではないかと見られている⁽²⁾。20 万年という長い人類史の中での転換期にあるという主張と、上述の合理的価値から民主化・個人の選択の自由を重視する価値観への移行が起こっているという主張は、違う側面から現在地を示しているように見える。

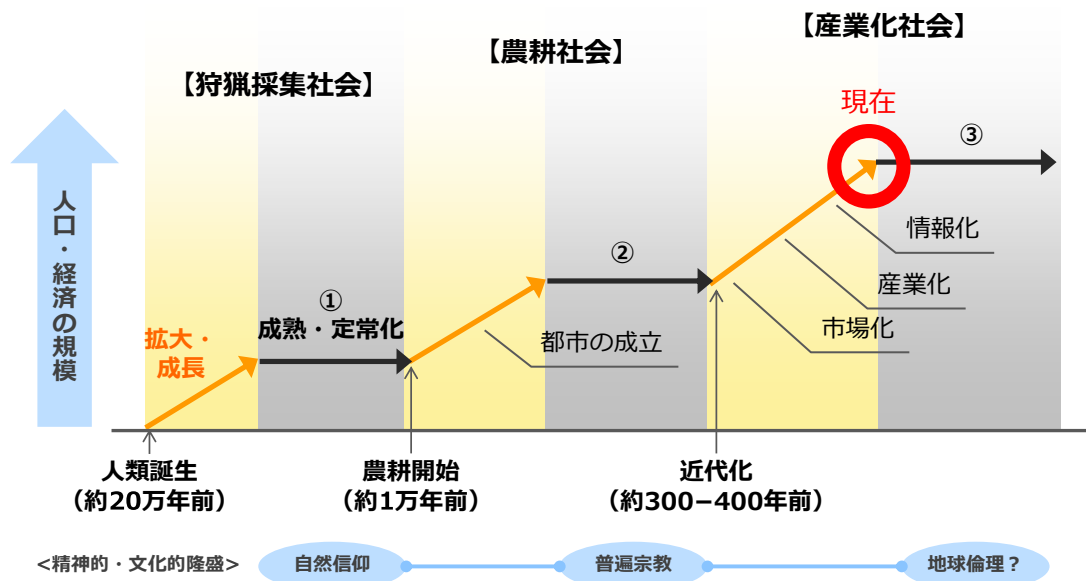


図 2 人類史における拡大・成長と定常化のサイクル

出所：広井（2021）にもとづき筆者作成

また、この転換期に見られる特徴として、精神的・文化的な隆盛というものがある⁽²⁾。狩猟採集社会の成熟期には、アニミズムなどの自然信仰が発展し、農耕社会後期においては普遍宗教の隆盛が見られた。さらに、広井は、産業化後期にあたる現代においては、これが地球倫理にとって代わるのではないかと指摘する。このように、社会の成熟は、信仰や倫理のような新たな価値観を導引することが人類史という長い時間軸の中で明らかになってきている。そして、新たな価値観の出現は、社会を評価する新たなものさしを必要としている。つまり、これまで、産業化社会の発展を測る指標として用いられてきた GDP や人口に代わる、成熟時代における新たな指標の必要性を示唆していると言える⁽³⁾。

1.2. 社会変化

都市は、社会的背景や産業化以降の様々な課題に応答する形でその理想像が描かれてきた。理想の都市像と言え、芸術、科学、数学、建築などあらゆる分野で才能を発揮したレオナルド・ダ・ヴィンチも、理想の都市構造に関する手稿を残していた。その都市像は、腸ペストの感染が猛威を奮った 1480 年代初頭のミラノにおいて、感染防止対策のためのゾーニングの発想を根底に置いた都市構造であったという⁽⁴⁾。公衆衛生の確立という理想の都市像は、その当時の（しかしコロナ禍に見舞われた現代にも通じる）時代背景を映し出した姿であった。

世界経済フォーラム（World Economic Forum：WEF）では、毎年、年次総会（通称ダボス会議）前にグローバルリスク報告書を発刊し、世界の経済的・社会的・環境的・技術的緊張から生じる主要リスクを分析している。有識者、政策立案者、産業界のリーダーらの見解を踏まえ提示される「今後10年間で起こりうる深刻なグローバルリスク」の推移を見ると、2007年の第1回当時からの17年で、経済的なリスクから異常気象や気候変動対策の失敗など環境に関連するリスクへの関心が高まってきていることがわかる（図3）。WEFの創設者であり会長を務めるクラウス・シュワブらによってまとめられた『グレート・ナラティブ』では、国内総生産（GDP）では測れないもの、例えば生物多様性や社会的一体性などを以て進歩を計測できるようになることが示唆されており⁽⁵⁾、我々を取り巻く社会・経済など環境の変化は一時的なトレンドではなく確実なものとなってきていると言える。



図3 グローバルリスク上位5位の変遷

出所：WEF グローバルリスク報告書 2020-2023 をもとに著者作成⁽⁶⁻⁹⁾

注：2021年までは「影響が大きい」グローバルリスク、2022年以降は「深刻な」グローバルリスクを示す

ではここで、都市が直面している社会・経済など環境の変化の具体例として、福岡市を見てみる。福岡市においては、多くの政令市がすでに人口減少時代に入っている中、未だ成長の途にあり2035年に人口ピークを迎えると言われている⁽¹⁰⁾。こうした福岡市の人口増を支える一因として、九州各県を源泉とする若い世代の人口流入がある。図4・図5からわかるように、主に20歳前後の就学や就職のために福岡に来る若い層がその後も一定数住み続けることで人口を支えていることが見て取れる。しかしこうした人口ボーナスが永続的に続くわけではない。2030年以降、九州・山口・沖縄の出生数減少のペースが速まり、人口減が加速するとの推計も出ており（図6）、福岡市の社会増を支える人口母体が縮小し、流入人口の鈍化が見込まれる。福岡市においても、規模的な成長の次の段階となる、成熟・定常化の時代に突入する。他方、福岡市に住む外国人人口は増加傾向にあり⁽¹¹⁾、国全体の外国人受け入れに関するシミュレーションにおいても2040年時点で2020年比291%となる可能性も示され⁽¹²⁾、今後も増加の傾向が予想される。このことから、人口は減少しつつも構成する団

体や人の多様化が予想される。

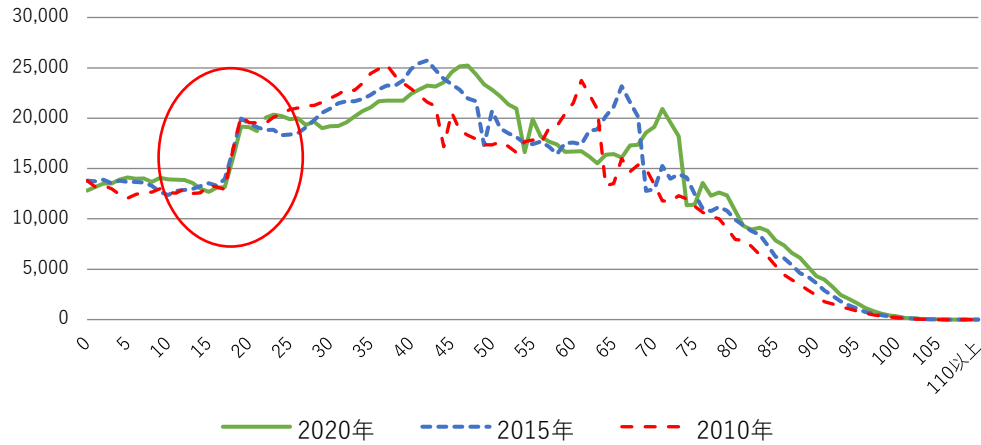


図 4 福岡市の年齢別人口動態の推移
出所：国勢調査（2010・2015・2020）をもとに URC 作成

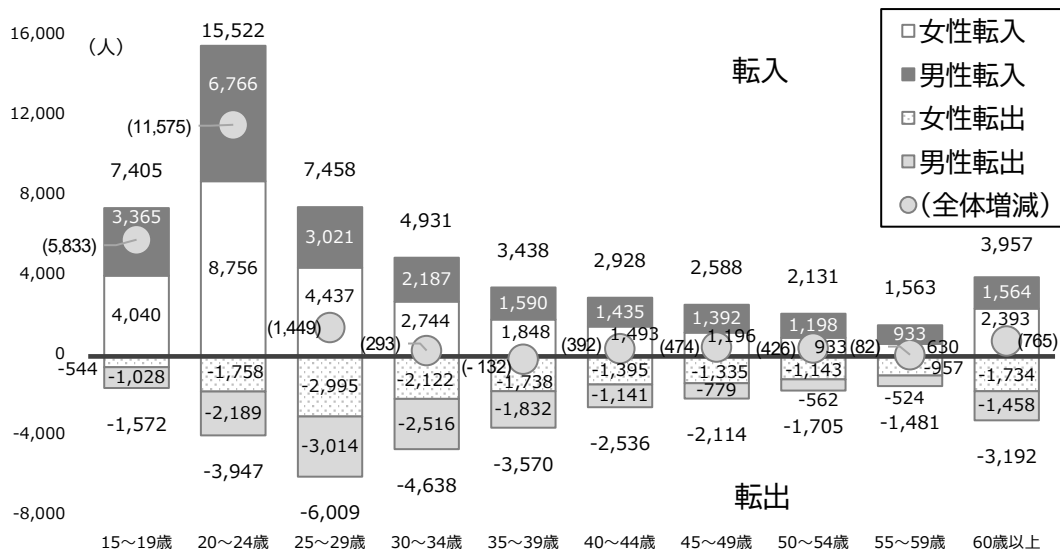


図 5 福岡県・沖縄県を除く九州6県から福岡市への性・年齢別転出入(2015-2020)
出所：国勢調査（2015・2020）をもとに URC 作成

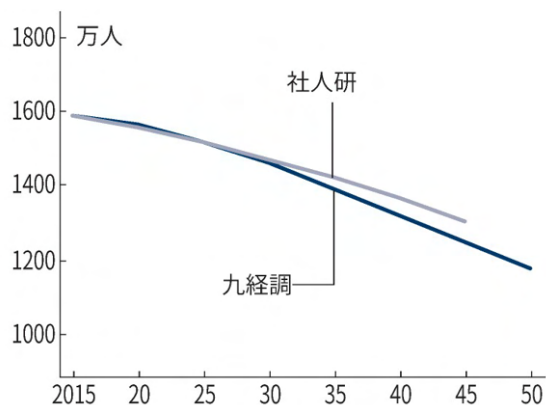


図 6 九州・山口・沖縄の将来推計人口

注：九経調の 15、20 年と社人研の 15 年は実績値、社人研は 18 年推計
出所：日本経済新聞（九州経済調査協会）

また、福岡市の都市構造をハード面で見ると、天神ビッグバンならびに博多コネクテッドという都心部の再開発が進み、都心部の高付加価値化が進むとともに、地価が上昇し、外資系企業など新たな所得層の出現が予想される（図 7）。一方で都心部周辺には、既存の建築ストックの蓄積があり、そうした既存の都市空間を新たなビル群と併せていかに有機的に活用するかという議論が挙げられている⁽¹³⁾。特定の分野の産業集積を軸にしたエコシステムの形成⁽¹⁴⁾や、情報技術の普及や感染症をきっかけにした働き方の変化から、固定のオフィス以外の空間へのニーズなど、新たな街に期待する機能や利用目的の多様化が予想される⁽¹⁵⁾。

このように、そこに集まる人や組織の多様化、活動の多様化などにより、都市の構造や都市に求める機能などを含む、都市を取り巻く環境が大きく変わってきている。

	住宅地	商業地
福岡県	2.5(1.5)	4.0(2.7)
佐賀県	0.1(▲0.3)	0.1(▲0.4)
長崎県	▲0.7(▲1.0)	▲0.4(▲0.8)
熊本県	0.2(▲0.2)	0.1(▲0.5)
大分県	0.2(0.0)	▲0.8(▲1.2)
宮崎県	▲0.4(▲0.5)	▲0.9(▲1.2)
鹿児島県	▲1.3(▲1.4)	▲1.5(▲1.8)
福岡市	6.5(4.4)	9.6(7.7)
北九州市	1.0(0.4)	2.4(0.9)
佐賀市	1.0(0.4)	1.4(0.7)
長崎市	0.0(▲0.2)	1.9(1.5)
熊本市	1.2(0.8)	1.1(0.6)
大分市	2.6(1.9)	0.6(0.1)
宮崎市	0.3(0.1)	▲0.2(▲0.3)
鹿児島市	0.0(▲0.3)	0.2(▲0.2)

※前年比%。▲はマイナス。かっこ内は21年

図 7 九州の県・都市別基準地価変動率（2022）

出所：西日本新聞（<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/990492/>）

1.3. 理想の都市像と都市評価

価値観の変化や社会・環境の変化は、人々が都市に求める姿や機能、すなわち理想の都市像に反映される。こうした理想の都市像を可視化・具現化するために、1950年代以降、都市の評価指標が開発されるようになってきた。都市の評価システムは、理想の都市像を多様な指標に落とし込み、計測・分析することで、現状評価、維持改善、施策検討、再開発、ブランディングなど多様な目的のために開発・利用されてきた⁽¹⁶⁾。上原は、近代以降の建築家や都市計画家によって提示されてきた複数の都市像を、その提唱内容から「都市構造提示型」、「都市機能誘導型」、「都市性能提示型」の3つに分類する⁽¹⁷⁾。図8に示すように、理想の都市像は、土地利用や交通体系など都市の構造や都市機能の配置に重点を置いたものから、土地利用の効率性や生活の利便性に重点を置いたものへ、そして、2000年代以降は都市の性能や性質、回復力などを重視するとともに、人間を中心とした都市デザインアプローチへと変化してきた⁽¹⁷⁾。都市のあるべき姿を捉える視点が、俯瞰的なものから生活者のスケールへと移行してきたことがわかる。

提唱年	都市像・著書名	提唱者	主な提唱内容		
			都市構造	機能配置	質的性能
1889	『明日の田園都市』	E.ハワード	○	○	
1917	『工業都市』	T.ガルニエ	○	○	
1929	『近隣住区論』	C.ペリー		○	
1934	ブロードエーカーシティ	F.L.ライト	○	○	
1935	『輝く都市』	ル・コルビジェ	○	○	
1943	機能的都市	ル・コルビジェ	○	○	
1960	『都市のイメージ』	K.リンチ			○
1973	『コンパクトシティ』	G.ダンツィグ	○	○	
1986	『持続可能な社会』	P.カルソープ			○
1987	サステイナブル・シティ	R.レジスター			○
1991	『グローバルシティ』	S.サッセン		○	○
2008	『スマート・シティ』	IBM			○
2008	『クリエイティブ都市論』	R.フロリダ			○
2010	『人間の街』	J.ゲール			○
2010	レジリエントシティ	UNISDR			○

都市や機能配置の構成美

効率的土地利用・利便性

抵抗力・回復力 | 人中心

図8 理想の都市像と視点の変遷

出所：上原直人（2016）「都市計画分野における都市像と都市性能評価指標に関する研究」 p.13-1「表1 近現代都市計画における主な都市像の変遷」をもとに筆者整理、追記

また、理想の都市像の変遷とともに都市の評価基準も変化してきた。都市の評価システムが、理想の都市像に対する既存都市の性能や達成度を相対的に評価するための仕組みとして創出されたことから、上原は、都市評価の視点や指標には、都市への期待が込められていると捉える⁽¹⁷⁾。1970年代に国際決済のオンライン化やグローバル化が進み、多国籍企業が現れ始め、1980年代以降経済活動が世界的な規模で活発になると、海外企業の誘致や観光振興における都市間競争が世界レベルで行われるようになった。このような世界的都市間競争下で、世界の都市を評価するツールが数多く開発され（図9）、理想の都市像が変化し

たように、評価の中心分野も、経済や環境、社会などの単一テーマから、都市の総合力や質を重視したより包括的なものへと変化してきている。

日本においても、1960年代からGDP（国内総生産）のような経済指標が本当に国民の豊かさや幸福を測定できているのかという議論が行われ始め、1974年に政府の国民生活審議会調査部会が「社会指標（Social Indicators：SI）」を公表し、経済指標から社会指標（健康、教育、住居、交通など社会システムの状態を評価する指標）へ重点の移行が行われた。その

公表年	評価ツール	作成主体	背景/目的	分野	評価の提示手法
1971	Prices & Earnings	UBS	価格と収益の調査	経済	ランキング
1994	Cost of Living City Rankings	Mercer	生活費の調査	経済	ランキング
1996	Urban Indicators	UN-HABITAT	サステナビリティ、居住環境	総合	データベース
1998	Quality of Living City Rankings	Mercer	生活の質	総合	ランキング
2001	Urban Indicators for managing Cities	ADB	居住問題の解決	総合	ランキング
2002	Liveability Ranking	The Economist	都市の住みやすさ	総合	ランキング
2003	Urban Audit	European Commission	生活の質	総合	データベース
2004	Worldwide Centers of Commerce Index	MasterCard	グローバル化、競争力、ビジネス都市	経済	ランキング
2005	Natural Hazard Risk Index	Munich Re	災害によるリスクの可視化	環境	ランキング
2005	Global Financial Centers Index	Z/Yen	国際競争力	経済	ランキング
2006	Top Tourism Destinations	Euromonitor	観光客数の評価	社会	ランキング
	Global City Indicators Facility	Global City Indicators Facility	都市のパフォーマンス、生活の質	経済	不明
2007	Global Age-friendly Cities	WHO	高齢化	社会	チェックリスト
	Green City Index	Siemens	サステナビリティ、居住環境	環境	ランキング
	Global Cities Index	AT Kearney	グローバル化	総合	ランキング
	Cities of Opportunity	PricewaterhouseCoopers	都市の競争	総合	ランキング
2008	Global Power City Index	森記念財団 都市戦略研究所	グローバル化、都市の競争力	総合	ランキング
	The World According to GaWC	GaWC Research Network	グローバル化、国際競争力	経済	ランキング
	Global Urban Competitiveness Report	中国社会科学院	グローバル化、国際競争力	総合	ランキング
	Global Metro Monitor	The Brookings Institution	都市の経済成長	経済	ランキング
2009	Innovation Cities Global Index	2ThinkNow Innovation Cities	革新的な都市	総合	ランキング
	LEED for Neighborhood Development	U.S. Green Building Council	環境性能の向上	総合	認証評価
	European Green Capital	European Commission	都市化、環境問題の解決	環境	自治体賞
2010	Global Cities Survey	Knight Frank	富の集中	総合	ランキング
	Office Space Around the World	Cushman & Wakefield	不明	経済	ランキング
2011	CASBEE-都市	都市の環境性能評価ツール開発委員会	サステナビリティ、環境性能の向上	総合	認証評価
	IESE cities in motion index	IESE Business School	生活の質、富の集中	総合	ランキング
2012	NUMBEO	Numbeo doc	不明	総合	データベース
	Global Cities Competitiveness Index	The Economist	都市の競争力	総合	ランキング
2015	Safe Cities Index	The Economist	都市の安全性	総合	ランキング
不明	World Metro Database	Metrobits	不明	社会	データベース

図 9 都市評価の変遷

出所：上原直人（2016）「都市計画分野における都市像と都市性能評価指標に関する研究」p. 13-2 「表 2 世界の都市性能評価ツール」をもとに筆者整理、加工

	国	国民生活	地域	個人視点
	社会指標 (SI)	国民生活指標 (NSI)	新国民生活指標 (豊かさ指標) (PLI)	暮らしの改革指標 (LRI)
作成年	1974-1984	1986-1990	1992-1999	2002-2005
目的	公害や人口集中など、高度成長の負の効果が明らかになり、 貨幣的指標への過度の依存から転換 する時であると判断された	高度成長期の終了とともに高い生活水準や価値観の変化に伴って生活様式の多様化を図る必要があった。	80年代後半、人々は豊かさを求めるようになり、そのための指標を開発する必要があった。特に東京への人口集中によって 地域の違いを捉える 必要性が出てきた。	豊かさを実現する国民の視点に立って、構造改革を見ていく必要があった。
主な特徴	非貨幣的指標が中心。価値規範指標が含まれていた。 指標は全国レベルのみ。	個人の効用 により焦点を当てた。主観的指標とともに国際比較可能な指標を追加した。 採用した指標の総数は減らされた。	個人の視点から分野を設定。構造は活動とその成果から組み立てられた。 地域の指標を導入（地域間比較）	目標は 国民の視点 から設定
指標の構造	社会目標：10分野根源的な社会的課題：27 副次的課題：77下位課題188 採用指標数：261 (1979年に更新)	①生活分野：8 採用指標数51（うち、国際比較に33） ②主観的指標11 ③課題分野：6採用指標数53	活動分野：8 生活上の価値：4 採用指標数：170（うち、地域別に139を利用）	構造改革の目標：9分野 採用指標数：41 主観的幸福度指標 (アンケート調査結果を活用)：1指標
計算方法	基準年を100とした単純平均	①変化率または分散により各指標を標準化 ②分野内は標準化した指標の単純平均	①変化率または分散により各指標を標準化 ②分野内は標準化した指標の単純平均。ただし、地域別指標は主観的満足度を使ってウェイト付けを行った。	①変化率により各指標を標準化 ②分野内は標準化した指標の単純平均

図 10 わが国の暮らしに関する指標の変遷

出所：内閣府 政策統括官（经济社会システム担当）经济社会総合研究所（2010）「幸福度に関する研究会」第1回会議資料「資料9：我が国における指標化の取組み」をもとに筆者整理

後、1986年に「国民生活指標（New Social Indicators：NSI）」が作成され、ここでは個人の効用により焦点が当たるようになった。1992年には、改訂版の「新国民生活指標（豊かさ指標）（People's Life Indicators：PLI）」が作成され、豊かさの都道府県別ランキングが公表された。しかし、客観的な指標と住民実感との乖離があるのではとの指摘があり、1999年にランキングの公表は中止されるに至った。その後、2002年の「暮らしの改革指標（Life Reform Index：LRI）」では、目標を国民視点で設定することが示され、主な指標に主観的幸福度指標が採用された。このように、社会指標へのシフトが見られる中でも、国レベルの視点から国民生活へ、そして地域の視点に、さらには主観的幸福度など個人の視点を取り入れた指標へと移行してきた（図 10）。

1.4. 新しい都市評価の希求とウェルビーイング

都市の指標は、経済や人口など規模の大きさを測る指標から、環境・社会などの社会指標により重きを置くようになり、指標自体の多様化も進んできた。社会指標においても、評価の対象は、国レベル（統計データ）の生活の豊かさから、個人の生涯にわたる豊かさ（国民視点の価値観）へと変遷してきた。

そうした指標の移り変わりの背景には、その時代時代の理想の都市像が存在する。理想の都市像は、都市や機能配置の構成美という視点から、効率的土地利用・利便性に関心が移り、そこからさらに環境汚染や災害への抵抗力・回復力を都市に求めるようになってきた。そして、産業の発展とともに自動化・機械化が進む中で、改めて都市を、構造物や技術から「人」に戻そうという動きが見られるようになる。

こうした都市像もまた、周囲の環境や社会情勢ならびに人々の価値観を反映して形成される。気候変動や生物多様性などを含む環境問題が長期的なグローバルリスクとして認識され、感染症の勃発により生活破綻など社会的課題が浮上するなど、都市が克服しなければならぬ課題は、目指す都市像に強く影響を与える。さらに我々はいま、人類史における転換点にいるという。産業化社会という人類史的な大きな1つのサイクルのピークに差し掛かっているという指摘と、物質主義的な価値観から脱物質主義的な価値観への移行が重なりを見せるのは偶然ではないだろう。産業化社会の成熟化・定常化と脱物質的・精神的豊かさを求める価値観への変化は、社会的変化とともに都市像に影響を与える。異常気象やそれに伴う災害への抵抗力・回復力を持つ都市、あるいは技術の急速な進展に飲み込まれない「人」を基点とする都市像が生まれてきた。このように、いくつもの背景・条件・リスクが重なり合った現在の状況は、都市に新たな指標が必要であることを示唆している（図 11）。

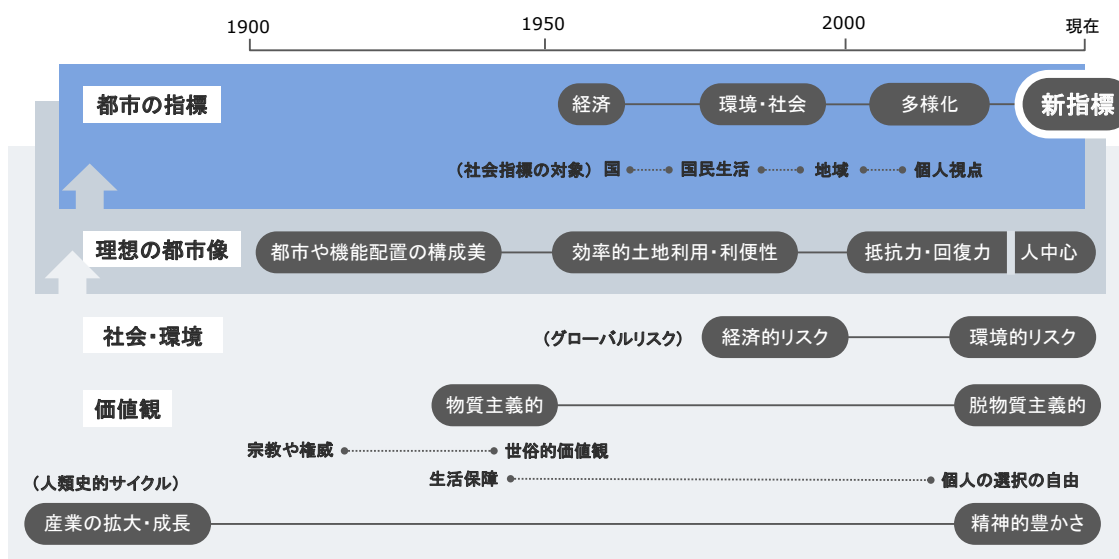


図 11 価値観と都市像の変遷

出所：URC 作成

以上のような背景から、本報告書では、価値観や都市に求めるもの（都市像）の変化を踏まえ、都市を測る新たな指標を模索する。ここでは、特定の指標群を提示するのではなく、今後の政策的反映に必要となる情報を整理し、関係者間の議論を促す素材の提供を行う。

さてここで、新たな指標を模索するうえで、政策形成における「市民」と「政策」の関係性の変化について言及しておきたい。一般化した市民を対象とする政策形成から、実存する個別具体の市民を対象とする政策形成への変化である。これまで、政策立案・形成の過程においては、統計データなど社会一般の傾向を捉える指標が参考指標として用いられてきた。データを統計的に処理することで人々の充足を測り、“人間一般”の傾向を導出してきたと言える⁽¹⁸⁾。しかし、ここまで論じてきたように、社会指標の対象が国から地域、さらには個人へと、よりマイクロな視点へと移り変わり、理想の都市像についても、都市全体の機能配置の構成美や効率的な土地利用から人中心の社会形成へと舵が切られてきた。こうしたことを踏まえると、これまでの人間一般・社会一般の傾向を捉える指標では、人を中心とした理想の都市像を反映することが難しくなってきたと言える。人間一般ではなく、実存する個別具体の人間にフォーカスをあて、主観を軸にした人々の課題やニーズに寄り添う政策形成を目指す必要がある（図 12）。

こうした動きは、2021 年、岸田文雄首相の下で発表されたデジタル田園都市国家構想で言われる、デジタル技術を用いた「供給が需要に合わせる経済」⁽¹⁹⁾の実現とも符合する。人口増加局面では需要が供給に合わせ、乗客がバス停で時刻表のバスを待っていたが、人口減少局面では、需給のリアルタイム把握により乗客の都合に合わせて車が迎えに行くことが

可能になるという。これは単にデジタル技術で実現できるサービスというだけではなく、多様な生活ニーズや価値観に寄り添ったサービスの提供が求められるという時代背景とともにある。このように、多様性や個々の価値観などの主観的評価を重視する考え方として注目されるのがウェルビーイングという概念である。ウェルビーイングは、既存の「ものさし」に代わる、人それぞれの“心”を起点とした新しい「コンパス」とも表現され⁽¹⁸⁾、人間一般ではなく個々人の福祉や幸福の実現にフォーカスを当てる考え方と言える。

個々人のニーズや価値観を重視し、経済的・規模的成長から精神的豊かさが追求されると言われるこれからの時代において、ウェルビーイングは都市の新たな指標として重要な役割を果たすのではないだろうか。次章以降、ウェルビーイングとは何か、どのような指標が存在し、政策的に適用するには何を理解しておく必要があるのかという問いに答えていきたい。

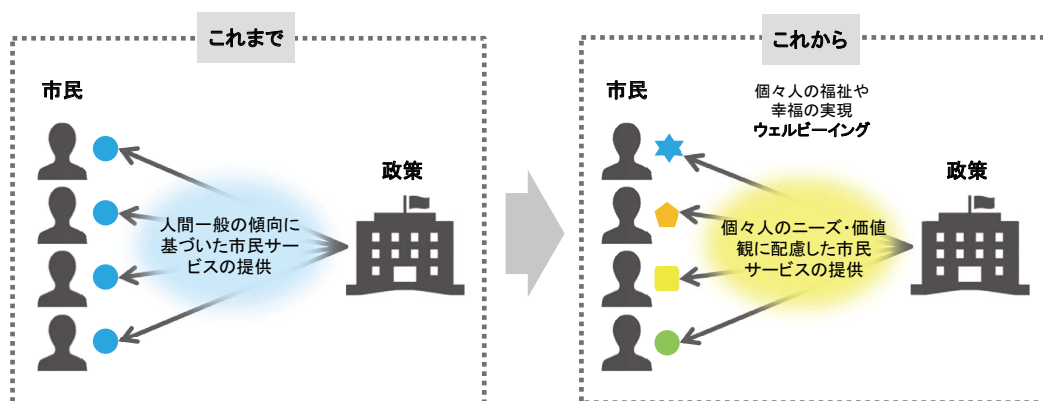


図 12 政策形成のあり方の変化

出所：URC 作成

第2章 ウェルビーイングとは

2.1. ウェルビーイングに関する動向

古来より、ウェルビーイング (well-being) あるいは幸福 (happiness) は、人間行動における最高の善であり究極の動機であると哲学者らの間で捉えられてきた⁽²⁰⁾。哲学・思想・宗教などの分野を中心に、幸福とは何かといった幸福の概念そのものについての議論が盛んに行われ、のちに、心理学、組織開発、健康、教育、経済学など科学的なアプローチに広がってきた⁽²¹⁾。

2000年代に入ると、ウェルビーイングを政策評価に取り込む動きが見られるようになる。最も知られる事例としては、ブータンが、GDP に変わる国の発展を測る指標として「国民総幸福度指標 (Gross National Happiness : GNH)」を導入したことがある。2005年から指標策定の研究が開始され、2008年の採択以降、試行錯誤を繰り返しつつ調査が実施されている⁽²²⁾。2008年には、フランスのサルコジ大統領 (当時) の諮問によって、「経済パフォーマンスと社会の進歩の測定に関する委員会 (CMEPSP)」が設立され、委員長を務めたステイグリッツ (Stiglitz) やアドバイザーのセン (Sen) らが2009年「GDPに代わる指標」に関する報告書を刊行した⁽²³⁾。同様に、英国のキャメロン首相 (当時) は、2010年、国家ウェルビーイングプログラムを設立し、経済の成長だけでなく生活の向上によって、生活水準だけでなく生活の質によって国の発展を測ることを表明した⁽²⁴⁾。

さらに、経済協力開発機構 (OECD) は、2011年に「より良い暮らし指標 (Better Life Index : BLI)」を開始し、ウェルビーイング指標の分析・公表を行うなど⁽²⁵⁾、政策的な活用を後押ししている。都市レベルにおいてもウェルビーイングを政策に取り入れる試みが進んでいる。オランダ・アムステルダムでは、ドーナツ経済が提唱され、社会的および生態学的なウェルビーイングのバランスをとる持続可能な開発のための視覚的なフレームワークが提示された。国内では、荒川区「荒川区民総幸福度 (GAH)」(2012) や熊本県「熊本総幸福量 (AKH)」(2012) などが他都市に先駆けて、ウェルビーイングの政策的適用を進めている。内閣府の「経済財政運営と改革の基本方針 2021 (2021年6月)」では、「政府の各種の基本計画等について、Well-being に関する KPI を設定する」ことが閣議決定され、政策指標としてのウェルビーイングの全国的な展開も見えてきた⁽²⁶⁾。

一方で、ウェルビーイングには確立された定義が存在せず、包括的な概念であることも手伝って、一般に理解が進んでいるとは言い難い。また、国・自治体レベルでウェルビーイングの政策的適用が進んできたとは言え、KPI の設定や政策形成の過程など、ウェルビーイングを実態として政策に活用するための体系的な知見の蓄積は見られていない⁽²⁷⁾。さらに近

年の科学的知見の蓄積により、ウェルビーイングの評価尺度に新たな考えが加わるなど(3.1にて後述)、政策的な展開には社会のダイナミズムを踏まえた検討が必要となる。

こうした背景から、本報告書では、ウェルビーイングの概念について考察するとともに、政策として展開するための指標の整理およびフレームワークの提示を目的とする。

2.2. ウェルビーイングの定義

ウェルビーイングは、単に「幸せ」と同義とみなされることが多いが、必ずしもそれだけにとどまらない。英語で Well-being と表記されるとおり、「良く在る・居る状態」に依拠する多義的な概念を理解する必要がある。また、ウェルビーイングは、「景気」や「天気」などと同じく、状態やメカニズムを説明するために人為的に構成された要素からなる「構成概念」であると説明される⁽¹⁸⁾。このため、どの要素を持ってウェルビーイングを捉えるかについては諸説あり、ここでは、代表的なウェルビーイングの定義を整理することで、概念の理解を深めていきたい。

1946年の世界保健機関（WHO）の設立に際し、「健康」が「身体的、精神的、社会的に良好な状態（Well-being）であり、単に疾病や病弱の存在しないことではない」と定義されたことにより、ウェルビーイングという言葉の認知が広がったとされる⁽²⁷⁾。

ウェルビーイングには、主観的ウェルビーイングと客観的ウェルビーイングがある(2.3.1後述)。広辞苑によれば、主観とは、「自分ひとりの考えや感じ方」であり、「主観による価値を第一に重んずるさま」を表す言葉が主観的ということとなる⁽²⁸⁾。それに対し、客観とは、「主観の作用とは独立に存在すると考えられたもの」であり、客観的とは「特定の個人的主観の考えや評価から独立して、普遍性をもっていること」とある⁽²⁹⁾。ウェルビーイングの議論においては、個人の考えや感じ方を捉えようとする主観的ウェルビーイングに注目が集まる。主観的ウェルビーイングに関する研究においては、特に精神的ウェルビーイングについての議論が多く見られる。1980年代から主観的ウェルビーイングの研究に多大な影響を与えてきたディーナー（Diener）は、人生におけるポジティブな感情とネガティブな感情の比率によって理解される快楽的要素と生活満足度によって主観的ウェルビーイングを把握できるとした⁽³⁰⁾。このように、ポジティブな感情と不快な状態の回避、すなわち、「楽しい」感情を多く経験し、「辛い」感情の経験を少なくすることが幸せであるという考え方は、快楽的幸福論、あるいはヘドニズム（Hedonism）と呼ばれる。

これに対し、リフ（Ryff）（1989）は、精神的ウェルビーイングを「人生全般にわたるポジティブな心理的機能」と位置づけ、人生の意味や自己実現など、人が機能している程度で幸福を定義しようとする。この立場は、ユーダイモニズム（Eudaimonism）と呼ばれる。リフの言うウェルビーイングは、ユーダイモニズムに基づき、個人としての成長、人生におけ

る目的、自律性、環境制御力、自己受容および他者との良好な関係の6次元で構成される⁽³¹⁾。

ヘドニズムとユーダイモニズムという考え方の違いについてはたびたび議論が交わされてきたが、さらに新たな立場を取るものも出てきている。ハパート (Huppert) (2009) は、ポジティブな感情と個人の能力・機能性の両者を組み合わせた10の特徴をウェルビーイングの構成要因とした。10の特徴とは、有能感、情緒的安定、没頭、意義、楽観性、ポジティブ感情、良好な人間関係、心理的抵抗力・回復力、自尊心、活力であり、うつ病や不安の反対の状態を定義することによって特定されている⁽³²⁾。有能感や意義などユーダイモニズムに分類される要素と、ポジティブ感情というヘドニズムと捉えられる要素の両方を持ち合わせている。

このように、ウェルビーイングの捉え方として、ヘドニズムとユーダイモニズムの大きな2つの学術的な概念が存在し、それらに対立したり、融合したりすることで補完的な知識体系を生み出してきた⁽³³⁾。

表 1 ウェルビーイングの構成要素

対象	要素
身体	・ 健康状態
個人 精神	・ ポジティブな感情の多さと不快な状態の回避 (Hedonism)
	・ 人生の意味や意義につながる持続的な幸福 (Eudaimonism)
生活	・ 経済状況、住環境、医療、仕事など
社会・場	・ 社会的つながりなど、自分と周囲の相互依存的な幸せ

出所：複数の文献をもとに URC 整理

こうした流れとは別に、ウェルビーイングの対象となるもの、つまり「誰の」あるいは「何の」ウェルビーイングなのかという視点について議論が展開されている。従来、ウェルビーイングの対象を「個」と考える、西洋的な捉え方が学術的に支持されてきた。しかしこれに対し、ウェルビーイングは、他者と分離された「個」の中のみあるのではなく、自分と他者との関係の中にも存在するということが指摘され始めた。内田は、ウェルビーイングをより包括的で、個人および個人を取り巻く「場」も含めた持続的な良き状態であると捉える⁽³⁴⁾。渡邊らは、複数のウェルビーイング理論を整理したうえで、その要因が、個人の「内」、個人と個人の「間」、さらにそれを超えた「超越的」な次元で存在することを示した。個人内の要因には、ポジティブな感情などの一時的な要因や、情緒的安定や没頭など心的状態の

継続などがあり、個人一間の要因として、他者との良好な人間関係や自尊心などに影響する相手からの評価があり、超越的な要因として、対立する A と B を超えた C という解を見出すという思考のあり方や個人を超えた視点（大局的視点）を含めた⁽³⁵⁾。

さらに、生活満足度と言う視点は、これまでウェルビーイングを測る主要な要素として捉えられてきており、内閣府の「満足度・生活の質に関する調査報告書 2022」においても、主観的ウェルビーイングの代表的な指標として生活満足度が用いられている⁽³⁶⁾。

これらのウェルビーイングの定義を整理すると、対象を個人とした場合の、身体・精神・生活に関する要素と、社会・場に関する要素が存在し、これらが総合的にポジティブな評価にある場合、ウェルビーイングな状態にあると考えられる（表 1）。

2.3. ウェルビーイングにまつわる議論

2.3.1. 主観と客観

ウェルビーイングの測定には、主観的指標と客観的指標が存在する。従来、経済的な豊かさを示す GDP などの客観的指標がウェルビーイングを反映する指標として認識されてきた。しかし、GDP の上昇が幸福感や生活満足度に結びついていないことが指摘されるようになり（図 13）⁽³⁷⁾、客観データで捉えきれない側面を主観的指標が表しているのではないかとの議論がなされるようになった。

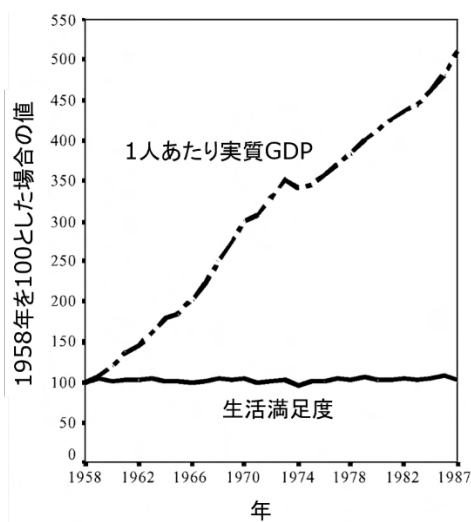


図 13 日本における幸福度と GDP の推移

出所：Diener ほか（2002）をもとに URC 翻訳

また、これまで非科学的な概念とされてきた「幸福」が、ポジティブ心理学（何が幸せに影響を与えているかを追求する学問分野）を始め、科学的なエビデンスとともに議論されるようになり、幸福度の指標化や政策的展開の可能性が生まれてきた⁽³⁸⁾。そのため、政策決定のプロセスにウェルビーイングや関連の主観指標を使用することが学術的にも後押しされるようになった⁽³⁹⁾。

従来の客観指標では社会の豊かさを捉えきれていないという指摘に加え、多様なニーズや価値観に政策側が寄り添うことが求められるという時代背景が重なり（1.4）、さらには、主観的指標の科学的な研究の蓄積がなされてきた。その他にも主観的ウェルビーイングを重視する理由として以下のことが挙げられる。自分の幸せは自分が実感して初めて「意味」を持つため、自身の状態を評価する主観がものごとを動かす、難しい仕事を与えられた時に「面倒だ」と考えるか「わくわくする」と考えるかによって結果が異なる、主観は伝播するため、主観的なウェルビーイングを達成することは、すなわち社会のウェルビーイングを支えることになる、などである⁽⁴⁰⁾。

客観的ウェルビーイングでは、客観的指標である収入や資産等を計測し、試験者がそれらを以てウェルビーイングを把握しようとする。これに対し、主観的ウェルビーイングでは、どの要素が人生のウェルビーイングに寄与するかは、試験者ではなく、回答者によって決定される⁽⁴¹⁾。つまり、人が何を基準に良い人生を測ろうとするかについて回答者の判断に頼ることで、試験者側の先入観を取り除くことができ⁽⁴²⁾、さらに、その基準における充足感についても主観的な評価が与えられる（表 2）。

表 2 主観的ウェルビーイングと客観的ウェルビーイング

	指標	値
主観的ウェルビーイング	<ul style="list-style-type: none"> 主観的幸福度、生活満足度など個人 の感じ方を反映する指標（何を基準とするかは個人に委ねられる） 	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、0 から 10 までの 11 段階評価を用いて主観的に評価した値（何をもちえいと判断するかは個人に委ねられる）
客観的ウェルビーイング	<ul style="list-style-type: none"> GDP、平均寿命など統計や社会的指標 	<ul style="list-style-type: none"> GDP、平均寿命などの値

出所：石川（2021）、Diener ほか（2018）などをもとに URC 整理

このことは、政策評価において新たな意味を投げかける。特定の施策に対して、“客観的な指標による”進捗や達成度のみならず、その取組みが個人個人の認識する課題にアプローチできているかどうか、個人個人にとってのその課題は優先度の高いものであるかを、個々の主

観的な評価によって確認するプロセスが加わるからである。これまでの客観的指標と主観的指標は相互補完的な役割を担うとされるが、今後、主観的ウェルビーイングが国家統計にも含まれるようになるのではないかとの見方もあり⁽⁴³⁾、政策的評価において重要な役割を果たすことは間違いない。

2.3.2. 幸福とウェルビーイング

ウェルビーイングは、生活満足感と同義と捉えられることが多く、内閣府の「満足度・生活の質に関する調査報告書 2022」においても、生活満足度は主観的ウェルビーイングの代表的な指標として捉えられている⁽³⁶⁾。しかし、ウェルビーイングにおいて、生活満足度は主要な指標ではありつつも全体をカバーするものではない。上述のように、ウェルビーイングは、個々人が定義し、状態を評価するという特性上、生活満足度で用いられる居住環境や収入への満足度に限らず、個々の価値観によって異なる多様な要素が影響することに留意する必要がある。

ポジティブ心理学を創設したセリグマン (Seligman) は、ウェルビーイング概念の変化を捉え、従来の幸福論 (happiness) とウェルビーイング理論の違いを次のように整理する⁽⁴⁴⁾。従来の幸福論が生活満足度を計測因子とすることに対し、ウェルビーイング理論 (セリグマンの唱える PERMA 理論) では、ポジティブな感情、没頭する体験、人生の意味や意義、達成感、周囲との良好な関係という複数の因子によってウェルビーイングを計測する (表 3)。

表 3 セリグマンによる幸福論とウェルビーイング理論の違い

	幸福論	ウェルビーイング理論
トピック	・ 幸福	・ ウェルビーイング
計測因子	・ 生活満足度	・ ポジティブな感情、没頭する体験、人生の意味や意義、達成感、周囲との良好な関係
ゴール	・ 生活満足度の向上	・ ポジティブな感情、没頭する体験、人生の意味や意義、達成感、周囲との良好な関係を増やすことで開花する

出所：Seligman (2012) をもとに URC 整理

イングルハート (2018) もまた、幸福感と生活満足度は密接に相関しており、生活満足度の上昇と幸福度の上昇は同時に起こりやすいが、両者が主観的幸福 (本稿で言う主観的ウェルビーイング) の異なる側面を反映していると指摘する⁽¹⁾。生活満足度は、経済状況など金銭的な満足との結びつきが強く、幸福感は感情的要因との結びつきが強く確認されるとい

う（図 14）。

両者を分けて考える理由は、世界価値観調査が示す長期的に観測される価値観の変化と傾向によって説明することができる。1981 年から 2007 年の世界価値観調査によれば、経済発展・民主化・社会的寛容が高まるにつれ、幸福感や生活満足感が増大する⁽¹⁾。経済発展・民主化・社会的寛容は、同時に効果が表れるというよりも、経済発展の段階と民主化・社会的寛容の 2 段階で表れる。発展の第 1 のステージとして、近代化（世俗的・合理的価値観の増大）に伴う経済発展によって主観的幸福の増大傾向が見られる。しかし、一定のポイントに達すると、経済の成長が与える影響は限定的になる⁽⁴⁵⁾。そして、そのポイントを過ぎた第 2 のステージでは、非経済的な側面（民主化・社会的寛容など）が主観的幸福に与える影響が大きくなる⁽¹⁾。前者を経済的充足の結果としての生活満足度の向上、後者を民主化等による幸福感の増大と捉えると、経済発展が一定程度進んだ国・地域では、経済的な満足度以上に、民主化・社会的寛容・自己認知・選択の自由の増大等が幸福感の増大につながる事が示唆される。

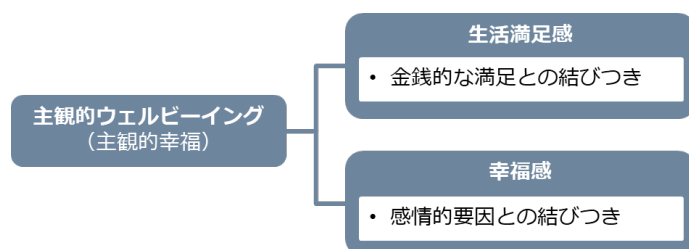


図 14 イングルハートのウェルビーイング

出所：イングルハート（2018）をもとに URC 作成

以上の通り、生活水準の上昇など物質的な満足感と、選択肢の自由などの脱物質的な要素の充足からなる幸福感によって主観的幸福が構成されているということに留意が必要である。

ただし、既存の調査や提言に関して、内容的には「ウェルビーイング」と解釈できるものであっても、「Happiness」や「幸福」が調査名や指標名として使われているものが多数あり、本報告書で取り上げる事例にもウェルビーイングに相当する複数の言葉が混在することに留意されたい。

第3章 ウェルビーイングの評価

3.1. 評価尺度の開発

主観的評価の報告には、回答者自身に幸福度や生活満足度を評定尺度で答えてもらうアンケート調査が採用されてきた。中でも、キャントリルのはしご（Cantril Ladder）と呼ばれる0から10までの11段階評価の質問は、国連の世界幸福度レポート（World Happiness Report：WHR）など多くの調査にて用いられてきた。

一方で、近年、評価尺度についての研究の進展とともに、単一尺度から多元的尺度への転換が見られている⁽⁴⁶⁾。従来、ウェルビーイングの計測には、客観的経済指標であるGDPや、現在の生活にどの程度満足しているかを自己評価する生活満足度、キャントリルのはしごのような主観的幸福度評価などの単一的尺度が用いられることが多かった。しかし、複雑な社会の全体像やウェルビーイングを構成する多様な要素を捉えるため、多次元的なアプローチへのシフトが求められている⁽²¹⁾。

ウェルビーイングの評価尺度には、感情的側面を測るものと認知的側面を測るものがある⁽⁴⁷⁾。感情的尺度は、一時点の感情に焦点を当て、喜びやワクワクなどのポジティブ感情と悲しみ・怒りなどのネガティブ感情の頻度のバランスによって計測される。ウェルビーイングの定義（2.2）で触れた、ヘドニズムの考え方との親和性が高い⁽⁴⁸⁾。また、感情的尺度は、WHRを構成する「日々の体験」と「人生の評価」のうち、前者と密接な関係があると考えられる。

感情的側面を計測する代表的な尺度として、Positive and Negative Affect Schedule（PANAS）がある（表4）⁽⁴⁹⁾。状態を表す20の表現において、現在のあなたの気分にごほどあてはまるかを、「全く当てはまらない」から「非常によく当てはまる」までの6つの段階で回答する。

一方、認知的尺度は、自己の生活に対する満足度など、自分自身や人生の状態に対する認知など、比較的長期的な状況について質問する。長期的な視点で自分自身や人生を評価するという点において、ユーダイモニズムの考え方との親和性や、WHRにおける「人生の評価」に通じると考えられる。

認知的尺度の一つに、ディーナーらによる人生満足尺度（Satisfaction with Life Scale：SWLS）がある（表5）。人生の満足感を測る単一の尺度として捉えられ、理想と現実のギャップを捉えることで満足感を測ろうとする。様々な国・地域で実施され、その信頼性や妥当性が報告されており、新たな尺度の開発の基準として用いられることも多い⁽⁵⁰⁾。

表 4 PANAS

-
- | | |
|----------|-----------|
| • 神経質な | • 苦悩した |
| • 活気のある | • やる気がわいた |
| • おびえた | • 機敏な |
| • 誇らしい | • 熱狂した |
| • うろたえた | • 恥ずかしい |
| • 恐れた | • イライラした |
| • 強気な | • 興味のある |
| • 興奮した | • うしろめたい |
| • ぴりぴりした | • 敵意をもった |
| • 決心した | • 注意深い |
-

出所：川人ほか（2012）

表 5 SWLS

-
- ほとんどの面で、私の人生は私の理想に近い
 - 私の人生は、とてもすばらしい状態だ
 - 私は自分の人生に満足している
 - 私はこれまで自分の人生に求める大切なものを得てきた
 - もう一度人生をやり直せるとしても、ほとんど何も変えないだろう
-

出所：中坪ほか（2021）

表 6 SHS

-
- 全般的に見て私は自分のことを 【非常に不幸 1・2・3・4・5・6・7 非常に幸福】 であると考えている
 - 私は自分と同年輩の人と比べて 【非常に不幸 1・2・3・4・5・6・7 非常に幸福】 であると考えている
 - 全般的に見て非常に幸福な人たちがいる。この人たちは、どんな状況の中でもそこで最良のものを見つけて人生を楽しむ人達である。あなたは、どの程度そのような特徴を持っているか
【全く持たない 1・2・3・4・5・6・7 大いに持つ】
 - 全般的に見て、非常に不幸な人たちがいる。この人たちは、うつ状態にあるわけではないのに、はたから考えるよりも、全く幸せではないようである。あなたはどの程度そのような特徴を持っているか
【全く持たない 1・2・3・4・5・6・7 大いに持つ】
-

出所：Lyubomirsky ほか（1999）

リュボミアスキー（Lyubomirsky）らの主観的幸福感尺度（Subjective Happiness Scale：SHS）⁽⁵¹⁾は、認知的側面および感情的側面の両方をカバーしつつ、SWLSと同様に単一の要因からなる4項目で主観的幸福感を計測する（表6）。日本版SHSの開発に携わる島井らは、多面的尺度の場合、幸福感という主観的経験そのものと幸福感を支える要因とが混同さ

れがちであり、これを避けるため、少数の項目からなる単一尺度の開発が必要との見解を示している⁽⁵⁰⁾。

WHOの主観的健康感尺度（Subjective Well-being Inventory：SUBI）もまた多く使用される尺度の一つである。心の健康度と心の疲労度に関する11の下位尺度からなり、認知的側面と感情的側面が含まれる（表7）。精神医療の分野で開発されたため、ストレス反応に関する質問が多いことや、心理的健康をもたらす社会的な支えについても尋ねることが特徴として挙げられる⁽⁵²⁾。

表7 SUBI

心の健康度（陽性感情）	心の疲労度（陰性感情）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人生に対する前向きな気持ち ・ 達成感 ・ 自信 ・ 至福感 ・ 近親者の支え ・ 社会的な支え ・ 家族との関係 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神的なコントロール感 ・ 身体的不健康感 ・ 社会的つながりの不足 ・ 人生に対する失望

出所：伊藤ほか（2003）

表8 IHS

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う ・ 周りの人に認められていると感じる ・ 大切な人を幸せにしていると思う ・ 平凡だが安定した日々を過ごしている ・ 大きな悩み事はない ・ 人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている ・ まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う ・ まわりの人並みの生活は手に入れている自信がある ・ まわりの人たちと同じくらい、それなりにうまくいっている

出所：Hitokoto ほか（2015）

PANAS、SHS、SUBIなどいずれの尺度も、日本版の開発が進んでおり、翻訳に留まらず、日本的な要素を踏まえた調整がなされている。こうした動きに並行して、数値が高いほどウェルビーイングであると評価する西洋的な評価尺度が、アジア的な価値観や幸福を正しく

表していないのではないかという指摘が強まり、世界的に新たな指標の開発や項目の追加が模索されている（詳細は3.2.5にて後述）。

ランバート（Lambert）らは、生活満足度等の既存の尺度に、1）自然との関係性、2）困難への対処能力、3）人生の意義、4）生活における平穏さ、5）生活のあらゆる側面におけるバランス、6）親しい他者の幸せ、7）個人の尊厳が保たれる社会、8）自由時間の充足、9）困難な課題への耐力・回復力（レジリエンス）の9項目の追加を提案し、自然や他者をも含む関係性の中におけるウェルビーイングを測ろうとしている⁽²¹⁾。同様に、一言・内田らは、個人を基本的単位とする西洋的な考えから、他者との協調の中にウェルビーイングを見出す日本の視点を含めた協調的幸福尺度（Interdependent Happiness Scale：IHS）を提示する（表8）⁽⁵³⁾。内田は、従来の欧米を中心に開発が進んできた尺度が、個人の自由と選択、自己実現、自尊心の高さ、競争の中で獲得する幸福などを中心に据える「獲得系」の幸福感が強いということを示す⁽³⁴⁾。それに対し、アジア的な考えとして、身近な他者の幸せが自身の幸せにつながるという価値観や平凡でも安定した日常に幸福を重ねる「協調系」の幸福があると指摘する。

こうした動きを受け、2022年の世界幸福度レポート（World Happiness Report 2022：WHR2022）では、初めて「バランスと調和」に注目し、バランスの取れた人生や平穏さ、他者への思いやりなどについての質問項目が追加された⁽⁵⁴⁾。

このように、ウェルビーイングの評価尺度は、単一／多次元、感情的／認知的、西洋的／アジア的などの多様な次元で、対象や目的、評価の正しさなどが模索される中で発展してきていることがわかる。ウェルビーイングの計測にあたっては、こうした動向を把握しつつ、政策等における目的を明確にして、評価尺度を設定・設計していく必要がある。

また、主観的評価尺度を用いる場合、質問項目の順序やその時々の被験者の気分などが測定値に与える影響に注意する必要がある⁽⁴²⁾。例えば、複数の大規模調査において、その日の天候が幸福度の判断に与える影響は限定的であることが確認されているが、ウェルビーイングの主観評価が直前の質問によって影響を受ける可能性は否定できない⁽⁴²⁾。

さらに、回答を得やすい被験者と回答を得にくい被験者の間で、性別や年齢層によって主観的ウェルビーイングが異なることも指摘され、主観的評価におけるバイアスの存在に留意する必要がある。

3.2. 既存の都市のウェルビーイング調査

自治体が住民のウェルビーイングを測定するために実施する調査（ウェルビーイング調査）において、どのような考えのもとで指標を定めているかを把握するために、国内外の5

つの調査、「荒川区民総幸福度（GAH）」、「熊本県県民総幸福量（AKH）」、「Liveable Well-Being City 指標（LWCI）」、「カナダ・ウェルビーイング指標（Canadian Index of Wellbeing：CIW）」、国連「世界幸福度レポート（World Happiness Report：WHR）」について考察する。

GAH 及び AKH は、国内自治体の中で比較的早い段階から開発に取り組み、政策に反映する方向性が示された上で開発された。LWCI は最も直近に全国自治体向けに開発された指標である。CIW（表 14）は、国レベルの調査として開発されたが、カナダ・トロント市のウェルビーイング測定にも活用されている。また、国連の WHR に採用されている、「ギャラップ国際世論調査」の主観指標（表 15、表 16）も、国レベルの調査ではあるが、人々の主観的ウェルビーイングを測る指標として定評がある。以上のことから、この 5 つの調査を考察対象とした。

3.2.1. 荒川区民総幸福度（GAH）

2004 年 11 月、東京都荒川区長に就任した西川太一郎氏は、「区政は区民を幸せにするシステムである」と区のドメイン（事業領域）を明確にし、翌 2005 年 11 月に「荒川区民総幸福度（GAH）」を区政の尺度として取り入れることを宣言した⁽⁵⁵⁾。

まず、若手区職員による庁内プロジェクトチームが組織され、検討会議の開催や、国民総幸福量（Gross National Happiness：GNH）の提唱で先行していたブータン王国への視察が実施された⁽⁵⁵⁾。2006 年度からは試験的に、1965 年から毎年実施している荒川区政世論調査に GAH に関する設問を加え、以降、学識経験者から助言をもらいながら毎年度、質問事項や分析方法等の模索と改善を重ねた⁽⁵⁶⁾。2009 年には、幸福度の指標化を中長期的で多角的な視点で取り組む必要性から、他の課題を含めた専門的な調査研究組織「荒川区自治総合研究所（RILAC）」が設立され、GAH に関する調査研究に本格的に取り組むこととなった⁽⁵⁷⁾。指標化に向けて、RILAC 研究員と外部専門家、区職員（総務企画部長、区民生活部長など）で構成される「GAH に関する研究会」と、荒川区の現場職員（事務職、保健師、保育士、建築職、土木職などの区職員）と RILAC 研究員で構成される「GAH に関するワーキング・グループ」の二つの組織が設置され、マクロ目線の「研究会」とマイクロ目線の「ワーキング・グループ」が相互連携しながら、区の政策・施策とリンクした指標作りを基本理念に、具体的な検討が進められた⁽⁵⁷⁾。

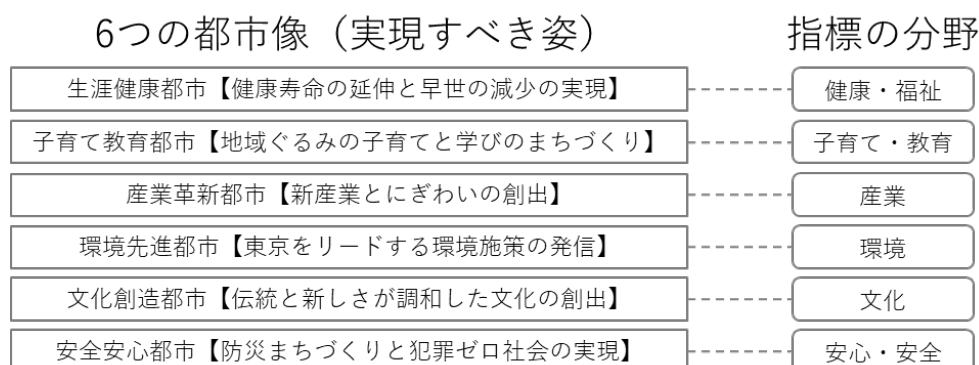


図 15 荒川区 6つの都市像に対応する GAH 指標の分野

出所：荒川区「荒川区基本構想（2007年）」、荒川区自治総合研究所「荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査研究報告（2018年）」をもとに筆者整理

検討を経て作成された GAH 指標は、区の基本構想で掲げられた 6 つの都市像に対応する、「健康・福祉」「子育て・教育」「産業」「環境」「文化」「安全・安心」の 6 つの分野にわたる 45 の指標項目と、そのすべてを総合する「幸福実感」指標の、合計 46 項目で構成される。2013 年度から毎年実施されている「GAH に関する区民アンケート調査」では、図 17 に示す 46 項目の各実感の 5 段階評価と、幸せにとって重要と思う 6 つの分野の順位付け、指標項目の分野内での順位付け、幸せや不幸・不安にまつわる考えやエピソード（自由記述）が問われ⁽⁵⁸⁾、重要度と実感度の関係分析や、年齢別、性別、世帯構成別などの属性分析が行われる。

「幸福実感」指標は、「あなたは幸せだと感じますか」の質問文によって、回答者の幸福実感そのものを尋ねている。回答は、「まったく感じない」を 1、「大いに感じる」を 5 とする 1～5 の 5 段階評価から実感に最も近いものを選ぶ形式となっており、その他の 45 指標についても同様である。

6 つの分野の、例えば「健康・福祉」分野では、運動の実施や食生活、休息に関する項目を尋ねる「体の健康」指標と、つながりや役割、安らぎを尋ねる「心の健康」指標に加え、医療機関や福祉サービスの充足感を尋ねる「健康環境」指標が設定されている（図 16）。「つながり」指標は、「孤立感や孤独感を感じますか」という、人や社会とのつながりに関わる負の実感を尋ねる質問文が設定されている。「産業」分野には、地域の景気を尋ねる「まちの産業」という指標や、「買い物の利便性」、「まちの魅力」など地域の経済活動についての項目が設定される一方で、「仕事のやりがい」、「ワーク・ライフ・バランス」、経済的安心感を把握する「生活の安定」など、回答者自身の仕事や収入に関する項目が設定されている。「生活の安定」は、「生活を送るために必要な収入を得ていくことに不安を感じますか」と

荒川区民総幸福度（GAH）指標	分野	※上位指標	※下位指標	
	幸福実感	健康・福祉	健康の実感	体の健康
心の健康				つながり★※ 自分の役割 心の安らぎ
健康環境				医療の充実 福祉の充実
子育て・教育※		子どもの成長の実感	「生きる力」	規則正しい生活習慣 「生きる力」の習得
			家族関係	親子コミュニケーション 家族の理解・協力
			子育て教育環境	子育て・教育環境の充実 地域の子育てへの理解・協力 望む子育てができる環境の充実
産業		生活のゆとり	仕事	生活の安定★ ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがい
			地域経済	まちの産業 買い物の利便性 まちの魅力
環境		生活環境の充実	利便性・ユニバーサルデザイン	施設のバリアフリー 心のバリアフリー 交通利便性
			快適性	まちなみの良さ 周辺環境の快適さ★
			持続可能性	持続可能性
文化		充実した余暇・文化活動、地域のひととのふれあいの実感	余暇活動	興味・関心事への取組 生涯学習環境の充実
			地域文化	地域への愛着 地域のひととの交流の充実 地域に頼れる人がいる実感 文化的寛容性
安全・安心		安全・安心の実感	犯罪	防犯性★
			事故	交通安全性★ 生活安全性★
			災害	個人の備え 災害時の絆・助け合い 防災性

図 16 荒川区民総幸福度（GAH）指標の体系

出所：荒川区自治総合研究所「荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査研究報告（2018年）」

注：★印は、質問文で負の実感を尋ねる項目。

将来への経済的な不安を尋ねている。この項目の回答結果は、経済的な面で将来への安心や期待を持っているかどうかを把握することもできる。また、「子育て・教育」分野の指標は、18歳未満の子どもがいる人のみが回答するように調査票に明記されており、実際に子育てをしている人の実感が反映されるように設計されている。

分野	No.	指標	質問文
健康・福祉	1	幸福実感	あなたは幸せだと感じますか？
	2	運動の実施	体を動かしたり運動したりすることができていると思いますか？
	3	健康的な食生活	健康的な食生活を送ることができていると感じますか？
	4	体の休息	体を休めることができていると感じますか？
	5	つながり★	孤立感や孤独感を感じますか？
	6	自分の役割	家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があると感じますか？
	7	心の安らぎ	心が安らぐ時間を持つことができていると感じますか？
	8	医療の充実	お住まいの地域に、安心してかかることができる医療機関（病院や薬局など）が充実していると感じますか？
	9	福祉の充実	お住まいの地域では、高齢者や障がい者への福祉が充実していると感じますか？
	10	健康の実感	心身ともに健康的な生活を送ることができていると感じますか？
子育て・教育	11	規則正しい生活習慣	お子さんが規則正しい生活習慣を身につけていると思いますか？
	12	「生きる力」の習得	お子さんが、社会で生活していく上で必要な知識や技能、社会性、体力などを身につけていると思いますか？
	13	親子コミュニケーション	親子の間でコミュニケーションがとれていると感じますか？
	14	家族の理解・協力	あなたのご家族には、子育てに関する理解や協力があると感じますか？
	15	子育て・教育環境の充実	お住まいの地域における子育て・教育に関する事業・サービス・施設など（提供しているのが、民間か行政かを問わず）が充実していると感じますか？
	16	地域の子育てへの理解・協力	お住まいの地域に、子育て家庭に対して理解し、協力する雰囲気があると感じますか？
	17	望む子育てができる環境の充実	自分が望む子育てができるような環境があると感じますか？
	18	子どもの成長の実感	お子さんが健やかに成長していると感じますか？
産業生活・産業・経済	19	生活の安定★	生活を送るために必要な収入を得ていくことに不安を感じますか？
	20	ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活とのバランスが取れていると感じますか？
	21	仕事のやりがい	仕事に、やりがいや充実感を感じますか？
	22	まちの産業	荒川区の企業（お店や工場など）は元気で活力があると感じますか？
	23	買い物の利便性	お住まいの地域での買い物 convenient だと思いますか？
	24	まちの魅力	荒川区は、区外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思いますか？
	25	生活のゆとり	経済的な不安がなく、買い物などに不便のない生活を送ることができていると感じますか？
環境生活環境	26	施設のバリアフリー	お住まいの地域の商業施設や公共施設が、バリアフリーの面から、だれもが使いやすいと思いますか？
	27	心のバリアフリー	お住まいの地域には、困っている人を見かけた時に、声を掛けたり協力したりしやすい雰囲気があると感じますか？
	28	交通利便性	お住まいの地域は交通の便が良いと感じますか？
	29	まちなみの良さ	お住まいの地域のまちなみ（景観・緑など）は良いと感じますか？
	30	周辺環境の快適さ★	お住まいの地域で、生活する上での不快感を感じますか？
	31	持続可能性	あなたは、節電やごみの減量など、地球環境に配慮した生活をしていると感じますか？
	32	生活環境の充実	お住まいの地域が、バリアフリーの状況や交通の便、まちなみの良さ、快適さ等の点から総合して暮らしやすい生活環境であると感じますか？
	33	興味・関心事への取組	興味・関心のあることに取り組むことができていると感じますか？
文化・文化・コミュニティ	34	生涯学習環境の充実	生涯にわたって学習できる環境が充実していると感じますか？
	35	地域への愛着	荒川区の文化や特色に愛着や誇りを感じますか？
	36	地域の人との交流の充実	お住まいの地域の方と交流することで充実感が得られていると感じますか？
	37	地域に頼れる人がいる実感	お住まいの地域に頼れる人がいると感じますか？
	38	文化的寛容性	お住まいの地域には、文化や言語が自分と異なる人々を理解しようとする雰囲気があると感じますか？
	39	充実した余暇・文化活動、地域の人とのふれあいの実感	充実した余暇・文化活動や地域の方とのふれあいのある生活が送れていると感じますか？
安全・安心	40	防犯性★	お住まいの地域で、犯罪への不安を感じますか？
	41	交通安全性★	お住まいの地域で、自動車や自転車などの交通事故の危険を感じますか？
	42	生活安全性★	家庭や学校・職場などで、転倒、転落、落下物などの危険を感じますか？
	43	個人の備え	災害（地震・火災・風水害）に対する備えを十分にしている安心感がありますか？
	44	災害時の絆・助け合い	災害時に近隣の人と助け合い関係があると感じますか？
	45	防災性	お住まいの地域は災害に強いと感じますか？
	46	安全・安心の実感	お住まいの地域は犯罪や事故、災害などの点から総合して安全だと感じますか？

図 17 荒川区民総幸福度（GAH）指標の質問文一覧

出所：荒川区自治総合研究所「荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査研究報告（2018年）」
注：★印は、質問文で負の実感を尋ねる項目。

3.2.2. 熊本県県民総幸福量（AKH）

熊本県県民総幸福量（AKH）は、2008年に蒲島郁夫氏が熊本県知事に就任して以降、「県民幸福量の最大化」を県政運営の中心に据えて政策が進められ、「幸福量の最大化」の見える化が必要とされるなかで開発された、県民幸福量を測る総合指標である。

2010年10月、当時の熊本県企画振興部の企画により結成された熊本学園大学の専門家構成される「くまもと幸福量研究会」は、県民の幸福実感を簡便に把握すること、そしてその把握された幸福実感が政策判断基準に用いられることを目的とし検討に取り掛かった⁽⁵⁹⁾。2008年に策定された県政運営の基本方針である「くまもとの夢4カ年戦略」(図18)に定められた「くまもとの夢の実現に向けた取組み」である4つの分野、1)人、2)誇り、3)経済、4)暮らしが、幸福要因の大きな枠組みとして捉えられ、AKHを構成する4つの分類、①夢を持っている、②誇りがある、③経済的な安定、④将来に不安がない、が設定された⁽⁵⁹⁾⁽⁶⁰⁾。そして、同じく基本方針に定められた12の戦略と、他の県民共通の幸福要素が意識されながら、各分野に3項目、合計12の項目が幸福の要因として設定された⁽⁵⁹⁾⁽⁶⁰⁾(図19)。2011年に設定された指標を使ったアンケートの試行と住民参加のワークショップが実施され、改善が施された上で、2012年度以降、「県民の幸福に関する意識調査」として、県民の主観を把握する調査が行われている⁽⁶¹⁾。

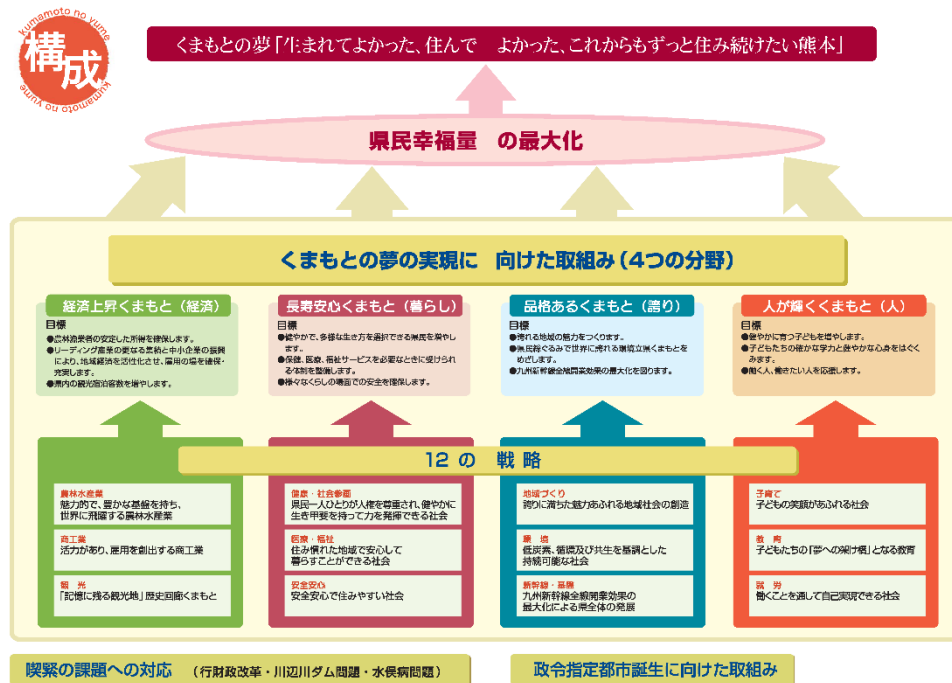


図18 「くまもとの夢4カ年戦略」の構成

出所：熊本県「くまもとの夢4カ年戦略」構成拡大図（2009）

≪AKHの構成≫

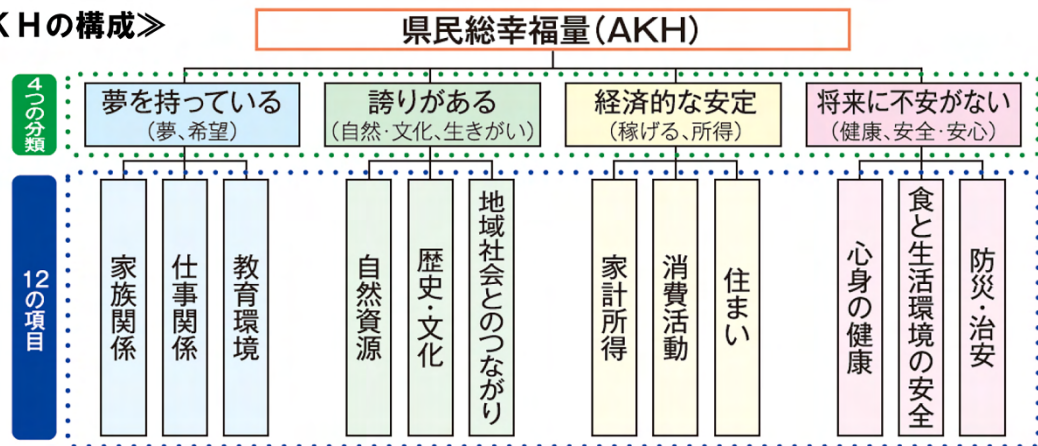


図 19 県民総幸福量 (AKH) の構成

出所：熊本県「令和3年度県民総幸福量 (AKH) に関する調査結果について」(2021)

「県民の幸福に関する意識調査」(表 9) では、まずストレートに「現在、あなたは幸せだと感じていますか」という質問で幸福度が尋ねられ、続いて、4つの分類が回答者自身の幸福にとってどれだけ重要かが尋ねられている。そして、幸福の要因として設定された12の項目それぞれについての満足度が問われる。

12の項目における設問の内容は、それぞれが分類された「夢」「誇り」「安定」「将来」と連動している。例えば、「夢を持っている」の分類に設定された項目「家族関係」では家族で叶えたいことや家族に叶えてもらいたいことの有無が尋ねられ、項目「仕事関係」では仕事や社会参加活動やボランティアなどに関わる将来の夢の有無が尋ねられ、項目「教育環境」では将来の夢の実現に向けた学習環境の有無が尋ねられている。

前述の GAH では、「あなたは幸せだと感じますか」の質問への回答で得た数値がそのまま「幸福実感度」と捉えられているが、AKH では、「あなたは幸せだと感じていますか」の質問で尋ねる「直観的な幸福度」をそのまま「県民総幸福量 (AKH)」とするのではなく、表 10 に示す方法によってスコアを算出している。

AKH が開発された当初から 2019 年度までは、12 の項目の満足度 (実感や考え) と、4 つの分類がどれだけ重視されるかの重要度 (重み付け) を掛け合わせて合計することで AKH が算出されていた。しかし近年は、アンケート回収率を上げる工夫として、設問内容の平易化が試みられ、過去 7 回の調査 (2016 年度は熊本地震により、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により調査の実施なし) によって、AKH と「直観的な幸福度」の間に相関があることが明らかとなったため、2021 年度調査では、「直観的な幸福度」から AKH を算出するようになった。

表 9 AKH アンケート調査（2013 年度県民の幸福に関する意識調査）の設問項目

問い		質問文		
1	直観的な幸福度	現在、あなたは幸せだと感じていますか。		
2	“4つの分類”のウエイト（重要度）	あなたの幸福の全体を「10」点としたとき、A～Dの“4つの分類”の重要度（どれを重視するかので合い、ウエイト）は、それぞれ何点になりますか。 A：夢を持っている B：誇りがある C：経済的な安定 D：将来に不安がない		
3	”12の項目”に対する満足度（実感や考え）	夢を持っている	家族関係	あなたは、家族で叶えたいことや、家族に叶えてもらいたいことなど、家族のことで将来の夢を持っていますか？
			仕事関係	あなたは、仕事※のことで将来の夢を持っていますか？ ※仕事……パート・アルバイトや社会参加活動、ボランティア活動などを含む
			教育環境	あなたは、将来の夢の実現に向けて学べる環境にあると感じていますか？
		誇りがある	自然資源	あなたは、地域の自然※を素晴らしいと感じていますか？ ※地域の自然……山、海、河川、森林など
			歴史・文化	あなたは、地域の歴史や文化※に誇りを感じていますか？ ※地域の歴史や文化……歴史的な建造物や史跡、伝統芸能、伝統文化、芸術文化など
			地域社会とのつながり	あなたは、地域社会とのつながり※を感じていますか？ ※地域社会とのつながり……近所づきあい、地域の行事・ボランティア活動への参加、友人・知人との交流など
		経済的な安定	家計所得	あなたは、必要な所得や収入が得られていると感じていますか？
			消費活動	あなたは、必要なモノやサービス※を購入できていると感じていますか？ ※サービス……レジャーや余暇活動を含む
			住まい	あなたは、今の住まいに快適さやゆとりを感じていますか？
		将来に不安がない	心身の健康	あなたは、こころやからだ健康だと感じていますか？
			食と生活環境の安全	あなたは、食べ物や地域の生活環境が安全※だと感じていますか？ ※地域の生活環境が安全……水や空気がきれい、土壌が汚染されていない、騒音が少ないなど
			防災・治安	あなたは、災害や防犯に対する備えができていると感じていますか？

出所：熊本県「平成 25 年度県民の幸福に関する意識調査」報告書（2013）をもとに筆者整理

2021 年度の調査は、表 11 に示す簡便な内容になり、設問数が減少した。ただ、幸せについての設問数は減ったものの、「県民の幸福に関する意識調査」という独自アンケートではなく、全 48 問で構成される「県民アンケート調査～県民生活や県の取組みに関する意識調査～」に統合されたため、全体の設問数が以前よりも多くなり、期待したアンケート回収率向上にはつながっていない⁽⁶²⁾。一方で、統合により、「県民の幸福に関する意識調査」では尋ねられていなかった、運動の頻度や防災対策の内容、環境保全活動の実施有無やその内

容など、県民の生活に関する調査結果と組み合わせて分析することが可能になった。分析は各部署の職員が必要に応じて行っているが、結果の公表はされていない。

表 10 AKH の算出方法

2019 年度までの算出方法	各項目（12 の項目）の満足度（5 段階）の平均値を算出し、分類別（4 つの分類）に合算したスコア（①満足度）と、分類のウエイト（全体を 10 とした場合にそれぞれいくつとなるか）の平均値（②ウエイト）を、分類ごとに掛け合わせた値（①×②=③）を合算した値（④AKH の値）
2021 年度からの算出方法	「直観的な幸福度」を「感じている」県民の割合（①）と、「感じていない」県民の割合（②）を、回帰式（③）に代入して算出 【令和 3 年度 AKH 算出】 ③ $AKH = 64.4079 * + 「幸福を感じている」割合（①35.4\%） \times 0.1405 * - 「幸福を感じていない」割合（②3.6\%） \times 0.2642 * = 68.4$ ※過去 7 回の調査結果から得られた係数

出所：熊本県「令和 3 年度県民総幸福量（AKH）に関する調査結果について」（2021）をもとに筆者整理

表 11 AKH アンケート調査（2021 年度）の設問項目

	質問文
1	現在、あなたは幸せだと感じていますか。
2	次の 4 つの分類について、あなたの幸福で重視する順番（1 番目に重視、2 番目に重視、3 番目に重視、4 番目に重視）をお答えください。 A：夢を持っている（家族関係、仕事関係、教育環境） B：誇りがある（自然資源、歴史・文化、地域社会とのつながり） C：経済的な安定（家計所得、消費活動、住まい） D：将来に不安がない（心身の健康、食と生活環境の安全、防災・治安）
3	現在、あなたは次の 4 つの分類について、満足していますか。 A：夢を持っている（家族関係、仕事関係、教育環境） B：誇りがある（自然資源、歴史・文化、地域社会とのつながり） C：経済的な安定（家計所得、消費活動、住まい） D：将来に不安がない（心身の健康、食と生活環境の安全、防災・治安）

出所：熊本県「2021 県民アンケート調査～県民生活や県の取組みに関する意識調査～」(2021) をもとに筆者整理

3.2.3. Liveable Well-Being City 指標 (LWCI)

一般社団法人スマートシティ・インスティテュートによって2019年から開発に取り組まれた Liveable Well-Being City 指標 (LWCI) は、政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」において地域のウェルビーイングを測る指標として採用された指標である。デジタル技術を活用した地域活性化が「人間中心主義」であることを明確にし、市民の視点による「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-being)」の数値化や可視化をまちづくりの EBPM 等に役立てることなどが開発・導入の目的として掲げられている⁽⁶³⁾。2022年から利活用が推奨されるようになった。LWCI は図 20 の体系図に示されている通り、1) 主観的幸福感指標 (心の因子)、2) 活動実績指標 (行動の因子)、3) 生活環境指標 (環境の因子) の3つの領域に分類された、5つの大きな指標群 (①地域生活の Well-being、②協調的幸福、③ActiveQoL、④センシユアス・シティ+寛容性、⑤暮らしやすさ) で構成されており、極めて網羅的な指標である。また、アンケート調査による主観指標の結果と、オープンデータをもとに測定する地域の生活環境の客観指標の結果の差を見ることで、社会的環境と住民の実感との乖離を確認できるように設計されている⁽⁶³⁾。

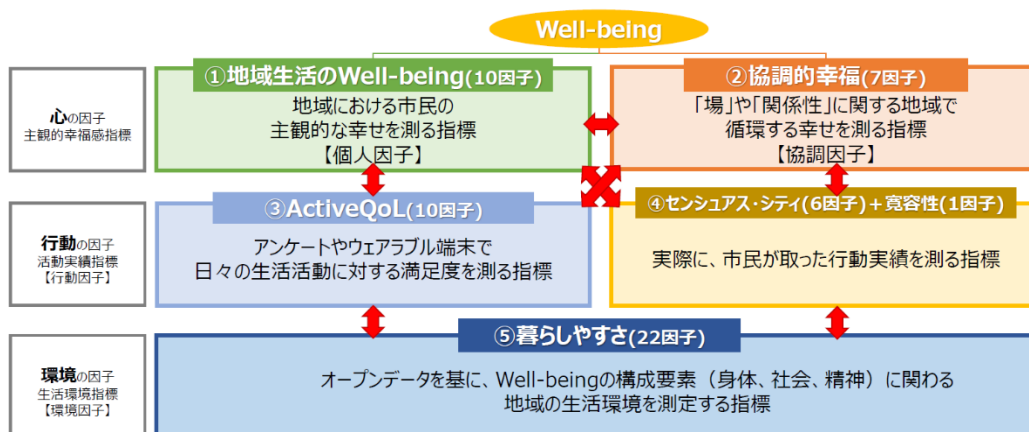


図 20 LWCI の体系図

出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「Liveable Well-Being City 指標」

「協調的幸福」は、3.1 で挙げた、一言・内田らが提示する協調的幸福感尺度の分野である。回答者自身の幸福度を尋ねる指標は GAH や AKH でも設定されているが、LWCI では、例えば、「あなたの町内 (集落) の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか」や「自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う」のように、自分だけでなく地域の人びとの幸福を尋ねる設問が設定されている。また、GAH で「孤立感・孤独感」や AKH で「地域とのつながり」が尋ねられるように、社会との関係性を問う指標が設定されているが、LWCI では「向社会的行動」指標として、「私は、ささいなことでも、町内 (集

落)の役に立つことを提案する」や「私は、見知らぬ人が困っていたら手助けをする」など、より積極的、自主的な社会行動を問う指標が設定されている。

表 12 LWCI「Well-Being アンケート調査」の分野と因子

分野	因子	分野	因子	
①地域生活の Well-being	ダイナミズムと誇り	④センシュアス・シティ +寛容性	共同体に帰属している	
	生活の利便性		機会がある	
	生活ルールの秩序		食文化が豊か	
	自然の体感		街を感じる	
	居住空間の快適さ		自然を感じる	
	つながりと感謝		歩ける	
	健康状態		寛容性	
	過干渉と不寛容		⑤暮らしやすさ	社会貢献のための寄付
	地域との相性			世代が異なる人との交流
	地域行政への信頼			テレワークで自宅勤務
地域内の社会関係資本	オンライン飲み会の実施			
②協調的幸福	地域の幸福		デジタル諸手続きの実施	
	地域の一体感(シェアド・リアリティ)		オンラインでの日用品購入	
	異質性・多様性への寛容さ		地域の介護・福祉施設サービスの受けやすさ	
	向社会的行動		あおり運転等、危険な運転の目撃	
	多世代共創		地域の暮らしの満足	
	モチベーション		移動の自由	
③Active QoL	直近1か月の●●の活動満足度		地域の自然景観	
			地域の都市景観	

出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「Liveable Well-Being City 指標」をもとに筆者整理

「センシュアス・シティ」は官能都市と訳され、不動産・住宅情報サイト運営会社の研究機関であるライフフルホームズ総研(LIFULL HOME'S 総研)が提唱した都市の魅力を測る新たな指標である。この指標では、都市の魅力を、施設の数やインフラの充実度ではなく、都市における人の活動の多様性と捉え、「〇〇した」といった活動の頻度で評価するように設定されている⁽⁶⁴⁾⁽⁶⁵⁾。例えば、「街を感じる」指標では、「街の風景をゆっくり眺めた」や「活気ある街の喧騒を心地よく感じた」などの頻度が、「自然を感じる」指標では、「木陰で心地よい風を感じた」や「空気が美味しく深呼吸した」などの頻度が、「共同体に帰属している」指標では、「馴染みの飲食店で店主や常連客と盛り上がった」や「買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ」の頻度が尋ねられている。

また、「地域生活の Well-being」分野に、生活環境や社会関係に関する項目だけでなく、「地域行政への信頼」指標として、自分の住む地域の政策への賛同や行政窓口の対応への満足度などの項目が設定されている。

表 13 LWCI「Well-Being アンケート調査」の設問項目

分野	因子	設問
① 地域生活の Well-being	ダイナミズムと誇り	暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい 暮らしている地域では、新たな発見や刺激が得られる 暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある
	生活の利便性	暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない 暮らしている地域は、医療機関が充実している 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である
	生活ルールの秩序	暮らしている地域は、路上にゴミを捨てる人が多い 暮らしている地域は、ゴミ出しや生活ルールを守らない人が多い 自宅の近辺は、騒音に悩まされている
	自然の体感	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる 暮らしている地域には、自然と向き合う喜びがある 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
	居住空間の快適さ	自宅の間取りは、使い勝手がよく快適である 自宅の外観（庭等を含む）には満足している 自宅には、心地のいい居場所がある
	つながりと感謝	暮らしている地域には、気の合う仲間や知り合いがいる 暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる 私は、近所の方に感謝することが多い
	健康状態	私は、精神的に健康な状態である 私は、身体的に健康な状態である 私は、日々の生活において、笑うことが多い
	過干渉と不寛容	暮らしている地域では、住民同士が過干渉でしがらみが多い 暮らしている地域では、少しでも変わった事をすると周りからとやかく言われる 暮らしている地域の住民は、地域外から来た人には疑いの目を向ける
	地域との相性	自宅近辺の街並みは、私の好みに合っている 暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい 暮らしている地域の時間の流れ方は、自分にあっている気がする
	地域行政への信頼	暮らしている地域の政策には、賛同できる 暮らしている地域行政は、地域のことを真剣に考えていると思う 暮らしている地域の自治体窓口（役場など）は、親切で好感が持てる
	② 協調的幸福	地域内の社会関係資本
地域の幸福		現在、あなたはどの程度幸せですか? 「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか? いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。 現在のあなたの健康状態はいかがですか? あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか? 「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点として、いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。全く分からない場合には「x」を○で囲んでください。ここでは自分の同居家族は除いて考えてください。 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う。 大切な人を幸せにしていると思う。 大きな悩み事はない。 周りの人に認められていると感じる。 平凡だが安定した日々を過ごしている。 人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている。 まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う。 まわりの人並みの生活は手に入れている自信がある。 まわりの人たちと同じくらい、それなりにうまくいっている。

	地域の一体感（シェアード・リアリティ）	この町内（集落）の人は、私の人生において切っても切れない関係にある。 この町内（集落）は、結束力のある集まりだと思う。 この町内（集落）の人々は、たいていの場合、どんな行動がふさわしいか、ふさわしくないか、みんなが同じ意見を持っている。 自分にはいろいろな良い素質があると思う。 自分のことを好ましく感じる。 私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている。 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる。 私は、町内（集落）の人と意見が対立することを避ける。 私は、自分の考えや行動が町内（集落）の他者と違っていても気にならない。 私は、自分がいいと思うのならば、町内（集落）の他の人が自分の考えを何とおもうと気にしない。
	異質性・多様性への寛容さ	私は近隣の町（集落）に住む人たちを信頼している。 私は近隣の町（集落）に住む人たちは、基本的に誠実に振る舞うと思う。 私は見知らぬ他者であっても信頼する。 ほとんどの人は、基本的に誠実に振る舞う。 この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある。 私は、町外（集落外）からやってきた人が町内（集落）に定住することは喜ばしいと思う。
	向社会的行動	私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする。 私は、必要とされれば、町内（集落）の人の相談に乗る。 私は、ささいなことでも、町内（集落）の役に立つことを提案する。 私は、町内（集落）を良くするために、今より良いやり方を思いつく。 私は、町内（集落）において、役割を果たしたり貢献できたりする、活動的な一員だ。 私は、町内（集落）において、迷惑をかけたり和を乱したりしない、協調的な一員だ。 私は、近隣の町（集落）に住む人が困っていたら手助けをする。 私は、見知らぬ人が困っていたら手助けをする。
	多世代共創	このままでは、この町内（集落）が将来、現状より悪くなってしまおうと思う。 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい。 町内（集落）が過去から受け継いできた伝統を受け継いでいくべきだ。 伝統に縛られずに、新しい文化をつくるべきだ。 町外（集落外）から、違った考え方や価値観を取り入れるべきだ。
	モチベーション	私は、失敗しないことや迷惑をかけないことを重視している 私は、成功することや新しい事を実施することを重視している
③Active QoL	直近 1 か月の●●の活動満足度	【A】直近 1 ヶ月の間に行った活動に対する平均の満足度を 5 段階で入力してください。 複数のカテゴリに当てはまる活動はそれぞれのカテゴリに含めて回答してください。 1. 仕事、2. 学業・学習・習い事、3. 病院への受診・療養、家族の介護・看護、 4. 子育て（義務教育まで）、5. 自宅外での食事、6. 買い物、7. 運動・スポーツ、 8. 遊び・娯楽、9. 地域とのつながりがある活動、10. 文化芸術にふれる活動 【B】直近 1 ヶ月の間に行った活動の状況で当てはまるものを全て選んでください。 (選択肢：A で「行ってない」と答えた活動以外の活動) 1. 自宅から徒歩圏内で行った活動、2. 通勤通学圏内で行った活動、3. インターネット やデジタルサービス等で行った活動、4. 誰かと一緒に行った活動、5. 一人で行った 活動、6. 十分な時間行えた活動、7. 短時間で行えた活動、8. 自宅のある市区町村 で行ったやや満足・とても満足に取り組めたと思う活動、9. 活動の前後の移動がやや 満足・とても満足だった活動 【C】現在行ってない活動も含めて、当てはまる項目を全て選んでください。 (選択肢：A に示す 10 活動全て) 1. 取り組むのが好きな活動、2. 取り組むのが嫌いな活動、3. 身体的・心理的課題・ 悩みを抱えている活動、4. 自宅から徒歩圏内で取組みたい活動、5. 通勤通学 圏内で取組みたい活動、6. インターネットやデジタルサービス等で取組みたい活動、 7. 誰かと一緒に取組みたい活動、8. 一人で取組みたい活動、9. 十分な時間を確 保して取組みたい活動、10. できるだけ短時間で取組みたい活動
④センシユアス・シテイ + 寛容性	共同体に帰属している	お寺や神社などにお参りをした 地域のボランティアやチャリティに参加した 馴染みの飲食店で店主や常連客と盛り上がった 買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ
	機会がある	刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した ためになるイベント・セミナー・市民講座に参加した コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した 友人・知人のネットワークで仕事を紹介された・紹介した

	食文化が豊か	庶民的な飲食店で美味しい料理や酒を楽しんだ 地元でとれる食材を使った料理を食べた 地酒・地ビールなど地元で作られる酒を飲んだ ガイドブックや口コミサイトの評価の高い飲食店で食事した
	街を感じる	街の風景をゆっくり眺めた 公園や路上で演奏やパフォーマンスしている人を見た 活気ある街の喧騒を心地よく感じた 商店街や飲食店から美味しそうな匂いが漂ってきた
	自然を感じる	木陰で心地よい風を感じた 公園や水辺で緑や水に直接ふれた 美しい青空や朝焼け・夕焼けを見た 空気が美味しくして深呼吸した
	歩ける	通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた 外で思い切り身体を動かして汗をかいた 家族と手を繋いで歩いた 遠回り、寄り道していつもは歩かない道を歩いた
	寛容性	私の暮らしている地域では、結婚して子どもを持つことこそが女性の幸福だと考える人が多い 私の暮らしている地域では、血縁者、親戚関係には何かと気を使わなければいけない 私の暮らしている地域では、若者は年長者の言うことに逆らえない空気がある 私の暮らしている地域は、LGBTQ（性的マイノリティ）には生きづらい地域だ 私の暮らしている地域では、他人の噂話が好きな人が多い 私の暮らしている地域では、長く積み上げてきたやり方やルールを変えるのに抵抗を感じる人が多い
⑤暮らしやすさ	社会貢献のための寄付	社会貢献のために寄付をした
	世代が異なる人との交流	世代が異なる人と交流した
	テレワークで自宅勤務	テレワークで、自宅で働いた。
	オンライン飲み会の実施	オンライン飲み会を行った。
	デジタル諸手続きの実施	デジタルで諸手続き（行政手続き、引っ越し、確定申告、各種契約）を行った。
	オンラインでの日用品購入	オンラインで日用品（食料品、薬、洋服、靴等）の買い物を行った。
	地域の介護・福祉施設サービスの受けやすさ	私の住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい
	あおり運転等、危険な運転の目撃	あおり運転、割り込み運転、幅寄せ等、危険な運転を見かけた。
	地域の暮らしの満足	私は、住んでいる地域の暮らしに満足している。
	移動の自由	私は、好きな時に好きな場所に移動できる
	地域の自然景観	私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある
地域の都市景観	私の暮らしている地域には、自慢できる都市景観がある	

出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「Liveable Well-Being City 指標」をもとに筆者整理

3.2.4. カナダ・ウェルビーイング指標（CIW）

カナダ・ウェルビーイング指標（Canadian Index of Wellbeing：CIW）は、1999年にカナダのアトキンソン財団が、カナダ国民の経済的、健康的、社会的、環境的ウェルビーイングを測定する必要性を認識してプロジェクトを立ち上げ、専門家と共に、住民の声を取り入れながら開発した指標である⁽⁶⁶⁾。CIWは、表14に示すように8つの分野にわたる、合計64の主観指標と客観指標で構成されている。

CIWの特徴として、時間に関する設問の割合が他の指標よりも多いことが挙げられる。例えば、「レジャー&文化」の分野で、「前日にレジャー活動に費やした時間」や「芸術・文化活動に費やした時間」、「旅行をした際の平均宿泊日数」を尋ね、「時間の使い方」の分野

で、「友人と過ごす平均時間」や「時間的プレッシャーを大きく感じるか」といった設問が設定されている。また、LWCIで「地域行政への信頼」指標が設定されていたように、CIWでも、議会に対する信頼度の高さが尋ねられている。

表 14 CIW の指標項目

分野	指標群			主観
1 地域社会の活力	社会的関与	1	地域社会への帰属意識が「やや強い」「強い」と答えた人の割合	●
		2	組織的な活動に参加していると答えた人口の割合	●
		3	一人暮らしをしている人口の割合	
	社会的サポート	4	親しい友人が5人以上いる人口の割合	●
		地域安全	5	犯罪深刻度指数
	6		暗くなってから一人で歩いても安全だと思う人口の割合	●
	社会的規範と価値観		7	自ら他人に無報酬の援助をする人口の割合
		8	多くの人／ほとんどの人を信頼できると思う人口の割合	●
		9	差別を受けたことがあると答えた人口の割合	●
2 民主的関与	市民参加	1	前回の連邦選挙で投票した有権者の割合	
		2	法律、擁護、政治団体でボランティア活動をした人口の割合	●
		3	連邦議会に対する信頼度が非常に高い、またはかなり高いと答えた人の割合	●
	政治的リーダーシップ	4	連邦議会における女性議員の割合	
		5	女性の州議会議員（MPP）の割合	
	コミュニケーション	6	国会議員が選挙区内の一般家庭に情報を送るために使用した費用の総計の割合	
3 教育	学業成績	1	教育関連の活動に参加している25歳以上の人口の割合	●
		2	25歳から64歳の人口のうち、大学の学位を持つ人の割合	
	進捗状況の測定	3	生徒の健康や福利厚生に関する進捗状況を測定している小学校の割合	
		4	市民としての能力の進捗状況を測定している小学校の割合	
		5	創造性の進捗状況を測定している小学校の割合	
		6	社会情緒的な能力の進捗状況を測定している小学校の割合	
		7	学校の学習環境に関する進捗状況を測定している小学校の割合	
	図書館	8	子ども1,000人あたりの、早期識字・早期学習プログラムの平均数	
		9	子ども1,000人あたりの、その他の子ども向けプログラムの平均数	
		10	成人人口1,000人あたりのキャリア、就職支援、技能プログラムの平均数	
		11	成人人口1,000人あたりの成人向け学習プログラムの平均数	
	チャイルドケア	12	センターに規定の保育スペースがある0歳から4歳までの子どもの割合	
		13	0歳から14歳までの子どもの1日あたりの対話型（会話中心）保育時間の平均	
4 環境	大気の質	1	地上レベルオゾン濃度（人口加重、単位：十億分率）	
		2	温室効果ガス総排出量（年間CO2メガトン）	

			3	州の GHG 排出量（年間 CO2 メガトン）に占める地域別の割合	
		水質	4	pH レベル（1 から 14 のスケールに基づいており、7 が中性）	
		廃棄物削減	5	自治体が転換した家庭ごみの総量の割合（「ブルーボックス」等を含む）	
5	健康な人口	自己申告による健康状態	1	全般的な健康状態を「非常に良い」または「素晴らしい」と評価する人の割合	●
			2	自分の精神的健康状態を「非常に良い」または「良い」と評価する人の割合	●
			3	健康上または活動上の制限がない人口の割合	●
			4	自己申告の糖尿病を持つ人口の割合	●
	健康関連行動	5	10 代（12～19 歳）における毎日または時々喫煙する人の割合	●	
		6	インフルエンザ予防接種を受けている人口の割合	●	
	健康管理へのアクセス	7	定期的に健康診断を受けている人口の割合	●	
6	レジャー&文化	レジャー参加	1	前日に社会的なレジャー活動に費やした時間の平均割合	●
			2	前日に芸術・文化活動に費やした平均時間の割合	●
			3	15 分以上の身体活動に参加した月平均回数	●
			4	過去 1 年間に文化・娯楽団体で行ったボランティア活動の平均時間数	●
			5	過去 1 年間に自宅から 80km 以上離れた場所に旅行した際の平均宿泊日数	●
	州立公園	6	人口 10 万人あたりの州立公園の数		
		7	州立公園ごとの過去 1 年間の平均来園者数（単位：千人）		
	図書館	8	過去 1 年間に行われた人口 1,000 人あたりの図書館プログラム数		
		9	人口 1 万人あたりの過去 1 年間の文化の日、詩や物語の朗読会、アートショーの開催数		
		10	人口 1,000 人あたりの、通常の週に図書館を訪れた人の数		
		11	人口 1 万人あたりの図書館のインターネット接続数		
7	生活水準	経済的安定	1	世帯の税引き後の所得中央値	
			2	低所得者層の割合	
			3	中度または重度の食糧不安を抱える世帯の割合	●
	住居確保	4	住居費が税引き前世帯収入の 30%を超える世帯の割合		
	仕事上のストレス	5	仕事上のストレスを「かなりある」または「極度にあり」と回答した人口の割合	●	
8	時間の使い方	時間	1	週に 50 時間以上働いていると答えた人口の割合	●
			2	有給で働いている人の平日の平均（往復）通勤時間（1 日あたりの分数）	●
			3	友人と過ごす平均時間（1 日あたりの分数）	●
	タイミング	4	平日に正規の労働時間を持つ労働力の割合		
		5	フレックスタイム制を採用している有給休暇取得者の割合		
	一時性	6	7～9 時間の良質な睡眠をとっていると回答した人口の割合	●	
		7	時間的プレッシャーが大きいと答えた 15 歳から 64 歳の割合	●	
○	総合的な生活満足度	ウェルビーイング	1	人生に「多少なりとも」から「大変」満足していると答えた人口の割合	●

出所：Smale, B. 「A Profile of Wellbeing in Ontario: Toronto, Waterloo, ON: Canadian Index of Wellbeing and University of Waterloo. (2016)」をもとに筆者抄訳、整理

3.2.5. 世界幸福度レポート (WHR)

世界幸福度レポート (World Happiness Report : WHR) は、国連の持続可能開発ソリューションネットワークが、ギャラップ国際世論調査のデータなどをもとに、各国の幸福度をスコア化し、3年間の平均値の国別ランキングを発表するレポートである⁽⁶⁷⁾。ギャラップ国際世論調査は、Gallup 社が、世界 150 ヶ国以上における各国 1,000 人以上を対象に実施する世界最大の世論調査である。

主観的幸福度には、3.1 で述べた「キャントリルのはしご (Cantril Ladder)」と呼ばれる評価尺度が用いられる。自分にとって最も良い生活をはしごの一番高い段 (10 段目)、最も悪い生活をはしごの最も低い段 (0 段目) とした上で、現在自分がどの段にいるかを問う質問で、理想とする状況を思い描いたり、思い出したりしながら、自分の状況を一步引いた目線で評価する項目になっている。同じく主観的幸福度を測る指標として、前日の肯定的感情と否定的感情を尋ねる項目が設定されている。肯定的感情には、笑いや楽しい、面白いなど、感情の経験を尋ねる質問のほか、「他者から敬意をもって接してもらえたか」の社会関係とリンクした質問がある。否定的感情には、体の痛みや、心配、悲しみ、ストレス、怒りなどの心の状態を問う項目が設定されている。

また、「人生の選択の自由」の指標が、「自分の人生で何をするかを選択する自由に満足しているか、不満か」という質問文で尋ねられている。これは、CIW の「時間の使い方」の項目で設定されているような、友人との時間や旅行日数の選択ではなく、学業や職業や結婚など人生における様々なアクションに関わる選択の自由があるかどうかを設定されている。

地域行政や議会への信頼は LWCI や CIW でも設定されていたが、WHR では、政府や企業で汚職が蔓延しているかが尋ねられている。

また、同レポートでは国別のウェルビーイングをランキング化しており、日本のウェルビーイングが、2012 年から 15 年までは 40 位台、16 年以降は 50 位台、20 年は 62 位、21 年は 56 位、22 年は 54 位と低いことが指摘されている⁽⁶⁸⁾。この日本の評価が低い要因の研究とともに、欧米を中心に開発が進んできたウェルビーイングの尺度が日本を含むアジア地域の幸福感を適切に把握しきれないのではないかと疑問も投げかけられるようになり⁽²¹⁾、非西洋的な価値観を取り入れた指標の開発が進んでいる。表 16 の「バランス・調和に関する調査」の項目は、日本を拠点とする公益財団法人 Well-being for Planet Earth (代表理事：石川善樹氏) の研究者たちが、2019 年から研究に取組み、新たに開発した 9 つの指標項目をもとに、Gallup 社と共同で開発した 5 つの指標である。この指標は、2020 年に初めてギャラップ国際世論調査で実際に調査され、その結果は 2022 年の世界幸福度レポート (WHR2022) に発表された⁽⁶⁷⁾。その結果、バランス、安らぎ、平穏を体験した人は、満足

度の最も高い欧米諸国に多く、貧しい国々では少なかったこと、そして、ほぼすべての国で刺激的な生活よりも穏やかな生活を望む人が多く、その割合が東洋諸国でより高いわけではないことが分かり、バランスと平穏が世界中の全ての地域で満足のいく生活に大きく影響することが明らかとなった⁽⁶⁷⁾。

表 15 国連 WHR の指標項目

	指標	設問	主観	
従属変数	1	生活の自己評価	0の段が最も低く10の段が最も高い梯子をイメージして、最も高い段があなたにとって最も良い生活、最も低い段が最も悪い生活を意味しているとした場合、あなたは現時点でどの段にいると感じるか？	●
	2	肯定的感情	あなたは昨日、十分に休息できたと感じましたか？	●
			あなたは昨日、一日中、敬意を持って接してもらえましたか？	●
			あなたは昨日、よく笑顔でいましたか、またはたくさん笑いましたか？	●
			あなたは昨日、何か面白いことを学びましたか、またはしましたか？	●
			あなたは昨日、一日のうち多くの時間、楽しいという感情を経験しましたか？	●
	3	否定的感情	昨日一日のうちの多くの時間に、あなたは体の痛みを感じましたか？	●
			昨日一日のうちの多くの時間に、あなたは心配の感情を経験しましたか？	●
			昨日一日のうちの多くの時間に、あなたは悲しみの感情を経験しましたか？	●
			昨日一日のうちの多くの時間に、あなたはストレスの感情を経験しましたか？	●
昨日一日のうちの多くの時間に、あなたは怒りの感情を経験しましたか？			●	
独立変数	1	一人あたり GDP (対数)	国内総生産 (国際ドル表示購買力平価 (PPP) を 2017 年国際恒常ドルに調整したもの)	
	2	社会的な支援	あなたが困っている場合、いつでも助けてくれる親戚や友人がいるか？	●
	3	健康寿命	平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間	
	4	人生の選択の自由	自分の人生で何をするかを選択する自由に満足しているか、不満か？	●
	5	寛容さ	過去1ヶ月間に慈善団体に寄付をしたことがあるか？	●
			(政治的・社会的) 腐敗の認識	汚職は政府全体に蔓延しているか？
		企業の中で汚職が蔓延しているか？	●	

出所：国連 Sustainable Development Solutions Network 「World Happiness Report 2022」、Gallup 「Gallup Global Emotions 2022 Report」をもとに筆者抄訳、整理

表 16 国連 WHR 2022 「バランス・調和に関する調査」の指標項目

	指標	設問
1	バランス	あなたの人生の様々な側面は、総じてバランスが取れていると感じますか、それとも感じませんか？
2	安らぎ	総じて、あなたは自分の人生に安らぎを感じていますか、それとも感じませんか？
3	平穏さ	昨日、一日の多くの時間、次のような感情を経験しましたか？ [一連の感情が質問文に続く...] 平穏さはどうですか？
4	平穏さに対する意向	刺激的な生活と穏やかな生活のどちらを送りたいですか？
5	自己と他者の優先順位付け	人は自分自身のケアと他人のケアのどちらに重点を置くべきだと思いますか？

出所：国連 Sustainable Development Solutions Network 「World Happiness Report 2022」、「Gallup Global Emotions 2022 Report」をもとに筆者抄訳、整理

3.3. 福岡市市民意識調査のウェルビーイング項目

福岡市においても、福岡市市長室広聴課による「市政に関する意識調査」や、福岡市総務企画局企画調整部による「福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」が毎年実施され、市民の意識や生活実態の統計的な把握が試みられている。どちらも市政についての意見や評価を問うものであり、ウェルビーイングに特化した調査ではない。しかし、2.3.2 で述べたように、主観的ウェルビーイングは生活満足度と密接な関係にあることから、両意識調査における生活満足度に関連する項目や要素を確認する。

3.3.1. 市政に関する意識調査

1976 年度より継続的に調査されている福岡市の「市政に関する意識調査」は、住民基本台帳から無作為抽出法によって選ばれた福岡市内に居住する満 18 歳以上の市民 4,500 人を対象に毎年度 1 回、福岡市市長室広聴課によって実施されるアンケート調査である⁽⁶⁹⁾。調査項目は、大きく三つ設けられている。一つは「福岡市の住みやすさ」についてであり、残りの二つは、毎年度必要に応じて施策テーマが設定される。2021 年度調査では、「博物館」と「福岡・博多の伝統工芸品」が設定された。

「福岡市の住みやすさ」に関する設問項目（表 17）には、福岡市は住みやすいと思うかを問う質問や、自然の豊かさ、交通の便、物価の安さ、芸術・文化の水準など生活全般に関わる利便性や選択肢に対する満足度などを尋ねる項目がある。これらは、生活満足度を測る項目のため、市民のウェルビーイングを測る指標になり得る。また、「福岡市で暮らす人や福岡市を訪れる人のために何か役に立ちたいと思うか」という設問で、他者への貢献の意欲を尋ねている。他者への貢献などの利他的行動と幸福感の因果関係は国内外の実証実験でも確認されており⁽⁷⁰⁾、意欲のみならず実際に行動しているかを把握することは、課題の発掘につながる可能性がある。

例えば、人のために何か役に立ちたいと思っている人に対し、実際に役に立つ行動を行っているか、それはどのような行動か、またその頻度はどれくらいかなどの「行動」の有無を追加で尋ねたうえで、思考（意欲）と行動にギャップがある場合には、行動を抑制している要因を探り、対策を考えることができる。実際に、福岡市民マラソンや世界水泳選手権福岡大会開催時のサポート・ボランティアに多くの人に応募する。人のために何か役に立つことが、地域活動への参加だけではなく、市内で開催されるお祭りやスポーツイベントへのボランティア参加、街中で困っている見知らぬ他者への心遣いなどであることが分かった場合、それぞれの行動を阻害する要因を探ることも可能になる。

表 17 「福岡市の住みやすさについて」の設問項目一覧

設問項目	
1	福岡市が好きか
2	福岡市は住みやすいと思うか
3	福岡市にずっと住み続けたいと思うか
4	福岡市で暮らす人や福岡市を訪れる人のために何か役に立ちたいと思うか
5	福岡市の都市環境などに関する満足度
	(1) 自然環境の豊かさ
	(2) 住宅事情
	(3) 交通の便
	(4) 買い物の便利さ
	(5) 物価の安さ
	(6) 新鮮でおいしい食べ物の豊富さ
	(7) 芸術・文化水準
	(8) 教育環境
	(9) 子育てのしやすさ
	(10) 就業機会の多さ
	(11) 医療機関の充実
	(12) 福祉の充実
	(13) 人の親切や人情味
	(14) 地域住民の連帯感の強さ
	(15) 自然災害の少なさ
	(16) 犯罪の少なさ
	(17) 市民のマナー
	(18) レジャー・レクリエーション施設の充実

出所：福岡市市長室広聴課「令和3年度市政に関する意識調査報告書(2022年)」をもとに筆者整理

3.3.2. 福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査

「福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」は、「市政に関する意識調査」と同様に、住民基本台帳から無作為抽出法によって選ばれた福岡市内に居住する満18歳以上の市民4,500人を対象に、福岡市総務企画局企画調整部によって実施されるアンケート調査である⁽⁷¹⁾。調査の目的は、その結果を「福岡市基本計画」に定められた成果指標の一部として用いるために、市民の意識や生活実態を統計的に把握することである⁽⁷¹⁾。福岡市基本計画における成果指標とは、「基本計画に掲げる分野別目標（8つの目標）の実現に向けて取り組んでいく『施策』の成果を把握していくための指標」である⁽⁷²⁾。

2021年度調査の設問項目は、「健康」や「子育て」、「公園」、「農林水産」など19の分野ごとに回答者の「実感」、「考え」、「行動」、「(行政の取組みの)認知状況」を尋ねる設問で構成されている。「健康」分野では、喫煙や食生活など健康に関わる生活習慣や、健康そのものの実感が尋ねられている。「福祉」や「人権」の分野では、障がいのある人や子ども、高齢者、女性、外国人などが尊重されて暮らしやすいまちかどうかの認識が尋ねられている。

「自然環境、景観」分野では、地域の緑について、身近な公園の緑、道路の緑、河川や池の緑などが豊かであると感じるかどうか尋ねられている。「日々の暮らしについて」の分野

で、「日々の暮らしに、喜びや楽しみを感じているか」、「日々の暮らしの中で、「居場所」と思える場所があるか」が尋ねられている。また、フェイスシート（統計的に分析するために個人の性別や年齢を尋ねるセクション）では、近所づきあいの程度が尋ねられている。健康、福祉、人権、自然環境や景観、日々の暮らし、近所づきあいは、いずれもウェルビーイングを測る指標に関連する分野である。

表 18 「令和 3 年度福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」の設問項目

分野	設問	主観
健康	自分の「適正体重」を知っていますか。	行動
	1日の中で合計30分以上のウォーキング（早歩き）をしていますか。	行動
	朝食を毎日食べていますか。	行動
	たばこを習慣的に吸っていますか。	行動
	他人のたばこの煙にさらされることがありますか。	行動
	年に1回健康診断を受けていますか。	行動
	いろいろなことを総合して、あなたは、毎日、意識的に健康づくりに取り組んでいると思いますか。	実感・考え
	あなたは、日頃健康であると感じていますか。	実感・考え
福祉	あなたは、福岡市は障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じていますか。	実感・考え
	あなたは、地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちになっていると思いますか。	実感・考え
	あなたは、福岡市は「安全・安心のための社会環境整備」ができていますか。	実感・考え
子育て	地域には、乳幼児と親が自由に集える場がある	実感・考え
	病気や育児疲れの時に、子どもを預けることができる身近なサービスが充実している	実感・考え
	地域の小中学生は、様々な遊びや体験学習活動をする場や機会に恵まれている	実感・考え
	地域の小中学生は、違う学年の子どもや、大人、お年寄りなど、様々な年代の人と交流をする機会に恵まれている	実感・考え
	学校の取組みの周知や施設の開放など、学校と地域の意志疎通や連携は十分である	実感・考え
	子どもや子育て支援に関する様々な情報提供や相談機能が充実している	実感・考え
	地域に、子どもに声をかけたりあいさつをしたり、また悪いことをした時にしかってくれるなど、子育てを見守ってくれる人が多くいる	実感・考え
	いろいろなことを総合して、福岡市は子育てがしやすいと思いますか。	実感・考え
安全・安心	あなたの地域は、防災対策が充実していると感じていますか。	実感・考え
	福岡市には災害に備えて、校区等を単位として「自主防災組織」が作られています。あなたは、このような組織があることを知っていますか。	認知状況
	（前の質問で「知っている」と回答した方へ）あなたは、自分が住んでいる地域の自主防災組織の活動に実際に参加したことがありますか。	行動
	あなたの地域は犯罪の少ない安全なまちだと思いますか。	実感・考え
	あなたは、日頃から商品やサービスの購入に際して、トラブルを避けるための注意を心がけていますか。	行動
	あなたの地域のマナーについて、自動車の違法駐車はない、と感じる	実感・考え
	あなたの地域のマナーについて、自動車の運転マナーが良い、と感じる	実感・考え
	あなたの地域のマナーについて、放置自転車が少ない、と感じる	実感・考え
	あなたの地域のマナーについて、自転車の運転マナーが良い（歩行者に対して配慮がある）、と感じる	実感・考え
	あなたの地域のマナーについて、ごみや空き缶・タバコのポイ捨てはない、と感じる	実感・考え
	あなたの地域のマナーについて、ごみ出しのルールが守られている、と感じる	実感・考え
あなたの地域のマナーについて、近隣への騒音に配慮がある、と感じる	実感・考え	

	あなたの地域のマナーについて、ペット飼育のマナーが守られている、と感じる	実感・考え
	あなたの地域のマナーについて、公共交通機関の乗車マナーが良い、と感じる	実感・考え
	いろいろなことを総合して、福岡市では、マナーやルールが守られていると思いますか。	実感・考え
	あなたは、ふだんからモラルやマナーを大切に行動していますか。	行動
コミュニティ	あなたは、この2年間において、お住まいの地域（町内から小学校区程度の範囲）で、住民が主体となって行っている活動（地域活動）に参加したことがありますか。	行動
	福岡市では、生涯学習や地域コミュニティづくりの場として、小学校区ごとに公民館を設置しています。あなたはこの1年間にどの程度あなたの地域の公民館を利用しましたか。	行動
NPO・ボランティア	あなたは、過去5年間に、NPO※やボランティア活動に参加した経験がありますか。	行動
学校教育	お住まいの校区にある小・中・特別支援学校の教育活動について、全体的に満足していますか。	実感・考え
文化芸術	文化芸術活動について、最近（この1年間に）鑑賞したものはありますか。（ただし、テレビ・CD・ビデオなど自宅での鑑賞は除きます。） 選択肢：1. 音楽（コンサートなど。ただし、選択肢10.古典芸能、11.郷土芸能は除く）、2. 美術（写真、工芸などを含む）、3. 演劇（ミュージカル、芝居など）、4. 演芸（落語、講談、漫才など）、5. 洋舞（バレエ、創作ダンスなど）、6. 邦舞（日本舞踊、民舞など）、7. 生活文化（生け花、お茶など）、8. 映画、9. 文芸（小説・詩歌の講演会、朗読会など）、10. 古典芸能（歌舞伎、能・狂言など）、11. 郷土芸能（神楽、太鼓など）、12. その他、13. 最近1年間に鑑賞したものはなし	行動
	文化芸術活動について、最近（この1年間に）活動したものはありますか。（体験ワークショップへの参加等も含みます。） 選択肢：1. 音楽（コンサートなど。ただし、選択肢10.古典芸能、11.郷土芸能は除く）、2. 美術（写真、工芸などを含む）、3. 演劇（ミュージカル、芝居など）、4. 演芸（落語、講談、漫才など）、5. 洋舞（バレエ、創作ダンスなど）、6. 邦舞（日本舞踊、民舞など）、7. 生活文化（生け花、お茶など）、8. 映画、9. 文芸（小説・詩歌の講演会、朗読会など）、10. 古典芸能（歌舞伎、能・狂言など）、11. 郷土芸能（神楽、太鼓など）、12. その他、13. 最近1年間に鑑賞したものはなし	行動
スポーツ	あなたは、過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがありますか。	行動
	あなたは、スポーツをどの程度行いますか。（ウォーキングやストレッチなど自らの楽しみや健康増進などを目的に行う運動を含みます。）	行動
	福岡市にはスポーツをする場や参加する機会が身近にあると思いますか。（前の質問と同様に、ウォーキングなどを含みます。）	実感・考え
	あなたは、スポーツをどの程度見ますか。（現地観戦だけでなく、テレビ視聴などを含みます。）	行動
	福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれていると思いますか。	実感・考え
人権	福岡市全体で考えた場合、同和地区の人々の人権は尊重されていると思う	実感・考え
	福岡市全体で考えた場合、女性の人権は尊重されている、と思う	実感・考え
	福岡市全体で考えた場合、子どもの人権は尊重されている、と思う	実感・考え
	福岡市全体で考えた場合、高齢者の人権は尊重されている、と思う	実感・考え
	福岡市全体で考えた場合、障がい者の人権は尊重されている、と思う	実感・考え
	福岡市全体で考えた場合、外国人の人権は尊重されている、と思う	実感・考え
	福岡市全体で考えた場合、HIV感染者やハンセン病患者など疾病をもつ人やその家族の人権は尊重されている、と思う	実感・考え
	いろいろなことを総合して、福岡市では一人ひとりの人権が尊重されていると思いますか。	実感・考え
男女共同参画	「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたのご意見をおうかがいします。	実感・考え
自然環境、景観	あなたは、「生物多様性」という言葉を理解し、その保全を意識して行動していますか（自然環境の保全活動への参加、野鳥観察などの自然体験、地産地消などを含む）。	認知状況と行動
	福岡市全体の景観を考えた場合、福岡市の街並みは、史跡や社寺など歴史的な財産に配慮している、と思う	実感・考え

	福岡市全体の景観を考えた場合、福岡市の街並みは、建築物や広告物の調和がとれている、と思う	実感・考え
	あなたの地域の緑について、身近な公園の緑が豊かである、と感じる	実感・考え
	あなたの地域の緑について、道路の緑（街路樹）が豊かである、と感じる	実感・考え
	あなたの地域の緑について、河川や池の緑が豊かである、と感じる	実感・考え
	あなたの地域の緑について、山林の緑が豊かである、と感じる	実感・考え
	あなたの地域の緑について、公共施設の緑が豊かである、と感じる	実感・考え
	あなたの地域の緑について、民有地（宅地・オフィスビルのまわりなど）の緑が豊かである、と感じる	実感・考え
	いろいろなことを総合して、あなたの地域は5年前と比べて緑が豊かになったと思いますか。	実感・考え
公園	地域の公園について、身近なところに公園がある、と感じる	実感・考え
	地域の公園について、樹木や花壇の手入れがよい、と感じる	実感・考え
	地域の公園について、ごみが散らかっていない、と感じる	実感・考え
	地域の公園について、照明やベンチなどが整備されている、と感じる	実感・考え
	地域の公園について、道具や設備の安全性に不安はない、と感じる	実感・考え
	地域の公園について、子どもが安心して遊べる、と感じる	実感・考え
	いろいろなことを総合して、あなたは地域の公園に親しみを感じますか。	実感・考え
公共交通	あなたは、福岡市のバスや鉄道などの公共交通が便利だと思いますか。	実感・考え
都心部の魅力	あなたは、「福岡都心部」（天神、博多駅、ウォーターフロント（中央・博多ふ頭）を中心として、東は御笠川、南は百年橋通り、西は大正通りに囲まれたエリア）は、賑わいがあり訪れたいような魅力があると感じていますか。	実感・考え
農林水産	福岡市の農林水産業にとって、食料の安定供給は大切だと思う	実感・考え
	福岡市の農林水産業にとって、安全で新鮮な農林水産物の供給は大切だと思う	実感・考え
	福岡市の農林水産業にとって、担い手の育成・確保は大切だと思う	実感・考え
	福岡市の農林水産業にとって、都市と農山漁村との交流の推進は大切だと思う	実感・考え
	福岡市の農林水産業にとって、心身にやすらぎを与える田園風景や沿岸域の保全は大切だと思う	実感・考え
	福岡市の農林水産業にとって、漁場である博多湾の環境保全は大切だと思う	実感・考え
	福岡市の農林水産業にとって、地産地消は大切だと思う	実感・考え
	いろいろなことを総合して、福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思いますか。	実感・考え
計画の共有について	福岡市では、平成25年6月に新たな「総合計画」（福岡市の将来の健全な発展を促進するために策定する市政の総合的計画のことで、「基本構想」（平成24年12月策定）、「基本計画」（平成24年12月策定）、「実施計画」（政策推進プラン）（平成25年6月策定）の3つで構成されている）が完成しました。この総合計画の認知度などについておたずねします。	認知状況
	（前の質問で「知っている」と回答した方へ）その情報をどこで知りましたか。	認知状況
SDGs（持続可能な開発目標）	「SDGs」（「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために、2015年の国連サミットで採択された、2030年を期限とする17の国際目標）という言葉聞いたことはありますか。	認知状況
	（前の質問で「聞いたことがある」と回答した方へ）SDGsの意味を知っていますか。	認知状況
日々の暮らしについて	あなたは、日々の暮らしに、喜びや楽しさを感じていますか。	実感・考え
	あなたは、日々の暮らしの中で、「居場所」（自宅や学校、職場など、日々の生活の中で、居心地がいいと感じる場所）と思える場所がありますか。	実感・考え
	（前の質問で「そう思う」と回答した方へ）居場所と思える場所はどこですか。	実感・考え
<フェイスシートの項目より>	あなたは普段、近所づきあいをどの程度されていますか。	実感・考え

出所：福岡市総務企画局企画調整部「令和3年度福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」調査票(2021年)をもとに筆者整理

3.4. 意識調査へのウェルビーイングの取り入れ方の検討

3.4.1. 都市のウェルビーイング指標に必要な項目

新型コロナウイルス感染症の世界的流行を契機に、改めて「人間中心のまちづくり」を軸とするウェルビーイングの追及が世界中で目指されるようになった。「生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す」ことを都市経営の基本戦略として掲げる福岡市も⁽⁷³⁾、2021年11月に開催された福岡都心再生サミットⁱにおいて高島市長が「ウェルビーイング」を新たなまちづくりのプロトコルとして実装することに言及し⁽⁷⁴⁾、2022年4月、働く人のウェルビーイングの向上とSDGsの達成に取り組む事業者等を応援する「福岡市 Well-being&SDGs 登録制度⁽⁷⁵⁾」を発表した⁽⁷⁶⁾。市は、現在、395事業者（2023年2月時点）をホームページ上で紹介している⁽⁷⁷⁾。また2022年9月には、職員の勤務と勤務の間に十分な休息を確保することで、生産性と健康の好循環社会の創出を目指す「職員の11時間の勤務間インターバル」と、男性職員が育児休業を100%取得できる職場づくりを目指す「男性職員の育児休業100%」を宣言する⁽⁷⁸⁾など、ウェルビーイングに関わる取組みを打ち出している。取組みが進められるにつれ、意識調査の結果である市民の生活満足度（主観的ウェルビーイング）に関する項目の向上を目指すことが想定できる。

では、主観的ウェルビーイングを把握するために必要な要素は何か、3.2で挙げた5つのウェルビーイング調査と福岡市の2つの意識調査の比較によってみえてきた、ウェルビーイング指標に必要なと思われる項目を表19に整理する。分野については、福岡市の意識調査で設定されている分野（「安全・安心」、「健康」「福祉」など）をもとに、WHRの「やすらぎ」やLWCIの「センシュアス」などの新たな分野を追加した。

表 19 都市のウェルビーイング指標に必要な項目

分野	指標
健康・福祉	体の健康、心の健康、休息、食生活、医療の充実、運動の機会、運動の実施、時間的プレッシャー、笑顔、楽しい時間…
子育て	子育てへの理解・協力、親子コミュニケーション…
安全・安心、コミュニティ	夜道の歩行、地域コミュニティの助け、相談できる人、孤立感、孤独感、地域の人を信頼、つながり、個人の備え、交通安全性、災害時の絆、帰属意識、組織的な活動…
NPO・ボランティア、利他性	人の役に立つ、知らない誰かを手助け、他者の幸せ、大切な人の幸せ、家族の夢、他者のケア、自分の役割…
教育	学びの環境、興味・関心事への取組み、夢のための学び…
文化芸術・レジャー	文化芸術活動の時間、機会、時間の使い方、誇らしい文化…
人権・男女共同参画	敬意を持たれるか、安心できる場、尊重される、心のバリアフリー…

ⁱ 福岡の都心のまちづくりに関わる5つの協議会（福岡地域戦略推進協議会、天神明治通り街づくり協議会、We Love 天神協議会、博多駅エリア発展協議会、博多まちづくり推進協議会）が初めて連携企画し、2021年11月12日に「Beyond Coronavirusのまちづくり：Well-beingを感じられるまちへ」と題して開催した公開サミット。

自然環境、都市環境	自然と向き合う喜び、まちの快適性、買物の利便性、交通の便、居住空間の快適さ、移動の自由…
産業	まちの活力、生活の安定、必要な収入、ワーク・ライフ・バランス、仕事上のストレス…
政治	行政への信頼、汚職のなさ…
やすらぎ・興奮	安定した日々、大きな悩み事のなさ、心の安らぎ、居場所、平穏さ、興奮、まちの喧騒…
やりがい	仕事のやりがい、将来の夢、人生の選択の自由、面白いこと、挑戦できる環境…
多様性・寛容性	親戚関係、結婚意識、マイノリティ、表現の自由、提案・提言の自由、多文化理解…
センシユアス	自然を感じる、まちを感じる、共同体に帰属している、刺激…

出所：荒川区「令和3年度荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査票（2021）」、熊本県「県民幸福量の指標化に係る調査報告書」（2012）、熊本県「県民総幸福量（AKH）に関する調査結果について」（2013-2021）、一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「Liveable Well-Being City 指標」、国連 Sustainable Development Solutions Network「World Happiness Report 2022」、「Gallup Global Emotions 2022 Report」、Smale, B.「A Profile of Wellbeing in Ontario: Toronto, Waterloo, ON: Canadian Index of Wellbeing and University of Waterloo.(2016)」、福岡市「令和3年度市政に関する意識調査」、福岡市「令和3年度福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」をもとに筆者抄訳、作成

3.4.2. 都市のウェルビーイング調査の特徴

福岡市の意識調査にウェルビーイングの計測に適した項目が複数あることは 3.3 で触れたが、ウェルビーイングの要素をさらに取り入れるには、既存の他都市のウェルビーイング調査との比較によって明らかになった、図 21 の、個人的、情緒的、具体的という 3 つの特徴を考慮した上で、設問を設定することが望ましい。



図 21 ウェルビーイング調査の特徴

出所：筆者作成

まず一つ目は、指標が対象とする内容が「個人的」であるか「社会一般的」であるかである。例えば、福岡市の意識調査に「いろいろなことを総合して、福岡市では一人ひとりの人権が尊重されていると思いますか」という設問があるが、これは「社会一般」について尋ねられているものである。WHR の「あなたは昨日、一日中、敬意を持って接してもらえましたか」や CIW の「差別を受けたことがある」という設問は、社会一般の話ではなく、「あなた」は尊重されているか、「あなた」が差別を受けたかといった、対象を個人にした尋ね方が取り入れられている。また、LWCI の「自宅近辺の街並みは、私の好みに合っている」や「暮らしている地域の時間の流れ方は、自分にあっている気がする」は、個人の好みの尺度で測る項目になっている。

二つ目は、物事を客観的に捉えたり俯瞰的に見たりして答える「理性的・理論的」な設問であるか、感覚や感情での評価や感情そのものが含まれた「情緒的」な設問であるかである。

福岡市の意識調査では「あなたの地域の緑について、身近な公園の緑が豊かである、と感じる」という設問で地域の自然環境の質や量について尋ねたり、「地域の公園について、身近なところに公園がある、と感じる」という設問で、公園への近づきやすさを尋ねたりしているが、LWCIには「活気ある街の喧騒を心地よく感じた」や「木陰で心地よい風を感じた」、「暮らしている地域には、自然と向き合う喜びがある」といったように、街に活気があるかどうかや、木陰があるかどうかや、地域に自然があるかどうかだけでなく、それを感覚的に捉えたかどうか尋ねられており、情緒的な要素の設問である。

最後に、具体的という特徴が挙げられる。福岡市の意識調査に、「あなたの地域は犯罪の少ない安全なまちだと思いますか」という設問があるが、「犯罪の少ない町だと思うか」というのは、抽象的である。一方、GIWの「暗くなってから一人で歩いても安全だと思う」は、設問が具体的でイメージしやすい。LWCIの「自宅の間取りは、使い勝手がよく快適である」、「町内（集落）には、私に必要なものを貸してくれる人がいる」やGAHの「災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じますか」といった項目も具体的である。

福岡市の既存の意識調査にウェルビーイングの要素を取り入れるには、設問の対象を個人としたり、情緒的、具体的な視点を加えたりすることで対応できることが考えられる。

第4章 ウェルビーイングの政策形成

4.1. 政策的フレームワーク

4.1.1. ロジックモデルによる政策の目的と手段の関連付け

ウェルビーイング指標を政策指標として活用するためには、個々の評価尺度や指標項目に加え、政策の立案・実施から社会的インパクトの創出まで、全体のプロセスや因果関係⁽⁷⁹⁾を把握する必要がある。我が国では、政策の実施においては、証拠に基づく政策形成（Evidence-based policy making：EBPM）を進める方針が示されている⁽⁸⁰⁾。EBPMとは、「(1) 政策目的を明確化させ、(2) その目的のため本当に効果が上がる行政手段は何かなど、「政策の基本的な枠組み」を証拠に基づいて明確にするための取組み」と定義される⁽⁷⁹⁾。政策の実施に際して、政策や事業などの取組み（プログラムと呼ばれる）の設計、実施、改善、または成果を評価するための科学的手法として、プログラム評価という評価枠組みが開発されてきた。

プログラム評価には、その取組みの最終的な効果を測る「インパクト評価」と、政策の目的およびその効果を論理的に検討する「セオリー評価」がある⁽⁸¹⁾。インパクト評価は、主にプログラムの事後評価を行う枠組みであるが、政策の目的の共有や、予算や人員などの資源の投入から社会的インパクトの創出までの因果関係が明らかにされないとして、セオリー評価が注目されるようになった。セオリー評価において、政策や事業などの取組みが最終的な成果につながるまでの因果関係を論理的に図式化するツールとしてロジックモデルがある⁽⁸²⁾。ロジックモデルは、具体的政策の内容と効果をつなぐ論理を明確化する。

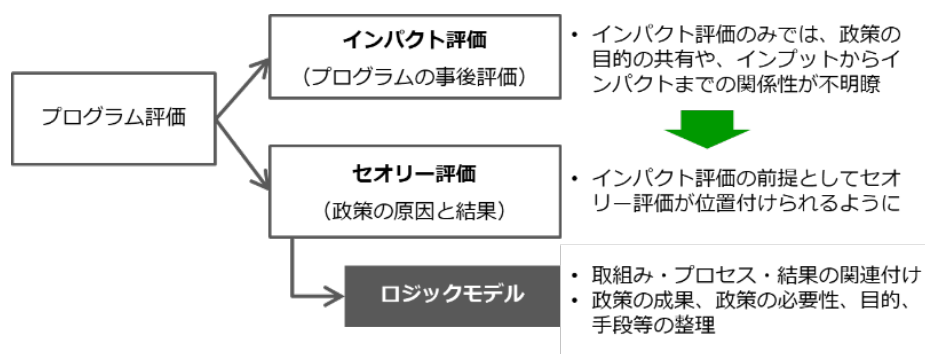


図 22 プログラム評価におけるロジックモデルの位置づけ

出所：小池ほか（2020）をもとに URC 作成

注：なお、プログラム評価には、インパクト評価、セオリー評価以外に、ニーズ評価、プロセス評価、効率性評価がある。詳しくは、右を参照。P. H. ロッシほか『プログラム評価の理論と方法』（2005）

基本的なロジックモデルは、インプットからインパクトまで 5 つのプロセスで説明される（図 23）。5 つのプロセスとは、(1) 政策実施のための予算や人員となる投入資源【インプット】、(2) 投入資源による具体的な活動【アクティビティ】、(3) 活動に基づく産出物（変化）【アウトプット】、(4) 活動に基づく成果（結果）【アウトカム】、(5) 最終アウトカムとも呼ばれる政策の実施によって最終的に期待される効果【インパクト】である。

このように、政策実施における基本的な構図を念頭に置きながら、ウェルビーイングの政策への位置付けを模索する必要がある。最終的な効果【インパクト】には、特定の社会的課題の解決や政策的な目標が置かれるが、ウェルビーイングを政策に位置づける際の【インパクト】は、ウェルビーイングの実現となる。

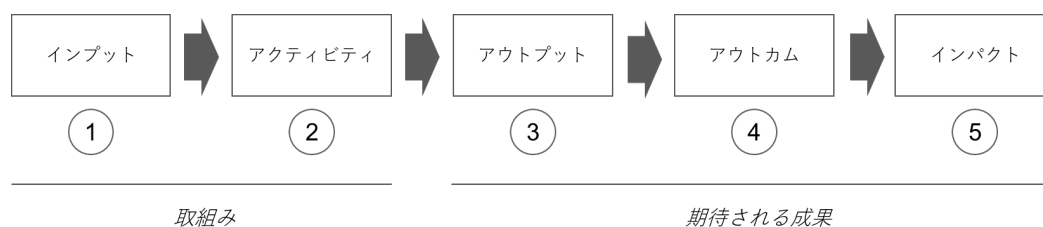


図 23 ロジックモデル

出所：W.K. Kellogg Foundation, Logic Model Development Guide を著者翻訳

4.1.2. 過程の評価における「潜在能力」の考え方

上記のロジックモデルに加え、政策評価の課題として挙げられるのが、数値で表しづらい政策過程の評価である。政策体系の目的と手段の階層構造を整理するとともに、その実施によって見込まれる成果とロードマップの可視化やストーリーを見せることが、戦略的な政策策定においても、市民への説明においても、有効となる⁽⁸²⁾。政策や課題の背景、文脈、実施に関わる組織や個人の交わりなど、多面的な要素を含めることで、活動と成果の因果関係がより明確になる。つまり、インプットとして投入する資源あるいは、結果として得られるアウトカムだけで評価するのではなく、その過程も評価の対象とすべきではないかという指摘である。こうした課題意識に対して、アマルティア・センの「潜在能力アプローチ」という考え方が参考になる。センは、経済の分配・公正と貧困・飢餓の研究における貢献により、アジア初のノーベル経済学賞を受賞した人物であり、先述のウェルビーイングに関する動向（2.1）で紹介した、フランスの「経済パフォーマンスと社会の進歩の測定に関する委員会（CMEPSP）」ではアドバイザーを務めている。

そのセンの主張には、主観と客観というウェルビーイングの計測（2.3.1）の枠を超えた見解が示されている。センは、主観的な感覚によって示される「効用」と、物質的な豊かさに

よって計測する客観的評価としての「財・所得」を捉えて評価しようとするいずれの主張にも批判を与えた。「財・所得」の投入により「機能」が発揮され、それにより生み出された何らかの主観的満足度として「効用」を評価することは間違っていない⁽⁸³⁾。しかし、「効用」（この場合、主観的指標）のみに注目すると、個人の主観的満足度がいかにして実現したのかという「過程」を問うことができなくなってしまうとセンは指摘する⁽⁸³⁾。この、「効用」を得るための一連の過程そのものを評価するためにセンが導入した概念が「潜在能力（Capability）」である（図 24）。潜在能力とは、「財・所得」を様々な「機能」へと変換する潜在的な可能性の集合と捉えられ、変換の可能性は個人の能力や社会経済システムの在り方によって異なってくる⁽⁸³⁾。センは自転車为例に、潜在能力を説明する。自転車は通常「交通手段」という「機能」を発揮する「財・所得」と考えられる。ほとんどの人にとって、移動性を向上する便利なツールとみなされるであろう。しかし、脚等に障がいを持つ人にとってはその「機能」は発揮されず⁽⁸⁴⁾、それぞれの潜在能力において「機能」が発揮できる「財・所得」を提供することが求められる。



図 24 アマルティア・センの潜在能力アプローチ

出所：大塚・諸富（2022）、Thomas Wells をもとに著者作成

政策において、一定の予算を投入しても、誰がどのような能力を持ち、どのような社会経済状況の中でそれを活用するかによって、達成される「機能」および「効用」は異なってくると言える。前節のロジックモデルのプロセスと重ね合わせると、「アクティビティ」、つまり施策実施における「潜在能力」の影響を考慮することが求められる。

例として、センの潜在能力アプローチに触れ、彦根市の出産環境の危機に着目した吉川（2018）の論考を紹介する⁽⁸⁶⁾。課題の発端は、2007年、滋賀県彦根市の彦根市立病院における医師不足による分娩の取扱中止であった。2005年の彦根保健所館内の出生数が1,366人という中で、地域の中核病院として年間500以上の分娩を取り扱っていた同病院の分娩中止は非常に影響が大きかったことがわかる。これに対し、彦根市と滋賀県は、主な対応として産婦人科施設を開業する民間診療所に補助金を交付することを決め、最終的に、彦根市内で唯一分娩を取り扱う産婦人科クリニックの運営医療法人に対して、およそ1億1,800万円の補助金を交付することとなった。これだけの話であれば、ロジックモデルで整理すると、出産環境の整備という政策課題に対して予算が割り当てられ【インプット】、既存の産婦人

科クリニックに補助金を交付し【アクティビティ】、分娩受け入れ能力を高めることで【アウトプット】、地域の安心なお産の受け入れ体制の構築【アウトカム】をもたらしたと結論付けられる。

しかし、彦根市立病院の分娩取り扱い中止に際して動いたのは行政だけではなく。一報に触れ、妊婦や出産を経験した女性とその家族らを中心に「彦根市立病院での安心なお産を願う会」が発足した。同会は、講演会や学習会を主催し、医師、助産師、看護師、県や市の職員、議員、研究者などを巻き込み、議論の場や学習機会を広げていった。ここでの経験の共有や議論を通じて、当初の「病院での安全・安心な分娩」という要望から、妊娠から出産に至る過程でのケアにとどまらず、新生児の健康管理や育児、産後の女性自身の体調管理などを含む、包括的で長期的・継続的なケアへと次第にニーズの変化が起こった。これにより、病院・クリニックに依存するサービスのみならず、病学的リスクの低い自然分娩であれば、助産師によるケアや出産を可能とするシステムでも良いのではないかという認識が広がり、代替的な出産環境の一つとして、彦根市立病院の院内助産院の開設につながった。吉村は、「願う会」の「単なるサービスの消費者であることを超えて、自らが供給システムをデザインして整備」する動きと評しており、まさにこの部分が、センの言う「潜在能力」にあたりとえられる（図 25）。図 25 に、事例を用いてロジックモデルの考え方とセンの潜在能力アプローチの関係性を示している。

主流派の経済学において、人間は、利己主義的かつ合理的に行動することが前提されるため⁽⁸⁵⁾、A を投入することで、B が実施され、C という結果をもたらす、というような単純なプロセスが想定される。しかし、本来、人間はもっと多面的であり、多様な選好を前提とする。センの批判する経済人は、諸活動によって選好が変化することはないと想定され、他者への共感、公的関心、道徳的配慮によって行動することは、合理性を損なうと考える。そう仮定しなければ、資源配分の効率性を担保したり、政策の良し悪しを評価できなくなったりするからである⁽⁸⁶⁾。しかし、この事例では、病院やクリニックでの産婦人科医師を中心とする出産環境の整備という欲求に応えるための政策により、安全なお産が可能な環境が量的に整えられたが、一方の「願う会」の流れでは、分娩可能な医療施設を増やすことに加え、助産院を含む多様な出産の機会の提供という質の向上にアプローチすることにつながった。このため、出産環境の不足という課題を出発点に、当初、設定されていた【アウトカム】は、出産環境の量的解決から、多様で安心なお産システムの構築へと質的解決へと変化した。

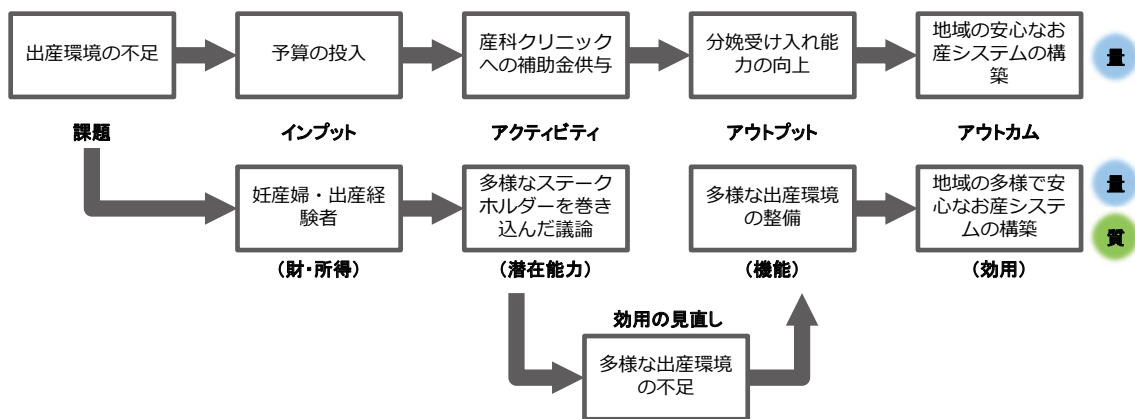


図 25 ロジックモデルと潜在能力アプローチの関係図

出所：URC 作成

ここまで、政策の課題、目的、手段等を整理するロジックモデルの活用による政策評価のしくみと、政策の実施において、【潜在能力】という考え方を元にした過程の評価の必要性について論じた。これを受けて、次の項では、ウェルビーイングの政策的応用に向けた一つのフレームワークを提示したい。

4.1.3. 政策的プロセスとフレームワーク

(1) ウェルビーイングを定義する【インパクト】

ロジックモデルの考え方をウェルビーイング政策に適用する場合、最終的なインパクトには、「ウェルビーイングの実現」が置かれる（図 26）。2.2 で論じたように、ウェルビーイングは「対象を個人とした場合の、身体・精神・生活に関する要素と、社会・場に関する要素が存在し、これらが総合的にポジティブな評価にある場合、ウェルビーイングな状態にある」と理解することができる。ただし、ここでの定義は、多様な定義を包括的に捉えたものであり、どのような定義であっても、おおよその枠の中に収まるであろうという基本的な考え方を示したものである。これまで議論してきたとおり、ウェルビーイングには多様な定義があり、地域や価値観の違いによって目指される状態が変わってくる。このため、最終ゴールは、対象となる地域や組織によってそれぞれで定義する必要がある。平凡でも穏やかな日々を送ることをウェルビーイングと捉える人に対して、興奮を伴う新しい挑戦をしているかどうかを尋ねても適切に評価することはできないように、何を以てウェルビーイングと捉えるかは様々であり、目指すウェルビーイングに対応する指標と個々の指標の重要性（重み付け）を明らかにする必要がある。

さらに、政策としてウェルビーイングの実現を目指す場合、個々人のウェルビーイングに加え、都市としての将来的な理想像や都市全体の課題といったものにも対応していかなければ

ればならない。このため、都市におけるウェルビーイングの定義では、市民の多様な価値観およびウェルビーイングの状態を把握するとともに、包括的・長期的な都市のビジョンを明らかにすることが求められる。また、時代の変化とともに、ウェルビーイングに対する価値観も変化していくことが想定される。ウェルビーイングの定義や要素ごとの重要度の変化にも留意しつつ、計測・評価を行っていくことが重要となる。インパクト評価には、3章で論じたウェルビーイング評価尺度や指標などを用いてスコアを把握することができる。

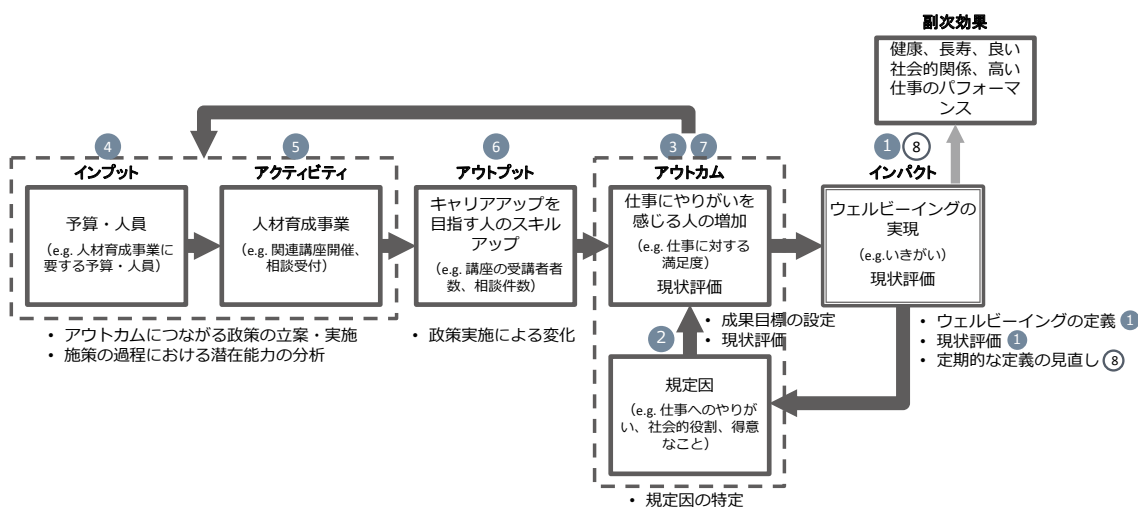


図 26 ウェルビーイングの政策的フレームワーク

出所：URC 作成

(2) ウェルビーイングの規定因と現状値を把握する【アウトカム】

次に、アウトカムである。通常、ロジックモデルの流れは、インプットから始まりインパクトに向かうと考えるため、順番が逆ではないかと感じるかもしれない。しかし、政策の実施により最終的に達成したい状態（インパクト）の検討から始め、インパクトを形成する指標群（アウトカム）を特定し、そこから政策資源の投入（インプット）・実施（アクティビティ）・成果（アウトプット）へとつなげることが重要である（図 26）。この際、インパクトの形成に影響を与えられる規定因を求め、それを参考にしつつアウトカムを設定することが有効である。ここでは、図 26 で言うところの、規定因とアウトカムについて説明を行う。

例えば、アンケート調査などにより、いきがいを持つことが、ウェルビーイング（インパクト）であるという回答が抽出されるとする。それを踏まえ、そのインパクトからバックキャストし、インパクトを創出するであろうアウトカムやその状態を表す指標を設定する。こ

のアウトカムの特定に有効となるのがウェルビーイングの規定因の把握である。規定因とは、ウェルビーイングをインパクトとした場合、ウェルビーイングに影響を与える要因のことを言う。統計学の用語では、ウェルビーイングを表す値を目的変数（従属変数）、それを決定する主要な因子を説明変数（独立変数）と呼ぶ。アンケートを分析することで、複数の説明変数が、それぞれどれほど目的変数に寄与するかという寄与度のようなのが数値として表れる。こうした結果を元に、インパクトの創出に向け、どのような施策が有効であるかを判断することができる。なお、ロジックモデルを一事業に適用する場合、単線のフローチャート型が想定されるが、施策に適用する場合、複数の事業が合流することで最終成果に結びつく複数のフローチャート型になる⁽⁸²⁾。このため、アウトカムには、最終的なインパクトを構成する多様な指標の集合およびその達成状況が置かれる。

人々の主観的ウェルビーイングに影響を与える要因は、大きく、遺伝特性と環境特性に分けられる⁽⁴²⁾。一説では、主観的幸福感の30-40%が遺伝的影響に起因し、60-70%は環境的影響に起因するという⁽⁴²⁾。遺伝特性は、外交的な性格など、特定の人々が他の人々よりも幸せを感じやすい性質を言う。遺伝や幼児体験に影響を受ける幸せは「変えにくい幸せ」であると言われる⁽⁸⁷⁾。一方で、環境特性は、住居や食事、経済的豊かさなどの基本的ニーズと自治性や社会関係の充実などの心理的ニーズからなる、変えることのできる要因と考えられる⁽⁴²⁾。

ここでは、政策の介入によるウェルビーイングの実現を想定しているため、変えることのできる環境特性について検討する。ウェルビーイングを予測する（規定する）環境的要因としてよく挙げられるのは、収入や社会的関係などである。なかでも、収入と主観的ウェルビーイングの関係性についての研究は最も広く行われている⁽⁴²⁾。これは、人々の幸福を構成する基本的ニーズおよび心理的ニーズ（自律性など）の多くが収入によって一定程度確保されると考えられるからである⁽⁴²⁾。収入は、ウェルビーイングを構成する要素（2.2）のうち、ポジティブ感情やネガティブ感情などの精神的状態よりも、生活満足度と強く関連していることが示されてきた。ただし、生活満足感への肯定的な影響は、年間収入95,000米ドル前後、感情的幸福感への影響は60,000-75,000米ドル前後を境に相関が見られなくなることともわかってきている⁽⁴²⁾。これは、生活水準の向上や価値観の変化に伴って、収入等の経済的因子が主観的ウェルビーイングに与える影響が弱まる可能性を示唆している。

また、規定因には、「普遍的」なもの「固有」のものが存在し、普遍的なものは、生活の基本的ニーズを満たす収入などであり、固有のものは、個々人の考え方や生活環境に依存する⁽⁴²⁾。こうした指摘は、地域や目的によって有効な規定因が異なりうることや、個々人のウェルビーイングを形成する因子は個々に重要度が異なることを示唆する。つまり、政策に

ウェルビーイングの概念を反映させる場合、地域特性や対象、政策の優先順位などによって考慮すべき因子が変わってくることに留意する必要がある。

ウェルビーイングの規定因に関する研究は、対象別（大学生⁽⁸⁸⁾、高齢者⁽⁸⁹⁾、女性⁽⁹⁰⁾など）にも環境別（特定の地域、職場⁽⁸⁷⁾、共同体⁽⁹¹⁾など）にもあらゆる分野で蓄積があり、特定の課題に対して、因果関係が学術的に示されてきた規定因を参考にアウトカムを設定することは有意義と考えられる。

例えば、福岡市において、いきがいの有無がウェルビーイングの重要な要素であると特定されたと仮定する。さらに、ウェルビーイングの規定因として「仕事へのやりがい」が統計的に導かれたとするⁱⁱ。それに伴い、「仕事に対する満足度」の向上がアウトカムの指標の一つとなり、やりがいのある仕事に就くためのスキルアップの機会を創出することが施策として検討される。

ここまで、ウェルビーイングを規定する環境的要因が何であるかを見極め、その環境に変化を与えることでウェルビーイングを実現するというアプローチについて説明してきた。その一方で、前向きな活動が、前向きな感情・思考・行動を促進し、健康を増進するというように、幸せは、意図的に行う何らかの行動によって高められることも多くの研究者らが明らかにしており、個々人の行動変容を促すことでウェルビーイングの実現を促すというアプローチも存在する^(92,93)。

例えば、過去 24 時間のうちに起こったポジティブな体験を日記に書くことで、脳がそれを追体験し、脳がよりポジティブに働くことが証明されている⁽⁹³⁾。同様に、人々の幸福と行動の関係に着目した矢野（2021）は、幸福度の高い人がどのような行動を取っているかを計測し、フラット（均等）、インプロバイズド（即興的）、ノンバーバル（非言語的）、イコール（平等）の 4 つを幸せな組織の特徴として挙げた⁽⁸⁷⁾。つまり、人とのつながりが特定の人に偏らない【フラット】、5-10 分の短い会話が高頻度で行われる【インプロバイズド】、会話に身体が同調してよく動く【ノンバーバル】、発言権（量）が平等【イコール】な組織は幸せな組織であるという。つまり、『楽しいから笑うのではない。笑うから楽しいのだ。』というウィリアム・ジェームズの残した格言に表されるように、幸福を呼び込む行動を政策的に後押しするというアプローチも考えられる。

(3) 政策の実施および評価を行う【インプット・アクティビティ・アウトプット】

さらに、現状把握の結果をもとに適切な対策を講じる段階が、政策のインプット・アクティ

ⁱⁱ Héctor García らによる著書『IKIGAI』によれば、いきがいとは、得意なこと、好きなこと、必要とされていること、お金を稼げることの重なり合った概念であるとされる⁽¹¹³⁾。

ビティとなる。政策実施のための予算や人などの投入にあたるインプット、具体的な施策などのアクティビティ、そしてその結果となるアウトプットである。

人の役に立つことをウェルビーイングと捉える場合、そのウェルビーイングを規定する要因として、例えば地域貢献が抽出されるとする。すると、アウトカムとして、地域に貢献していると感じる人の割合が一つの評価指標として考えられる。これを受け、インプット・アクティビティでは、アウトカムをもたらす政策を立案し、資源を投入し、実施する。実施の際は、その過程において発揮された「潜在能力」にも目を配り、どのような条件のもと政策が実施されたのか把握する必要がある。

(4) アウトカムおよびインパクトの評価

最後に、アウトカムおよびインパクトの評価を行う。アウトカムでは、施策実施前に行った評価との比較を行うことで、施策の効果を知ることができる。図 26 の事例で見ると、施策の実施後の評価において、「仕事に対する満足度」が向上していれば、一定の効果があったと考えられる。さらに、インパクト評価を同時に行うことで、実施された施策がインパクト形成に有効であったかどうかを把握することができる。仕事へのやりがいを感じる人の増加がウェルビーイングの実現につながっているかどうかを確認し、施策の方向性を再度確かめるというプロセスである。ただし、こうした施策による効果が顕在化する、あるいは市民が実感するまでには時間的なギャップが想定されることも考慮に入れる必要がある。また、ウェルビーイング自体の定義が時代や個々人の成長とともに変化することも考えられることから、定義自体の見直しも定期的に行うことが必要であろう。

整理すると、まず、インパクトの設定としてウェルビーイングを定義する必要があり、その定義に見合ったアウトカム（ウェルビーイングに影響を与えられると思われる要因）を特定する。アウトカムが決まれば、現状評価を行う。ウェルビーイングをインパクトとした場合、主観的評価による現状把握が重視される。そして、アウトカムを創出するであろう政策の形成・実施へとつながる。政策実施の結果としてアウトプットが得られ、それがアウトカムにつながっているかどうかを、政策実施後の評価を行うことで確かめる。さらには、アウトカムとインパクトの関係性をアンケート等で継続的に把握しつつ、全体としての政策評価を行う。こうした一連のプロセスを管理する手段として、ウェルビーイングの政策的フレームワークを活用することができる（図 26）。

(5) 副次効果を活用する

ウェルビーイングが最高善と位置付けられる一方で (2.1)、ウェルビーイングの実現が、

さらなる効果を創出することも明らかになっている。ポジティブ心理学をリードしてきたマーティン・セリグマンは、幸福自体が目的でなく、幸福によってもたらされる効果に注目を促す⁽⁹⁴⁾。

高いウェルビーイングは、健康、長寿、より良い社会的関係、仕事のパフォーマンス、創造性などへの影響が明らかとなっている⁽⁴²⁾。例えば、定期的な運動が3年寿命を伸ばすことに対し、ウェルビーイングであることは、6-7年長寿命化の効果があるという。仕事のパフォーマンスにおいて、幸福感の高い社員の創造性はそうでない人より3倍高く、生産性は31%、売上は37%高いという結果に加え、幸福度が高い社員は、欠勤率が低く、離職率も低いということが報告されている⁽³⁾。

こうした研究結果は、ウェルビーイングを政策的に押し進める上で、市民への説得力を高めるとともに、地域経済の活性化や市民の健康増進、医療・介護費用の抑制など、副次的な効果が期待できることを示唆している。

4.2. 政策的フレームワークに即した運用事例

4.2.1. ビジョン共有のためのウェルビーイング指標

人の幸福の形はさまざまであることから、その実現に向けて行政ができることは限定的である。しかし、加藤らによって、社会基盤整備が間接的に人々の幸福度に影響を及ぼす可能性が示された⁽⁹⁵⁾。加藤らは、内閣府の国民生活選好度調査で得られたデータをもとに、主観的幸福度と、医療、勤労、福祉、社会基盤などの生活要因との関係を分析した結果、「健康」に関する項目は幸福度に大きな影響を及ぼすが、「社会基盤」に関する項目は幸福度にあまり影響を及ぼさないことを明らかにした。その一方で、「社会基盤」や「生活環境」の項目（「通勤・通学のしやすさ」や「親しめる自然」、「危険な工場に対する管理や災害に対する対策」、「子育て環境」など）に満足している回答者は幸福度が高く、「健康」と「社会基盤」の相関が高いことから、社会基盤整備の効果が「健康」を介して間接的に人々の幸福度に影響を及ぼす可能性を示した⁽⁹⁵⁾。このように、行政が関与可能な生活環境や教育環境の整備、ソーシャル・キャピタルの醸成促進などにおいても、ウェルビーイングの規定因に寄与する可能性がある。都市では、その地域にどのような人が住み、どのような都市生活を望んでいるのか、そしてその実現のためにどのような課題に取り組む必要があるのかなどを把握した上で、都市の目指すビジョン（基本構想）が掲げられ、それに向かうための基本計画が策定される。これは、図 26 のウェルビーイングの政策的フレームワークにおける、【インパクト】（目指す都市像と県民の幸福度）の部分にあたる（図 27）。

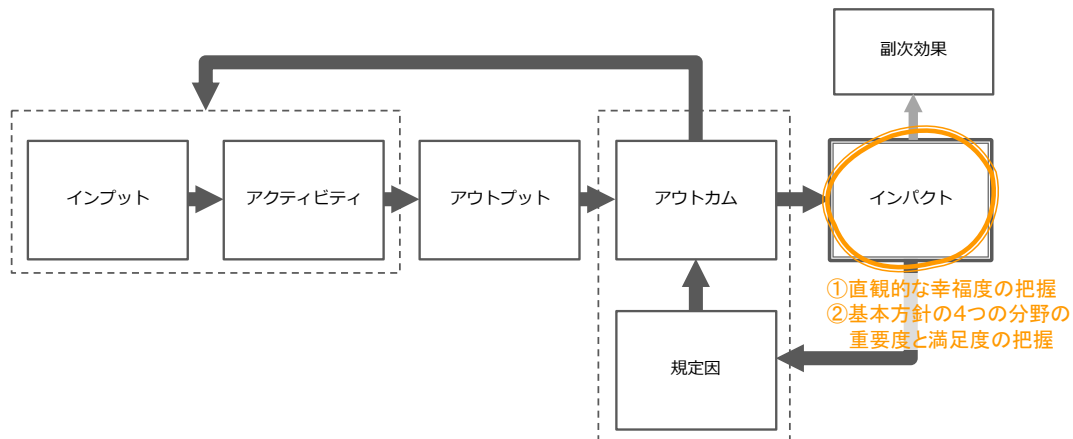


図 27 熊本県のアンケート調査で把握する領域を政策的フレームワーク（図 26）において示した図
出所：URC 作成

例えば、熊本県の AKH は、前述の通り、県政の基本理念である「県民幸福量の最大化」の「見える化」が必要とされる状況下で開発された総合指標である。政策や施策との直接的なリンクは目指されなかったものの、「くまもとの夢」の実現に向けた取組みである 4 つの分野「経済上昇くまもと（経済）」、「長寿安心くまもと（暮らし）」、「品格あるくまもと（誇り）」、「人が輝くくまもと（人）」が、県民の幸福を考えた時にそのまま大きな枠として適切であると捉えられ、それぞれ、「経済的な安定（稼げる、所得）」、「将来に不安がない（健康、安全・安心）」、「誇りがある（自然・文化、生きがい）」、「夢を持っている（夢、希望）」という 4 つの分類が設定され、県民共通の幸福の要因が考慮されながら、各分類に 3 項目（合計 12 項目）が設定され、それぞれに合わせた実感や考えを問う設問が定められた⁽⁹⁶⁾。例え

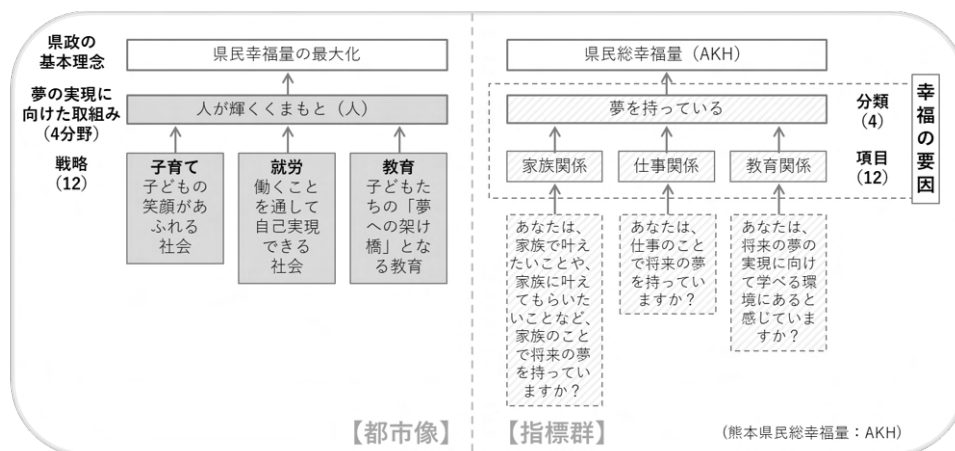


図 28 AKH と熊本県政の基本理念との関係

出所：熊本県「県民幸福量の指標化に係る調査報告書」（2012）、「県民総幸福量（AKH）に関する調査結果について」（2013-2021）、坂本正「熊本の幸福量最大化への挑戦：日本の自治体による幸福度政策と熊本の AKH（2022）」をもとに筆者作成

ば、AKHの幸福要因の一分類「夢を持っている」の項目やアンケート調査の設問は、熊本県政の目指す都市像へ向けた取組み「人が輝くくまもと（人）」およびその戦略（子育て、就労、教育）に沿う形で設定されている（図 28）。

3.2.2 で触れたが、指標の検討に関して、2010年に結成された「くまもと幸福量研究会」のリーダー、坂本氏は、①政策評価のできるもの、②簡便な方法で数値化でき継続性のあるもの、そして、③短期間で効率的に確立されるものであることが意識されたと振り返る⁽⁶⁾。人によって幸福の捉え方が違うことを懸念し、主観指標の設定に消極的な県内自治体もあったが、①人の意見は多様であっても類型化することができること、②客観指標だけでは県民の実感との整合が取れないことから、AKHは主観指標のみで構成されることになった。主観指標のみとはいえ、性別、年代、居住地域、職業、居住年数などの属性と組み合わせた分析により、地域の特性や年代、性別ごとの特徴などを把握することが可能であり、表出した問題への対策を検討する際に活用することができる。

AKHは、3.2.2で示したように、県政の基本方針である4つの柱と関連付けられ、県民幸福量を測る総合指標という位置付けになっており、戦略や施策のKPI（重要業績評価指標：Key Performance Indicator）には採用されていない。施策の評価指標に採用されていない理由として、①施策がAKHに直結しているかどうか分かりにくいこと、②毎年同じ調査対象者ではないため統計上の誤差が結果の要因として捉えられてしまう可能性があること、③個々人の回答の差なのか政策の結果が影響しているのかが判断しにくいことがある⁽⁶²⁾。

また、2021年度以降は、過去に実施された「県民の幸福に関する意識調査」というAKH算出に必要なデータ収集のための単独調査ではなく、「県民アンケート調査」（県民生活や県の取組みに関する意識調査）の中に「幸せについて」の項目として追加され、その結果からAKHが算出されるようになった。3.2.2で言及したように同統合による設問の平易化は、アンケート回収率の向上も目指されていたが、「県民アンケート調査」全体として項目数が少ないわけではないため、回収率の向上は見られていない⁽⁶²⁾。しかしながら、「県民アンケート調査」の他の項目（例えば、運動やスポーツの実施頻度、公共交通機関のサービス内容に対する満足度など）とAKHとの相関関係を分析することが可能となり、新たな課題の把握や対策の検討に活用できるようになった⁽⁶²⁾。例えば、30代、40代の男性の健康実感が低いという調査結果はこれまでも施策の検討で活用されていたが、今回の統合により、生活習慣に関する設問の回答結果との関係性を調べるようになる。

熊本県の事例のように、ウェルビーイング指標の項目を政策の基本方針に合わせた内容

にすることで、目指す都市像に向かうことができているか、住民意識と乖離がないかを確認するための目安としてウェルビーイング指標を活用することができる。

4.2.2. 施策に紐づけられたウェルビーイング指標

次に、図 26 のウェルビーイングの政策的フレームワークにおける【インパクト】（将来像や幸福実感度）と【規定因】（幸福実感の影響度合い）が、アンケート調査をもとに設定、把握され、その結果が政策・施策分析において【アウトプット】【アウトカム】の指標として活用されている荒川区の例を挙げる（図 29）。

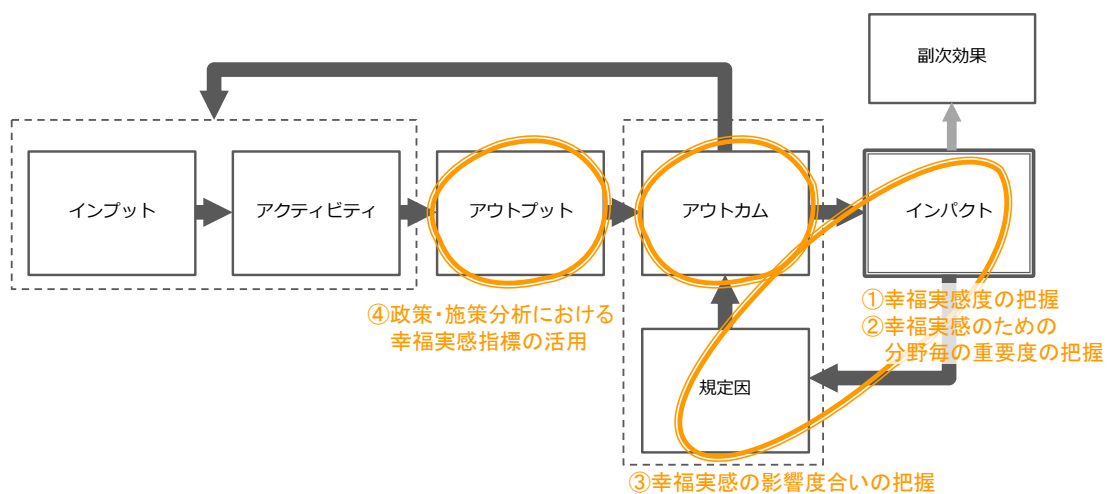


図 29 荒川区のアンケート調査で把握する領域とその活用を政策的フレームワーク（図 26）において示した図
出所：URC 作成

荒川区では、2007年3月策定の「荒川区基本構想」の中で「幸福実感都市あらかわ」が目指すべき将来像（インパクト）として定められ、それを構成する6つの都市像、「生涯健康都市」、「子育て教育都市」、「産業革新都市」、「環境先進都市」、「文化創造都市」、「安全安心都市」と、それぞれの推進へ向けた施策や事業が示された⁽⁹⁷⁾。

「区民の幸福実感の向上」を最上位目標とする荒川区⁽⁹⁸⁾における GAH の指標検討においては、「指標が区の政策・施策とリンクしていなければ幸福度の指標化を行う意味がない」⁽⁵⁷⁾という考えが基礎にある。区の6つの都市像と関係づけられた、「健康・福祉」、「子育て・教育」、「産業」、「環境」、「文化」、「安全・安心」の6つの分野ごとに、それぞれ1つの上位指標と6～8項目の下位指標が設定され、指標ごとの実感を問う設問が定められた⁽⁹⁸⁾。これにより、各指標の測定・分析を通じて、区政が「区民を幸せにするシステム」としてうまく

機能しているか、そして、各事務事業が上位目標である都市像や最上位目標の「幸福実感都市」へ向かっているかを確認しながら行政行動を進めることができる仕組みになっている（図 30）。

例えば、「子育て・教育」分野は、「子どもの成長の実感」を感じるかどうかを上位指標として設定され、それを細分化した下位指標として、『生きる力』（規則正しい生活習慣、『生きる力』の習得）、家族関係（親子コミュニケーション、家族の理解・協力）、子育て教育環境（子育て・教育環境の充実、地域の子育てへの理解・協力、望む子育てができる環境の充実）があり、各指標の実感度合いを確認する設問が「荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査」に設けられている。設問は、「親子の間でコミュニケーションがとれていると感じますか」や、「自分が望む子育てができるような環境があると感じますか」といった、個人的な状況について尋ねる内容となっており、なるべく住民の実感に近い状況を把握しようとする試みがわかる。

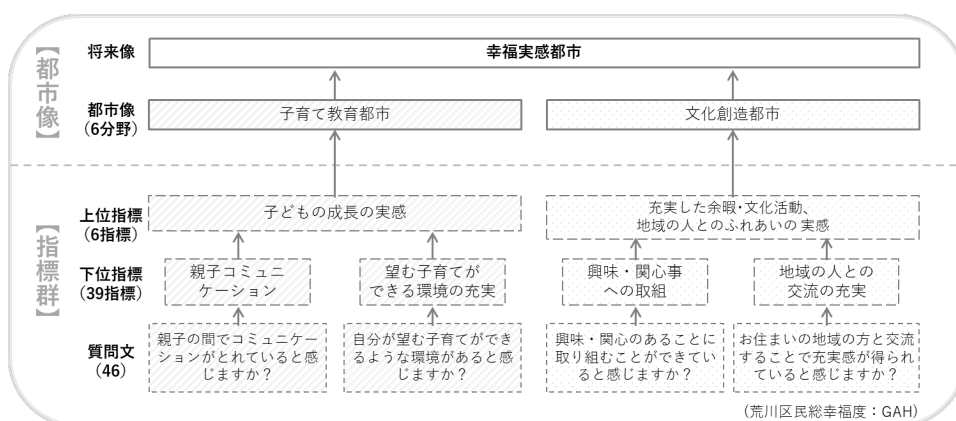


図 30 GAH と荒川区基本構想の都市像との関係

出所：荒川区自治総合研究所「荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査研究報告（2018）」および荒川区基本構想（2007）をもとに筆者作成

そして、2014 年度からは、3.2.1 で挙げた荒川区民総幸福度（GAH）指標が、各政策・施策における成果指標として位置付けられている。2018 年度「荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査研究報告⁽⁹⁹⁾」に掲載されている「政策・施策分析シートにおける幸福実感指標一覧（平成 29 年度シート）」は、GAH 指標と政策・施策との対応関係であるが、この一覧によると、各政策及び施策に対し、1～7 つの指標が設定されている（図 31）。

荒川区の政策構造は、3.2.1 で述べたように、基本構想の6つの都市像を頂点に、政策、施策、事務事業の順にピラミッド型の体系となっているが⁽⁹⁹⁾、6つの都市像の上の最上位目標が「区民の幸福実感の向上」として掲げられている⁽⁹⁸⁾。これにより、各政策、施策、事務事業がその目標に向かって貢献できているかどうかを確認する必要がある。この確認には、ロジックモデルのインプット（予算・事業費）、アウトプット（活動実績）、アウトカム（施策成果指標）という論理的過程に当てはめて検証することが有効であるとされ⁽⁹⁸⁾、行政評価（政策・施策分析シート）の成果指標（アウトカム）に、GAH指標が他の関連指標とともに設定されている。

例えば、荒川区が掲げる6つの都市像のうち「生涯健康都市」を目指すための2つの政策のうちの一つである「生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現」の政策分析シート、同政策目的を実現するための4つの施策のうちの一つである「青壮年期の健康増進」の施策分析シート、そして同シートを作成した担当部課である健康部健康推進課の37の事務事業分析シートのうち8つが、「青壮年期の健康増進」につながる事務事業として示されている。これらの政策分析シート、施策分析シート、事務事業分析シートは、一連の政策体系の流れを示すものである。それぞれのシートに明記される予算額、事業費、従事した人員などが「インプット指標」、行政活動の活動量や活動実績（例えば、実施回数、参加者数）などが「アウトプット指標」、行政活動を実施したことによる成果の量や質（例えば、GAH指標「健康実感度」、「健康状態がよいと感じる区民の割合」）が「アウトカム指標」として、ロジックモデルにおいて目標達成への道筋に必要なポイントとして示されることで、区職員が究極の目的「区民の幸福実感の向上」を意識しながら事業を進めることができる。

ただ、政策・施策分析シート（図32）では、「政策（施策）の成果とする指標」（成果指標）の一覧と「幸福実感指標」の一覧が別枠で掲載されており、成果指標に設定されているGAH指標を除き、「幸福実感指標」に設定されているGAH指標には目標値は設けられていない。これは、アウトプット指標とアウトカム指標の結び付けが容易ではなく、主観指標だけでなく客観指標も含めて現状を把握できるような分析シートとするためである⁽¹⁰⁰⁾。

政策分析シート（令和4年度）							
政策名	心豊かにたくましく生きる子どもの育		政策No	04	部署	教育委員会事務局	
関連部署	子育て支援部 地域文化スポーツ部		担当	三枝 内博	3311		
行政評価	分野 II 子育て教育都市		関係部署	教育委員会事務局学務課、荒川区立教育センター			
事業体系	政策 04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成		行政評価	分野 II 子育て教育都市			
目的	学校図書館の充実やICT機器の活用、校長の裁量権を生かした特色ある学校づくり等を進め、これからの変化の激しい社会をたくましく生き抜くために必要な力を養う。						
指標	幸福実感指標名	指標の推移			指標に関する質問文		
		元年度	2年度	3年度			
①	子どもの成長の実感度	4.31	-	4.29	お子さんが成長の喜びを感じているとおもいますか？		
②	調正しい生活習慣の習得度	3.68	-	3.67	お子さんが健康的な生活習慣を身につけているとおもいますか？		
③	「生きる力」の習得度	3.55	-	3.51	お子さんが、社会で生きていく上で必要な知識や技能、教養、体力などを身につけているとおもいますか？		
④	親子コミュニケーションの充実度	4.04	-	4.13	親子の関わりがコミュニケーションがとれているとおもいますか？		
⑤	子育て・教育環境の満足度	3.59	-	3.57	お子さんの成長のために子育て・教育に関する事業・サービス・施設などが充実しているとおもいますか？		
⑥	興味・関心事への取り組み	3.14	-	3.06	興味・関心事の追求のために取り組んでいるとおもいますか？		
⑦	生涯学習環境の充実	3.07	-	3.06	お目当ての学習環境が充実しているとおもいますか？		
実績	政策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		元年度	2年度	3年度	4年度 進捗率	目標値 (8年度)	
①	区学力調査 全国の平均正答率との差（小5国語 活用）	+3.3	+4.0	+3.8	+5.6	+5.0%	令和4年度の値は実績値
②	区学力調査 全国の平均正答率との差（小5算数 活用）	+7.0	+7.2	+4.8	+9.3	+7.2%	令和4年度の値は実績値
③	区学力調査 全国の平均正答率との差（中3国語 活用）	+2.2	+2.5	+0.3	-3.5	+2.5%	令和4年度の値は実績値
④	区学力調査 全国の平均正答率との差（中3数学 活用）	+1.1	+1.5	-1.0	+2.1	+3.0%	令和4年度の値は実績値
⑤	区学力調査 全国の平均正答率との差（中3英語 活用）	+3.3	+3.5	-0.7	+3.9	+3.5%	令和4年度の値は実績値
⑥	生涯学習センター施設稼働率（%）	62.8	40.5	62.8	64.5	80.0	多目的広場、PC室を除く
⑦	スポーツ教室（回数）	2,366	6,049	9,127	9,269	10,098	年度はスポーツセンター併設のあすぽうハウスの数値は除く

図 32 荒川区政策・施策分析シートに掲載される幸福実感指標（一部）

出所：荒川区 令和4年度政策・施策分析シート《子育て教育都市》を加工

4.2.3. ウェルビーイング調査から事業実施へ

最後に、住民にとってのウェルビーイングの価値観とその要因を把握し、実際に事業の実現へとつなげた北欧デンマークの都市ドラオア（Dragør）の事例を挙げる。これは、図 26 のウェルビーイングの政策的フレームワークにおける、【インパクト】、【アウトカム】およびそれを設定する根拠となる【規定因】、そして、施策や具体的な事務事業の策定・実施の【インプット】【アクティビティ】【アウトプット】の部分にあたる（図 33）。

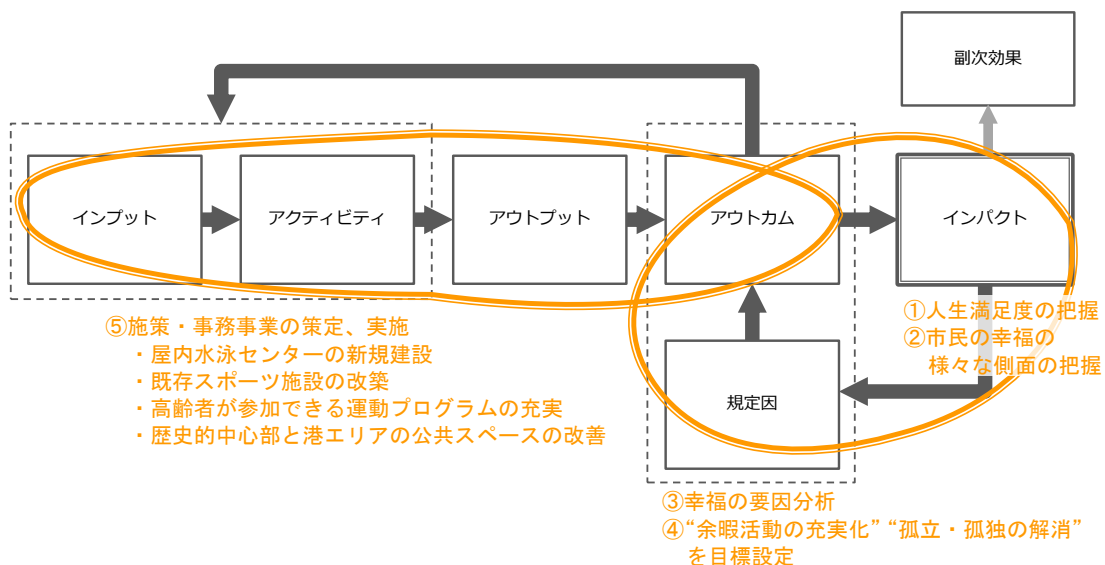


図 33 ドラオア市の幸福度に関する調査から事務事業実施までのプロセスを政策的フレームワーク（図 26）において示した図

出所：URC 作成

デンマークは、国連の世界幸福度レポートにおいて、フィンランドに続いて世界で2番目に幸福な国と言われている。デンマークの首都コペンハーゲンの中心部から南東へ12キロの場所に位置する人口約1万2千人（2022年・デンマーク統計局）⁽¹⁰¹⁾の港町ドラオア市は、市民の教育水準および所得水準が周辺地域と比べて高く、不動産価格の高い人気の住宅地である⁽¹⁰²⁾。2016年には、ドラオア市に居住する就業者の4分の3以上が他の市町村への通勤者であった⁽¹⁰²⁾ことが示すように、コペンハーゲン首都圏のベッドタウンであるが、歴史的建築物や文化史博物館なども数多くあり観光地としても人気が高い⁽¹⁰²⁾。

2013年秋、ドラオア市は、デンマークを拠点とする幸福研究所（Happiness Research Institute）と共同で、ドラオア市の成人人口の6%に相当する565人の市民を対象に、幸福度に関する調査を実施した。調査内容は、OECDの主観的幸福度の測定に関するガイドラインや多数の専門家の意見を踏まえて開発され、人生満足度やどのような感情が市民の日常を特徴づけるかなど、市民の幸福の様々な側面を明らかにすること、そして、ドラオア市の幸福度を低下させている、または支えているのはどういう分野なのかを明らかにすることが目指された。調査は、電話インタビュー、個別インタビュー、オンラインアンケートなどによって実施され、また定量調査を補完するものとして、定性面接が行われた。これら調査を通じて、市が市民の幸福のために今後さらに取り組むべき枠組みのアイデア集が導き出された。その結果、0～10のうち現在の状態（レベル）を尋ねる質問において、ドラオア市民の平均幸福度は7.8であり、平均の人生満足度は7.6であった。人生満足度は、同様のOECDの2013年調査においてデンマーク人の平均は7.5であったため、国レベルよりもドラオア市のレベル（7.6）が高いことが今回の調査で確認された。

また、ドラオア市の最も幸せな市民の特徴がいくつか見出された。その特徴は、年齢が30歳以下か50歳以上であり、恒久的なパートナーがいて、社会活動に積極的に参加し、非営利分野に携わっている、また、組織トップや中間管理職または自営業で、余暇時間に運動し、自然の中で過ごしている、そして、自分の人生に目的を感じ、自身の健康や社会的関係に満足している、というものである。もちろん、この特徴を持つ人が必ず幸せであるとは言えないし、この特徴とは異なる人が幸せであることもあると調査レポートは補足する。しかし、社会関係、仕事、年齢、余暇活動、健康といった要因がドラオア市民のウェルビーイングに大きく影響を及ぼすことが明らかとなった。

表 20 「ドラオア市幸福調査 2013」結果より一部抜粋

回答者の割合	回答内容
91%	昨日、ある程度またはかなり、満足した経験をした
77%	昨日、ある程度またはかなり、幸せな気持ちを経験した
91%	昨日、ある程度またはかなり、笑顔になったり大笑いしたりした
39%	昨日、ある程度またはかなり、心配な気持ちを経験した
18%	昨日、ある程度またはかなり、悲しい気持ちを経験した
28%	昨日、ある程度またはかなり、ストレスを感じた
15%	日々の生活の中で、ある程度、またはかなり孤独を感じる
9%	全くまたはほとんど、自分の生活（時間）をコントロールできていない
9%	全くまたはほとんど、人生の意味や目的を感じない
35%	余暇時間に1日3時間以上、テレビ、コンピュータなどを使っている
32%	週に3時間未満しか運動をしていない
46%	週に3時間未満しか自然の中で過ごしていない
20%	（働いている人のうち）毎日90分以上を通勤に費やしている
44%	地域活動にもっと参加したいと思っている
31%	全くまたはほとんど、地域社会の一員だと感じていない
64%	ある程度またはかなり、地元の人たちともっと仲良くなりたいと思う

出所：DRAGØR LYKKEREGNSKAB 2013 (I NSTITUT FOR LYKKEFORSKNING, Dragør Kommune)をもとに、筆者抄訳、整理。

表 21 ドラオア市幸福調査 2013 のアイデア集より一部抜粋

カテゴリー	アイデア	内容
社会関係	ダイニングコミュニティ	近年デンマークで増え始めた、市民が一か所に集まるとともに食事をするコミュニティ活動で、通常ボランティアによって運営されているため自治体による補助金や場所の提供がなされているが、より自由に、良い環境（例えば湖畔）で活動ができるような仕組み。
	外部との接点の居住空間	一人暮らしの高齢者が増えるなか社会とのつながりが薄くなる孤立が懸念される。集合住宅で道路と敷地の間の壁を取り払い、庭を地域の子どもたちが遊べる空間にした例が挙げられている。
バランス	里孫活動	同地域に住む高齢者と孫世代の子どもをもつ家族が相互にボランティアで活動を行い交流を行う。例えば高齢者が子どものお迎えに行くことでこの親は時間的余裕ができ、高齢者は子どもの誕生日や他の家族の集まりごとに参加することで家族の一員としての時間を楽しむ。
健康	屋外運動エリア	ドラオアには様々な運動を行うジムがなく、冬季は走るだけで単調である。屋外に運動できる設備の設置が望まれる。
	水泳センターの建設	「市民の健康増進のためにドラオア市ができることは何か？」の設問に対し、回答者の3分の1以上が新たな水泳プールの建設を提案した。もっと運動をしたい市民がいること、水泳プールの不足が運動の機会を妨げていることが分かった。

出所：DRAGØR LYKKEREGNSKAB 2013 (I NSTITUT FOR LYKKEFORSKNING, Dragør Kommune)をもとに、筆者抄訳、整理。

さらに幸福の要因分析からは、社会関係（社会とのつながり）、(時間的) バランス、健康、コミュニティが重要な鍵であることが分かった。特にバランスに関しては、時間がないと感じる市民が多く、約 8 割の市民がもっと友人や家族と時間を過ごしたいと感じており、また多くの市民が自分の健康を気遣うことにもっと時間を使いたいと願っていることも明らかとなった。

調査分析やアイデア集に集められた意見などから、余暇時間が自分の幸福に影響する市民が多く、余暇時間を過ごせるインフラ施設の整備を望んでいることが導き出された。これらの結果を受けて、ドラオア市は、屋内水泳センターの新規建設、既存スポーツ施設の改築を実施した。また、幸福を感じる人が多い一方で、孤独を感じる人も多く、孤独はウェルビーイングの負の要因であることから、社会的孤立を避けるため、高齢者が参加できる運動プログラムの充実や、歴史的な中心部と港エリアの公共スペースの改善などを実施した。(出所：IMF, 2021) ⁽¹⁰³⁾

2013 年以降にドラオア市で実施された幸福度に関する調査は見当たらず、幸福度がその後どのように変化したかはわからない。しかし、2013 年の調査によって、ドラオア市民が何を重視しているのか、何が市民を幸せにするのかを、アンケート調査や要因分析、そしてインタビューを通じて把握することができた。そして現状を把握することによって、どのような事業を実施すべきか、どこに改善すべき点があるのかを明らかにし、政策形成につながった。

4.2.4. ウェルビーイング調査の期待される効果

以上の運用事例を通して、住民にとってのウェルビーイングはどういったものかという価値観とその現状をセットで把握することの必要性、ウェルビーイング指標の設定において、基盤となる都市像や基本方針とのリンクを考慮する必要性が明らかとなった。また、新たにウェルビーイングの視点が政策評価に取り入れられることで、政策や各事務事業の最終目的が住民のウェルビーイングであり、そこへ向かっていることを意識しながら事業を進めることができること、そして、ウェルビーイング調査を通じて把握した住民のウェルビーイングの規定因や価値観を事業策定に反映させることができることを確認した。

また、ウェルビーイング調査の分析方法として、年齢や居住地などの属性ごとの分析や、熊本県のように他の意識調査と統合して生活に関する調査と組み合わせた分析、継続的に調査することによる経年比較分析などがある。これらの分析を通じて、属性ごとの特性を把握したり、課題を見出す材料を抽出したりすることができ、対象を絞り込んだ施策を展開することにつながる。さらに、ウェルビーイング調査の分析結果が、地域や組織内でのワーク

ショップにおける意見交換等を充実させ、より深く市民、地域、事業者等のステークホルダーの理解度を高めることに資する。

第5章 実践に向けた方策

5.1. アンケート調査

5.1.1. アンケート概要

前章で見てきたように、ウェルビーイングを政策に適用するにあたり、立案から実施、効果の検証まで、プロセスを体系的に捉える必要がある。そのプロセスの一步として、市民らのウェルビーイングの定義とそれに対する現状の把握が重要となる。このため、アンケートを実施することで、政策的フレームワーク（図 26）で示される3つの領域にアプローチする。1つ目は、福岡市に住む・関わる人々の価値観を踏まえたウェルビーイングの定義、2つ目は、1に対する現状評価、そして3つ目は、ウェルビーイングの規定因の把握である（図 34）。

なお、本アンケートは、本報告書執筆時に同時並行的に実施しており、ここに結果は掲載されない。2023年4月以降、集計および多様な分析手法を用いて解析を行う予定である。

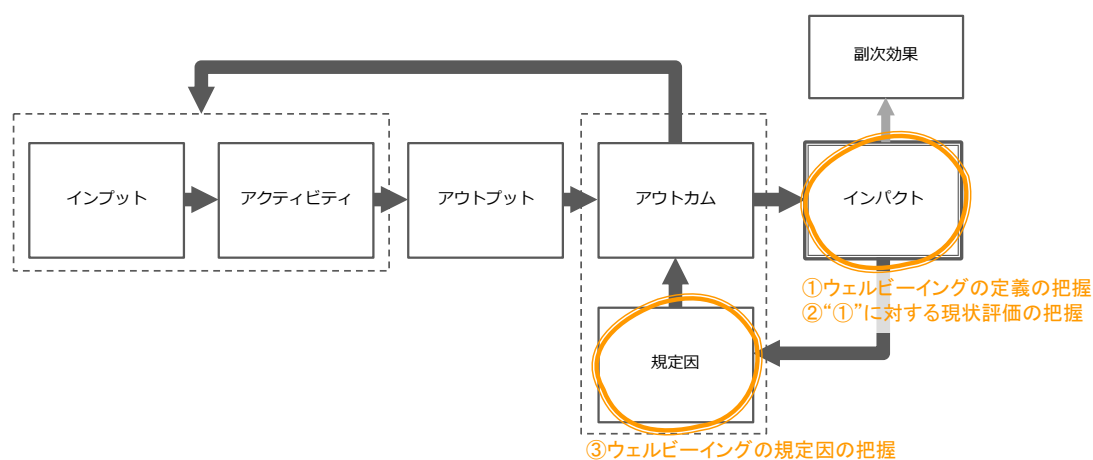


図 34 アンケート調査でアプローチする政策的フレームワークにおける領域

出所：URC 作成

その他、アンケートの概要を表 22 に整理する。まず、アンケートの対象は、市民に加え、通勤・通学者など、市と関わりを持つ人を対象とした。市民については、URC ホームページ等にて周知するとともに、西区の内浜校区自治協議会及び公民館の協力を得て、地域住民にアンケート用紙を配布した。また、福岡市の昼夜間人口比率は 110.8 であり^(104,105)、働く環境を含めたウェルビーイングの検討は欠かせない。このため、福岡市に住民票を置く定住人口に加え、通勤や通学等で福岡市を訪れる関係人口へのアプローチを試みた。さらには、

市民、通勤・通学者に加え、来訪者を含めた街のウェルビーイングを目指すことが求められることから⁽¹⁰⁶⁾、入込観光客年間約 2,100 万人（コロナ以前）を誇る福岡市においては、交流人口へのアプローチも検討を試みたが、今回は、回答を一定数確保することが難しいと判断し見送った。

対象を定住人口のみならず、関係人口を含めたこと、また、回答方法に Google フォームを用いたこと（後述）から、アンケートの周知方法は、調査票の郵送に限らず、多様な方法を取り入れた。まず、市民の主な対象となった内浜校区では、調査票の全戸配布（約 8,000）のほか、自治協議会および公民館の協力の下、自治協だより、SNS など公民館の広報媒体にて発信、校区掲示板などを通して周知を行った。また、通勤者への周知として、まちづくり関連協議会 4 団体および福岡市 Well-being&SDGs 登録企業に対し、各団体事務局ならびに福岡市の協力を得、会員団体への案内を行った。会員団体の従業員らは、市民・非市民両方を含むことを想定した。通学者への周知には、福岡未来創造プラットフォーム加盟大学（15 大学：九州産業大学、九州大学、サイバー大学、純真学園大学、西南学院大学、第一薬科大学、筑紫女学園大学、日本赤十字九州国際看護大学、日本経済大学、福岡工業大学、福岡国際医療福祉大学、福岡歯科大学、福岡女子大学、福岡大学、令和健康科学大学）に案内し、在籍学生および職員への周知を依頼した。こちらにも、通勤者と同じく市民・非市民を含むことが想定される。さらに、URC の賛助会員への案内、URC ホームページやフェイスブックなどへの掲載を行った。また、市役所の情報プラザおよび各区役所の情報コーナーにも調査票および返信用封筒を設置し、来所した人々へのアプローチを試みた。

アンケートの回答方法は、1) Google フォーム、2) Excel フォームをウェブ上に提出、3) 調査票の返送の 3 つから選択とした。これにより、回答者の年齢と回答方法の関係性が把握でき、対象年齢に応じた効果的なアンケート手法の参考とすることができる。なお、調査票については、内浜校区住民および市役所情報プラザおよび各区役所に設置分のみとし、その他は主に Google フォームと Excel フォームを用いた。調査期間は、2 月の 1 ヶ月間（ウェブ・メール等での案内は 2 月初旬から、調査票の配布は 2 月中旬ごろ）とした。

多様な周知方法を組み合わせたことから、周知方法別の正確な回収率を求めることは難しいが、調査項目に「このアンケートをどこで知りましたか？」の質問を設け、調査票を通して認知した回答者の数から回収率を求めることは可能である。

最後に、お知らせメールやチラシには QR コードを提示し、スマートフォン等から簡単にアクセスできる設計とし、かつ回答の所要時間が 5 分程度であることを明示することで協力を促した。また、アンケートの回収率を上げるため、今回の調査にはインセンティブ手法を用いた。抽選で 100 名に 500 円のギフト券が当たることを記載し、抽選への参加希望を

確認した。

表 22 アンケート概要

調査の目的	<ul style="list-style-type: none"> • 福岡市に住む・関わる人々の <ol style="list-style-type: none"> 1. 価値観やウェルビーイングの定義の把握 2. 上記に対する現状の把握（現状評価） 3. ウェルビーイングを規定する要因の把握
対象	<ul style="list-style-type: none"> • 福岡市に住む・関わる人々として、 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 定住人口 ➢ 関係人口
アンケートの周知方法	<ul style="list-style-type: none"> • 定住人口 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 内浜校区自治協議会の協力による、自治協だよりへの掲載、SNS 等による公民館情報の発信、校区掲示板、事業者によるポスティング（校区内住民8,000 世帯への戸別配布） ➢ 市役所情報プラザおよび各区役所の情報コーナーでの調査票の設置 • 関係人口 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 以下の団体の協力による、所属会員への案内 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 博多駅エリア発展協議会 30 会員* ◇ 博多まちづくり推進協議会 175 会員* ◇ We Love 天神協議会 136 会員* ◇ 福岡地域戦略推進協議会 228 会員* ➢ 福岡未来創造プラットフォームを通じた加盟大学市内 15 大学への案内 ➢ 市役所掲示板への掲載 ➢ URC 賛助会員（55 法人、48 名） ➢ 福岡市 Well-being&SDGs 登録企業 395 社
アンケートの回答方法	<ul style="list-style-type: none"> • 1) Google フォーム、2) Excel フォームをウェブ上に提出、3) 調査票の返送
調査期間	<ul style="list-style-type: none"> • 2023 年 2 月
配布数・回収率	<ul style="list-style-type: none"> • 紙の調査票の配布数 約 8,000 • 回収率（調査中）

注) 会員数*については、それぞれのウェブサイトを参照（2023 年 2 月 7 日時点）

5.1.2. アンケートの設計

次に、アンケートの設計である。これまで、福岡市においてウェルビーイングの把握を主目的としたアンケートは行われておらず、今後、継続的あるいは広域的に調査を行う場合の基礎調査となることを想定し、回収率を上げ、基礎的な情報の収集ができるようコンパクトな設計となっている。アンケートは、1.ウェルビーイングについて、2.生活における実感、

3.属性の3部構成となっているⁱⁱⁱ。

1.では個々人のウェルビーイングの定義と状態を求めた。まず、自由記述にて「あなたが日々の暮らしにおいて幸せと感じるのはどういうとき（どのようなこと）ですか？」という質問にて、100字以内で回答者が定義するウェルビーイングを明文化してもらった。また、「最初の質問において、最も理想とする状態を10として、現在の状態を平均するとどれくらいですか？」という質問により、1つ目の問いにおける現状評価をしてもらった。さらに、「最初の質問において、最も理想とする状態を10として、5年後の状態はどれくらいになると思いますか？」と、現在の状況に加え、将来的な見通しを聞いた。ウェルビーイングの評価は、将来的な展望への評価が、よりウェルビーイングの実態を表すことが示されているほか、次に続く質問等と合わせて、人々が住み続けたい・働きたいと思う指標や理由の把握にもつながると考える。その上でさらに記述式の質問として、「今後、あなたの人生をより充実させるものは何ですか？（もの・こと、機会、環境など）」と尋ねた。この2つ目の記述式質問については、次のような意図がある。過去の記述式や選択式のウェルビーイング調査において、「家族」「ご飯」「友達」などのキーワードが上位に頻出し、次点に「達成」「没頭」「趣味」「学び」などのキーワードが出る傾向が見られた^(88,107,108)。前者は、「静」あるいは、「協調系」ウェルビーイングとして捉えられ、後者は「動」あるいは獲得系のウェルビーイングと考えられる。このため、それら両者のカテゴリーを分けて、2段階で定義してもらうことで、「穏やかさ」や「平和」などの協調系回答と、「没頭」や「挑戦」などの獲得系の回答をそれぞれ得ようとした。もちろん、いずれの質問にも協調的回答をすることも、その反対に両方に獲得系回答をすることも想定される。ただし、目の前にある届きやすい幸せと、時間や労力をかけて獲得する幸せの両者が浮かび上がることを意識した。

次に、2.生活における実感では、「余暇時間」、「人とのつながり」、「健康」、「居住環境」、「経済状況」、「活動の満足度」、「選択肢の有無」、「多様性」、「利他性」など、過去のウェルビーイング調査で規定因として認められてきた項目を含めた。例えば、国連WHRにて2021年調査から追加された「バランス」、「安らぎ」などを、「時間的な余裕」、「居場所」などの質問で捉えようとした。セリグマンやハパートの言う、「没頭する体験」や「達成感」など、能動的体験におけるウェルビーイングのあり様を、「チャレンジしていることがある」などの質問で捉えようとしている。異質性・多様性への寛容さや利他性もまた、昨今のウェルビーイングで重視される項目として質問に加えている。

そして3.属性では、性別、年代、世帯構成、子どもの年齢、居住形態、職業等、過去の調

ⁱⁱⁱ 本アンケートの設計に関し、ウェルビーイング研究の第一人者である石川善樹氏に重要なご助言を頂いた。石川氏は、本アンケートの参考とした富山県における「ウェルビーイング県民意識調査」にも関わっている。

査を参考に、ウェルビーイングの規定因として認められるものを取り入れた。参考とした過去の調査には、次のようなものが挙げられる。例えば、年齢別にウェルビーイングの傾向を見ると、40-50代の働き盛りで幸福度が下がる傾向が示されている^(45,109)。これは、幸福のU字型曲線と呼ばれる特徴である。また、性別による傾向を見ると、日本は世界的に見ても、常に女性の方が男性より幸福度が高く、その上回る程度も非常に大きいことが知られている⁽¹¹⁰⁾。さらに、家族構成別では、未就学児の子どもを持つことは、幸福度に対してプラスの要因として働くが、子どもの年齢が上がるにつれてマイナスの要因として働くことが示されるなど、多様な条件の違いが幸福度に異なる影響を与えることがわかってきている⁽⁴⁵⁾。

以上のように、アンケートの構造が全体として、アンケートの目的である、ウェルビーイングの定義、現状評価、ウェルビーイングの規定因の把握を導出する設計となっている。つまり、(1) 個々人のウェルビーイングの自由記述は、回答者にとってのウェルビーイングの定義を明文化し、現状と5年後の評価によってウェルビーイングの現状評価を行い、(2) 生活における実感および(3) 属性の現状評価との影響要因分析により、ウェルビーイングの規定因を求めたり、今後測定すべき尺度への示唆を得ることを想定した(図35)。

次頁以降に、実際の調査票(紙ベース)を貼付する。

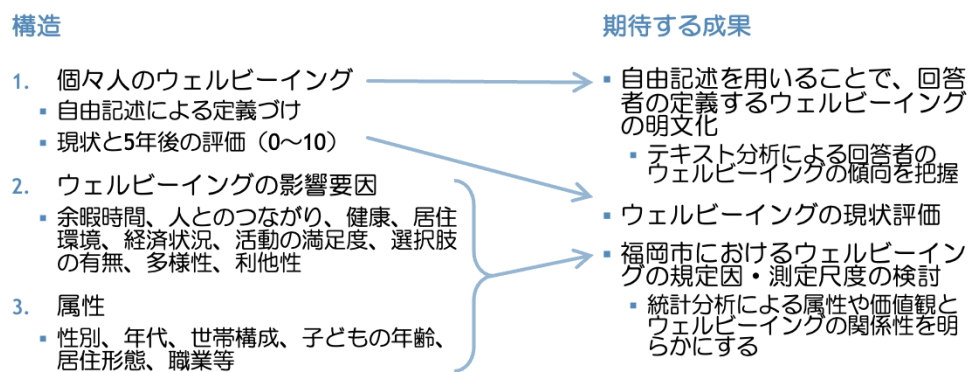


図 35 アンケートの構造と期待する効果

出所：URC 作成

回答用紙

2 生活における実感（当てはまる番号 1 つに○をつけてください）

- 2-1 平日1日あたりの余暇時間※
 （※睡眠、労働、食事、家事等の生活を営む上で必要となる時間を除いた時間）
- 1) なし 2) 1時間未満 3) 1時間 4) 2時間 5) 3時間
 6) 4時間 7) 5時間 8) 6時間 9) 7時間 10) 8時間以上

	はい	どちらかと言 えば「はい」	どちらかと言 えば「いいえ」	いいえ	わからない
2-2 1つ前の問いにおいて回答した余暇時間は、十分だと感じる	1	2	3	4	5
2-3 困ったときに相談する相手がいる	1	2	3	4	5
2-4 自分は楽観的※な性格である （※物事を良い方向に考えて心配しない）	1	2	3	4	5
2-5 健康である	1	2	3	4	5
2-6 住まいは快適で、安全・安心であると感じる	1	2	3	4	5
2-7 必要な収入を得られている	1	2	3	4	5
2-8 日常の主な活動※に満足している （※仕事・学業・家事・地域活動ほか）	1	2	3	4	5
2-9 日常の主な活動※の他に关心事やチャレンジしていることがある （※仕事・学業・家事・地域活動ほか）	1	2	3	4	5
2-10 日々の社会生活および人生の転機において、自分にはさまざまな機会・自由な選択肢がある	1	2	3	4	5
2-11 日々の生活において居場所（心を休められる・いてもいいと思える環境）があると感じる	1	2	3	4	5
2-12 お住まいの地域とつながりがあると感じる	1	2	3	4	5
2-13 他の人のさまざまな価値観や意見を尊重する	1	2	3	4	5
2-14 困っている人がいたら助けようとする	1	2	3	4	5
	はい	どちらかと言 えば「はい」	どちらかと言 えば「いいえ」	いいえ	わからない

《 3 に続く 》

3 属性 (当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください)

3-1 性別	1) 女性 2) 男性 3) 回答しない
3-2 年代	1) 10代 2) 20代 3) 30代 4) 40代 5) 50代 6) 60代 7) 70代 8) 80代以上
3-3 世帯構成 (同居している方のみ)	1) 単身 2) 夫婦・パートナーのみ 3) 親と子の二世帯家族 4) 親と子と孫の三世帯家族 5) その他
3-4 子どもの年齢 (複数の場合は1番下の 子どものみ選択)	1) いない 2) 0-2歳 3) 3-6歳(就学前) 4) 7-9歳 5) 10-12歳 6) 13-15歳(中学生) 7) 16-18歳 8) 19-20歳 9) 21歳以上
3-5 家族等にケア(介助・ 介護)を要する人がいる	1) いる 2) いない
3-6 居住形態	1) 持ち家(戸建) 2) 持ち家(集合住宅) 3) 借家(戸建) 4) 借家(集合住宅) 5) 寮・社宅 6) その他
3-7 職業	1) 正規従業員・職員 2) 会社・団体役員 3) 派遣社員・契約社員 4) 自営業・自由業 5) 自営業の家族従業員 6) アルバイト・パート 7) 学生 8) 主婦・主夫 9) 無職 10) その他
3-8 出身地	1) 福岡市内 2) 福岡市外(福岡県内) 3) その他九州(福岡県外) 4) その他国内 5) 国外
3-9 現在の住まい	1) 福岡市博多区 2) 福岡市中央区 3) 福岡市東区 4) 福岡市西区 5) 福岡市南区 6) 福岡市城南区 7) 福岡市早良区 8) 福岡市外(福岡県内) 9) その他九州(福岡県外) 10) その他国内 11) 国外
3-10 お住まいの地域の環境 (ご自身の判断で最もあ てはまるものを1つ選択)	1) 家屋や商業施設が密集している市街地 2) 主に家屋が密集している住宅地 3) 工場や倉庫が多く集まっている地域 4) 農地・漁港に近い地域 5) 山間地域 6) その他(いずれにもあてはまらない)
3-11 福岡市居住年数 (通算)	1) なし 2) 1年未満 3) 1年以上5年未満 4) 5年以上10年未満 5) 10年以上20年未満 6) 20年以上30年未満 7) 30年以上
このアンケートをどこで 知りましたか? ※ この設問は複数回答可	1) 福岡アジア都市研究所(URC)の広報(ホームページ、フェイスブック) 2) URCからの案内メール 3) 所属団体からの案内メール 4) 市役所情報プラザ、各区役所情報コーナー 5) 内浜校区自治協だより、公民館情報、校区掲示板 6) ポスティング(戸別配布) 7) その他(いずれにもあてはまらない)

その他コメントなど、自由にお書きください。(任意)

ご協力ありがとうございました。《プレゼントの抽選に応募する方は別紙へ。》

5.2. ウェルビーイング×政策分野マトリックス

アンケート調査では、福岡市に住む人・関わる人のウェルビーイングの定義や現状評価を行った。これはあくまでも個々人の価値観や生活に基づいたウェルビーイングの把握であって、都市全体の長期的視野を包含しているわけではない。4.1 政策的フレームワークで示したように、都市としてウェルビーイングを政策に取り入れていく場合、都市に居住する・活動する人々のウェルビーイングに加え、都市全体として長期的・俯瞰的な視野でウェルビーイングを形作る必要がある。

これを手助けするツールとして、以下にウェルビーイングの評価枠組をマトリックス（試案）で示した（表 23）。

このマトリックスは、市民の価値観を縦軸に、都市が達成したいことを横軸に置いている。市民の価値観とは、上述のアンケートで明らかとなるウェルビーイングの重要項目であり、都市が達成したいこととは、都市が俯瞰的・長期的に見据えるビジョンあるいは下位目標を並べる。縦軸と横軸が交差する個々のセルには、施策や KPI・KCI（Key Concept Indicator）を入れることを想定している。

個々人のウェルビーイングは、それ自体多様でかつ影響要因もさまざまであり、これらすべてに対して行政施策で何らかの対策を講じるということは考えにくい。しかし、マトリックスを用いて個人と都市のウェルビーイングを掛け合わせることで、特定のビジョンや下位目標と、個人のウェルビーイングとがつながる部分がどこにあるかを検討し、どの部分において行政施策が有効であるか、既存の施策がどのようなウェルビーイングに貢献できるのかを検討することができる。

表 23 ウェルビーイングの評価枠組設計のためのマトリックス

政策 価値観	ビジョン 1		ビジョン 2			ビジョン 3	
	下位目標 1-1	下位目標 1-2	下位目標 1-3	下位目標 2-1	下位目標 2-2	下位目標 3-1	下位目標 3-2
やりがい							
つながり		xxx (例)			xxx (例)		
利他性							
人生の選択の自由				xxx (例)			
やすらぎ							
・・・			xxx (例)			xxx (例)	

出所：URC 作成

今後、マトリックスを一つの手がかりとして、市民や行政の担当職員、民間などと協働で、ウェルビーイングの定量的・定性的な指標の検討や施策の検討を行うことで、ウェルビーイングを政策として取り入れる際の具体的プロセスなど、詳細を議論できることが望ましい。

5.3. ウェルビーイング施策の活用

1.3 で論じたように、これまで都市指標は、他都市との比較や競争を促すツールとして用いられてきた。しかし、ウェルビーイングの特性上、必ずしも他都市との比較に活用されることが想定されているわけではない。幸福学研究をけん引する前野が示す「幸福の4因子」の一つは、「ありのままに！あなたらしく！」因子であり、独立とマイペースの因子と説明される⁽¹⁰⁹⁾。「社会的比較のなさ」、すなわち「私は自分のすることと他者がすることをあまり比較しない」ということが、幸福をもたらす一つの因子であることが示されている。また、都市のウェルビーイング指標として本報告書でも分析対象とした LWCI の利活用ガイドブックでは、「自治体間の優劣の比較やランキング付けなど、目的外での利用は厳に慎んで下さい。」との記載があるように、これまでの指標とは活用の仕方が異なることがわかる⁽⁶³⁾。その理由としては、「各エリアでの取組間の好循環と政策評価（EBPM）を進めることが目的であり」⁽¹¹¹⁾、ウェルビーイングの実現に有効な取組みについて地域が互いに学び合うことを後押しするものであって、優劣を確認するものではないという考え方がある。

また、金井によれば、「絶対的な生活水準と幸福度との関連」、「自分と似ている人びととの比較」、「なりたいと思っている自分との比較」、「過去の自分との比較」の4つのうち、最も幸福感との間に有意な関係が認められる要因は、「過去の自分との比較」であると言う⁽¹¹²⁾。「絶対的な生活水準と幸福度との関連」とは、絶対的な生活水準を表す指標として現在の所得、「自分と似ている人びととの比較」とは、自分の実際の所得から、最終学校の同窓生の現時点での平均所得（として想像する金額）を引いた値、「なりたいと思っている自分との比較」とは、自分の実際の世帯所得から希望する世帯所得を引いた値、「過去の自分との比較」は、「15歳の頃の暮らし向きと比べて現在の暮らし向きは良くなったと思うか悪くなったと思うか」を0（とても悪くなった）から10（とてもよくなった）までの11段階で答えてもらった値である。つまり、他者や他都市との比較よりも、過去の自身や自都市との比較が、幸福感に影響を与えるということが示唆される。AKHでは、毎年同じ内容の調査を継続的に実施することで、地域内の経年比較を行っており、ウェルビーイング指標の政策適用においては、活用の方法についても、議論が必要であろう。

第6章 まとめ

本研究では、急速な変化の中にある現代において、都市に新たな指標が必要なのか、新たな都市の指標とは何であるかという問いから始まり、その一つの答えとしてウェルビーイングを提示した。ウェルビーイングは、物質的な価値観から非物質的な価値観を捉えるものとして、また、全体的な人間一般の傾向ではなく個々人の生活に寄り添った都市像を具現化するための指標として、主観的なアプローチを必要とする。

ウェルビーイングは、単に「幸せ」であることから、「良く在る・居る状態」に依拠する多義的な概念として拡がりを見せ、学術的な議論の中では、ヘドニズムとユーダイモニズムという大きな2つの考え方が提示され、それらを中心に知識体系が構築されてきた(2.2)。そうした精神的な豊かさに加え、経済的要素との結びつきが強い生活満足度によって、「幸せ」を捉えようとしてきた。そうした既存の多様な定義を解釈すると、ウェルビーイングは、個人の身体・精神・生活に関する要素と、社会・場に関する要素が総合的に見て良好な状態にあると考えられる。

かつて、ウェルビーイング指標の主流として用いられたGDP等の経済指標が、個々人のウェルビーイングを十分に反映していないことが明らかとなり、主観的指標の重要性が増すとともに、地域や価値観によっても異なることが指摘されるようになった。このことからウェルビーイングの評価尺度の開発が進み、科学的にウェルビーイングを解明する研究の進展が見られ、政策としてウェルビーイングを取り入れる動きが進んできた。国内では、荒川区や熊本県を始め、ウェルビーイングを個別の施策と紐付けたり、街のビジョンとして提示するなど、政策への適用のアプローチも様々である。福岡市においては、市民意識調査等の主観的指標の継続的な調査が長く実施されてきており、ウェルビーイングを取り入れる土台が備わっていると言える。

4章で示したウェルビーイングの政策的フレームワークでは、政策の実施により最終的に達成したい状態(インパクト)の検討から始め、インパクトを形成する指標群(アウトカム)を特定し、そこから政策資源の投入(インプット)・実施(アクティビティ)・成果(アウトプット)へとつながる手順について考察を試みた。この枠組みを元に、政策自体の評価とウェルビーイングの実現という目標との整合性の確認を繰り返しながら、都市のウェルビーイング実現につながっていくことが期待される。また、政策評価においては、インプットとアウトカムのみならず、その過程に目を向けることが重要であることを指摘した。本研究においては、その枠組を提示したのみであり、どのようにその過程を評価していくかについては今後の継続的な研究ならびに関係者間の協議が待たれる。さらに、地域経済の活性化や市民の健康増進、医療・介護費用の抑制などのウェルビーイングの副次効果の存在は、政策的

にウェルビーイングを位置づける際の支援材料となるだろう。

善い人生とはどのようなものであるか（あるべきか）というウェルビーイングに関する古典的な議論は、研究の深まりとともに、人々がそれぞれの人生を意義深く価値があると“主観的に”捉えるためにはどのような要因が存在するか、という視点が加わってきた⁽⁴²⁾。

こうした主観的な要因の把握に努め、さらにそれを政策に活かしていく過程は、まだ発展途上の段階にある。多様な価値観に配慮しつつ、ウェルビーイングを実現する市民サービスを提供するにあたり、本稿で明らかにした政策的フレームワークは、ウェルビーイングの政策的展開の考え方を示す最初の一步に過ぎない。今後、KPI の設定や政策評価の手法、継続的な測定と政策への反映プロセスなど、一つ一つ探っていく必要があるだろう。

参考文献

- (1) イングルハートロナルド, 山崎聖子訳. 文化的進化論. 勁草書房; 2019.
- (2) 広井良典. 無と意識の人類史: 私たちはどこへ向かうのか [Internet]. [東洋経済新報社]; 2021 [cited 2023 Feb 9]. Available from: <https://ci.nii.ac.jp/ncid/BC0973549X.bib>
- (3) 前野隆司. ウェルビーイング時代への価値転換 ～ 私達はいかに生き、いかに働くべきか～. In: ウェルビーイングリーダーズサミット. 2022.
- (4) DATA INSIGHT 編集部. ダ・ヴィンチの理想都市から考える、新しい社会のすがた [Internet]. DATA INSIGHT. 2020 [cited 2023 Jan 12]. Available from: <https://www.nttdata.com/jp/ja/data-insight/2020/102102/>
- (5) Schwab K, Malleret T, 北川蒼. グレート・ナラティブ: 「グレート・リセット」後の物語 [Internet]. 日経ナショナルジオグラフィック and 日経BPマーケティング (発売); 2022 [cited 2023 Feb 1]. Available from: <https://cir.nii.ac.jp/crid/1130011296722759553.bib?lang=ja>
- (6) World Economic Forum. 第15回グローバルリスク報告書2020年版. マーシュジャパン株式会社/マーシュブローカー・ジャパン株式会社, editor. 2020.
- (7) World Economic Forum. 第16回グローバルリスク報告書2021年版 [Internet]. マーシュジャパン株式会社/マーシュブローカー・ジャパン株式会社, editor. 2021 [cited 2023 Mar 6]. Available from: chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www3.weforum.org/docs/WEF_%20Global_Risk_Report_2021_JP.pdf
- (8) World Economic Forum. 第17回グローバルリスク報告書2022年版. マーシュジャパン株式会社/マーシュブローカー・ジャパン株式会社, editor. 2022.
- (9) World Economic Forum. グローバルリスク報告書2023年版エグゼクティブサマリー. マーシュジャパン株式会社/マーシュブローカー・ジャパン株式会社, editor. 2023.
- (10) 福岡市. まち・ひと・しごと創生 (参考) 福岡市 人口ビジョン (改訂版) その後の推移. 福岡市; 2021.
- (11) 福岡市. まち・ひと・しごと創生 (参考) 福岡市 人口ビジョン (改訂版) その後の推移 [Internet]. 福岡市; 2021 [cited 2023 Feb 8]. Available from: https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/90769/1/14_jinnkouvision.pdf?20211126202937
- (12) 日本政策投資銀行グループ株式会社価値総合研究所. 2030/40年の外国人との共生社会の実現に向けた調査研究暫定報告. 2022 Feb.

- (13) 黒瀬武史. 福岡都心再生サミット2021「Beyond Coronavirusのまちづくり：Well-beingを感じられるまちへ」. 博多まちづくり推進協議会; 2021.
- (14) 公益財団法人福岡アジア都市研究所. 地域経済のレジリエンス 人の力を引き出す変革が生み出すレジリエントな都市. 2022.
- (15) 福岡アジア都市研究所. Society 5.0 ～福岡市における「人」が中心の未来社会～. 2019 Mar.
- (16) 塚田敏彦. 都市のサステナビリティ評価指標. 年報 NTTファシリティーズ総研レポート. 2018 Jun; 29.
- (17) 上原直人. 都市計画分野における都市像と都市性能評価指標に関する研究. 九州大学大学院人間環境学研究院 鶴崎研究室（都市・地域デザイン研究室）; 2016.
- (18) 渡邊淳司, Chen D, 安藤英由樹, 坂倉杏介, 村田藍子. わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために：その思想、実践、技術. ビー・エヌ・エヌ新社; 2020.
- (19) 牧島かれん. デジタル田園都市国家構想の実現とWell-Beingについて. 2022 Jun.
- (20) Diener E. Subjective Well-Being. Psychol Bull. 1984; 95 (3): 542–75.
- (21) Lambert L, Lomas T, van de Weijer MP, Passmore HA, Joshanloo M, Harter J, et al. Towards a greater global understanding of wellbeing: A proposal for a more inclusive measure. International Journal of Wellbeing. 2020; 10 (2).
- (22) 山下修平, 高見沢実. ブータンの国民総幸福度指標（GNH Indicators）の変遷に関する研究. 都市計画論文集. 2019; 54 (2): 102–13.
- (23) Stiglitz J, Sen A, Fitoussi J. Report of the Commission on the Measurement of Economic Performance and Social Progress (CMEPSP). 2009 Jan 1;
- (24) Government of United Kingdom. National Wellbeing [Internet]. 2013 [cited 2022 Nov 12]. Available from: <https://www.gov.uk/government/collections/national-wellbeing>
- (25) 内閣府政策統括官. 平成28年度子供の貧困に関する新たな指標の開発に向けた調査研究報告書. 2017.
- (26) 内閣府. 経済財政運営と改革の基本方針2021 日本の未来を拓く4つの原動力～グリーン、デジタル、活力ある地方創り、少子化対策～ [Internet]. 2021 [cited 2022 Nov 12]. Available from: https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2021/2021_basicpolicies_ja.pdf
- (27) 高野翔. ウェルビーイングの概念の自治体政策への適用可能性と課題に関する考察：福井県永平寺町におけるウェルビーイング調査をもとに. ふくい地域経済研究. 2021; (33): 41–59.

- (28) 新村出, editor. 「主観」. In: 広辞苑. 第7版. 岩波書店; 2018.
- (29) 新村出, editor. 「客観」. In: 広辞苑. 第7版. 岩波書店; 2018.
- (30) Eid M, Larsen RJ. The science of subjective well-being. Guilford Press; 2008.
- (31) Ryff CD. Happiness is everything, or is it? Explorations on the meaning of psychological well-being. *J Pers Soc Psychol*. 1989 Dec; 57 (6): 1069–81.
- (32) Huppert FA, So TTC. Flourishing Across Europe: Application of a New Conceptual Framework for Defining Well-Being. *Soc Indic Res*. 2013 Feb 15; 110 (3): 837–61.
- (33) Ryan RM, Deci EL. On Happiness and Human Potentials: A Review of Research on Hedonic and Eudaimonic Well-Being. *Annu Rev Psychol* [Internet]. 2001 Feb; 52 (1): 141–66. Available from:
<https://www.annualreviews.org/doi/10.1146/annurev.psych.52.1.141>
- (34) 内田由紀子. 協調的ウェルビーイングと働き方—幸福観の国際比較を通して—. In: ウェルビーイングリーダーズサミット. 2022.
- (35) 渡邊淳司, 村田藍子, 安藤英由樹. 持続的ウェルビーイングを実現する心理要因. *日本バーチャルリアリティ学会誌*. 2018 Mar; 23 (1): 11–8.
- (36) 内閣府政策統括官（経済社会システム担当）. 満足度・生活の質に関する調査報告書2022 ～我が国のWell-beingの動向～. 2022.
- (37) Diener E, Biswas-Diener R. Will money increase subjective well-being? *Soc Indic Res*. 2002; 57: 119–69.
- (38) 森田修康. 自治体における幸福度指標の課題と方向性. *自治体学*. 2014; 27 (2): 60–6.
- (39) Biswas-Diener R, Diener E, Lyubchik N. Wellbeing in Bhutan. *International Journal of Wellbeing*. 2015 Jun 20; 5 (2): 1–13.
- (40) 内田由紀子. 協調的ウェルビーイングと働き方—幸福観の国際比較を通して—. In: ウェルビーイングリーダーズサミット. 2022.
- (41) 石川義樹. ウェルビーイング経営のすすめ-“イイ感じ”の調和を目指す -. In: Sansun Evolution Week 2021 [Internet]. 2021. Available from:
<https://logmi.jp/business/articles/324148>
- (42) Diener E, Oishi S, Tay L. Advances in subjective well-being research. *Nat Hum Behav*. 2018; 2 (4): 253–60.
- (43) カーネマンダニエル. 経験と記憶の謎 [Internet]. TED. 2010 [cited 2023 Feb 10]. Available from: The riddle of experience vs. memory
- (44) Seligman MEP. Flourish: A visionary new understanding of happiness and well-being.

- Simon and Schuster; 2012.
- (45) 鶴見哲也, 藤井秀道, 馬奈木俊介. 幸福の測定: ウェルビーイングを理解する. 中央経済社, 中央経済グループパブリッシング; 2021.
- (46) 村上由美子, 高橋しのぶ. GDPを超えて—幸福度を測るOECDの取り組み. サービソロジー. 2019; 6 (4): 8–15.
- (47) 伊藤裕子, 相良順子, 池田政子, 川浦康至. 主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討. 心理学研究. 2003; 74 (3): 276–81.
- (48) Panel on Measuring Subjective Well-Being in a Policy-Relevant Framework, Committee on National Statistics, Division on Behavioral and Social Sciences and Education, National Research Council. 2, Conceptualizing Experienced (or Hedonic) Well-Being [Internet]. Subjective Well-Being: Measuring Happiness, Suffering, and Other Dimensions of Experience. 2018 [cited 2023 Feb 21]. Available from: <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK179216/>
- (49) 川人潤子, 大塚泰正, 甲斐田幸佐, 中田光紀. 日本語版The Positive and Negative Affect Schedule (PANAS)20項目の信頼性と妥当性の検討. 広島大学心理学研究. 2012 Mar; 11: 225–40.
- (50) 中坪太久郎, 平野真理, 綾城初穂, 小嶋祐介, Takuro N, Mari H, et al. 幸福感尺度使用の現状と今後の展望. 淑徳大学研究紀要 総合福祉学部・コミュニティ政策学部 = Shukutoku University bulletin College of Integrated Human and Social Welfare Studies, College of Community Studies. 2021; 55: 141–58.
- (51) Lyubomirsky S, Lepper HS. A Measure of Subjective Happiness: Preliminary Reliability and Construct Validation. Soc Indic Res. 1999; 46 (2): 137–55.
- (52) 伊藤裕子, 相良順子, 池田政子, 川浦康至. 主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討. 心理学研究. 2003; 74 (3): 276–81.
- (53) Hitokoto H, Uchida Y. Interdependent Happiness: Theoretical Importance and Measurement Validity. J Happiness Stud. 2015 Feb 30; 16 (1): 211–39.
- (54) Helliwell JF, Layard R, Sachs JD, Neve J-E de, Akinin LB, Wang S. World Happiness Report 2022. 2022;
- (55) 西川太一郎. はじめに. In: 荒川区民総幸福度 (GAH) に関する研究プロジェクト第二次中間報告書. 荒川区: 公益財団法人荒川区自治総合研究所; 2012. p. i-ii.
- (56) 北川嘉昭, 米澤貴幸, 長田七美, 森田修康, 川原健太郎. 荒川区における取り組み. In: 荒川区自治総合研究所, editor. あたたかい地域社会を築くための指標—荒川区民総

- 幸福度(グロス・アラカワ・ハッピネス:GAH). 八千代出版; 2010. p. 126-42.
- (57) 北川嘉昭, 米澤貴幸, 長田七美, 森田修康, 川原健太郎. 荒川区自治総合研究所における調査研究. In: 荒川区自治総合研究所, editor. あたたかい地域社会を築くための指標—荒川区民総幸福度(グロス・アラカワ・ハッピネス:GAH). 八千代出版; 2010. p. 143-71.
- (58) 荒川区. 令和3年度荒川区民総幸福度 (GAH) に関する区民アンケート調査 調査票. 2021.
- (59) 坂本正. 熊本の幸福量最大化への挑戦: 日本の自治体による幸福度政策と熊本のAKH. 熊本学園大学 産業経営研究所; 2022.
- (60) 熊本県企画振興部企画課 (受託機関: 株式会社地域総研). 平成24年度「県民幸福量の指標化に係る調査」報告書 参考資料: 主なポイント. 2013 Mar.
- (61) 熊本県. 令和3年度県民総幸福量 (AKH) に関する調査結果について. 2021.
- (62) 熊本県企画振興部企画課. Interview. 2022 Oct 17.
- (63) 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート. Liveable Well-Being City 指標ご紹介と活用について [Internet]. 2022 [cited 2022 Aug 4]. Available from: <https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>
- (64) デジタル庁, 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート. LWC指標利活用ガイドブック. 2022 Jul.
- (65) 島原万丈. 本当に住んで幸せな街「センシュアス・シティ」への可能性: UWAJIMAふるさとMeet Up 【in東京】 レポート第1回 [Internet]. 宇和島市シティプロモーションサイト. 2019 [cited 2023 Feb 17]. Available from: <https://www.city.uwajima.ehime.jp/site/branding/archives402.html>
- (66) Canadian Index of Wellbeing. About the Canadian Index of Wellbeing - History [Internet]. University of Waterloo. 2021 [cited 2022 Oct 21]. Available from: <https://uwaterloo.ca/canadian-index-wellbeing/about-canadian-index-wellbeing/history>
- (67) Tim Lomas, Alden Yuanhong Lai, Koichiro Shiba, Pablo Diego-Rosell, Yukiko Uchida, Tyler J VanderWeele. Insights from the First Global Survey of Balance and Harmony. In: Helliwell JF, Layard R, Sachs JD, de Neve J-E, Aknin LB, Wang S, editors. World Happiness Report 2022. New York: Sustainable Development Solutions Network; 2022. p. 127-54.
- (68) World Happiness Report. Sustainable Development Solutions Network.

- (69) 福岡市. 市政に関する意識調査 [Internet]. 2022 [cited 2022 Aug 12]. Available from: <https://www.city.fukuoka.lg.jp/shicho/kocho/opinion/002.html>
- (70) 岩崎敬子. 他人の幸せの為に行動すると、幸せになれるのか？：利他的行動の幸福度への影響の実験による検証. 2021 Mar.
- (71) 福岡市. 令和3年度福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査 調査票. 2021.
- (72) 福岡市. 福岡市基本計画における成果指標について（総合計画審議会第3回生活の質部会会議配布資料）. 2012 Aug.
- (73) 福岡市. 第9次福岡市基本計画. 福岡市; 2012 Dec.
- (74) 福岡チャンネル by Fukuoka city. 福岡市長高島宗一郎 福岡都心再生サミット2021 「Beyond Coronavirusのまちづくり：Well beingを感じられるまちへ」に出席しました [Internet]. Online video. YouTube. 2021 [cited 2022 Oct 5]. Available from: <https://youtu.be/XawbV5MI51s>
- (75) 福岡市. 福岡市Well-being & SDGs登録制度について [Internet]. 2022 [cited 2022 Oct 5]. Available from: https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/kikaku/shisei/fukuoka-well-being/fukuoka_well-beingSDGs.html
- (76) 福岡市. 市長会見2022年4月19日 [Internet]. 2022 [cited 2022 Oct 5]. Available from: <https://www.city.fukuoka.lg.jp/shisei/mayor/interviews/20220419choteireikaiken.html>
- (77) 福岡市. 福岡市 「Well-being & SDGs登録制度」登録事業者一覧 [Internet]. 2022 [cited 2023 Feb 17]. Available from: https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/kikaku/shisei/fukuoka-well-being/master_partner.html
- (78) 福岡市. 取組事例の紹介：福岡市 「勤務間インターバル&男性育休100%宣言」 [Internet]. 2022 [cited 2022 Oct 5]. Available from: https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/kikaku/shisei/fukuoka-well-being/pickup/pickup1_fukuokacity.html
- (79) 山田治徳. ロジック・モデルの作成－政策評価、EBPMの基本として. 政策評価に関する統一研修（地方研修・高松会場）. 2020 Feb.
- (80) 内閣府. 経済財政運営と改革の基本方針2017～人材への投資を通じた生産性向上～. 2017.
- (81) 小池拓自, 落美都里. 第1章我が国におけるEBPMの取組. In: 国立国会図書館 調査及び立法考査局, editor. EBPM（証拠に基づく政策形成）の取組と課題総合調査報告書. 2020.

- (82) 佐藤徹. エビデンスに基づく自治体政策入門：ロジックモデルの作り方・活かし方 [Internet]. 公職研; 2021 [cited 2023 Feb 8]. Available from: <https://cir.nii.ac.jp/crid/1130005876438481285.bib?lang=ja>
- (83) 大塚直, 諸富徹. 持続可能性とWell-Being：世代を超えた人間・社会・生態系の最適な関係を探る [Internet]. 日本評論社; 2022 [cited 2023 Feb 8]. Available from: <https://cir.nii.ac.jp/crid/1130291079927384342.bib?lang=ja>
- (84) Wells T. Sen's Capability Approach [Internet]. [cited 2023 Feb 8]. Available from: <https://iep.utm.edu/sen-cap/>
- (85) 岡部光明. アマルティア・センの潜在能力論とその発展的応用. 明治学院大学機関リポジトリ. 2018;
- (86) 吉川英治. 現代公共政策の担い手を描写するための新たな人間行動モデルについて. 彦根論叢. 2018 Feb; 第415号: 134-43.
- (87) 矢野和男. 予測不能の時代：データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ. 草思社; 2021.
- (88) 英, 吉村. 女子大学生における幸福の概念と幸福感の規定因. 発達教育学研究. 2007 Mar; 009: 13-29.
- (89) 安永明智, 谷口幸一, 徳永幹雄. 高齢者の主観的幸福感に及ぼす運動習慣の影響. 体育学研究. 2002; 47 (2): 173-83.
- (90) 西田裕紀子. 成人女性の多様なライフスタイルと心理的 well-being に関する研究. 教育心理学研究. 2000; 48 (4): 433-43.
- (91) 北川夏樹, 藤井聡. 共同体帰属意識と主観的幸福感の規定因に関する研究. グループダイナミクス学会 59 回大会発表論文集. 2012; p54-57.
- (92) Doheny K. Acts of Kindness Can Make You Happier Researcher says frequency, variety play a key role. USNews. 2013 Jan 24;
- (93) Achor S. ショーン・エイカー 「幸福と成功の意外な関係」 [Internet]. 2012 [cited 2022 Nov 24]. Available from: <https://digitalcast.jp/v/12025/>
- (94) セリグマンマーティン. ウェルビーイングの実現に向けて、日本が今すべきこと. In: ウェルビーイングリーダーズサミット. 2022.
- (95) 加藤丈嗣, 山本俊行, 安藤章. 社会基盤整備が主観的幸福感に及ぼす影響の分析. 第52回土木計画学研究発表会・講演集. 2015; 533-40.
- (96) 坂本正. Interview. 2022 Oct.
- (97) 荒川区. 荒川区基本構想全文（HTML版） [Internet]. 2020 [cited 2022 Oct 18].

Available from:

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a001/kousoukeikaku/kihonkousou/zenbun.html>

- (98) 上田望. 第4章 最大幸福の実現：第1節 目標設定と測定. In: 西川太一郎, 藁谷友紀, ホルスト・アルパツハ, editors. 基礎自治体マネジメント概論：荒川区自治総合研究所叢書. 三省堂; 2018. p. 176–86.
- (99) 荒川区自治総合研究所. 荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査研究報告：GAHアンケート調査5年分の解析から見えてきた政策課題とその取り組みの方向性の試案. 2018 Dec.
- (100) 荒川区自治総合研究所. Interview. 2022 Sep 22.
- (101) Statistics Denmark. Names in the entire population [Internet]. Statistics Denmark. 2023 [cited 2023 Feb 6]. Available from:
<https://www.dst.dk/en/Statistik/emner/borgere/navne/navne-i-hele-befolkningen>
- (102) Trap Denmark’s editorial staff, Ronny Andersen, Eigil Christiansen. Dragør Kommune [Internet]. Trap Danmark. 2019 [cited 2023 Jan 31]. Available from:
https://trap.lex.dk/Drag%C3%B8r_Kommune
- (103) Analisa R. Bala, Adam Behsudi, Anna Jaquierey. A Life Well Lived: Three countries provide lessons for improving health and promoting happiness. The International Monetary Fund “Finance & Development.” 2021 Dec; 26–31.
- (104) 統計ダッシュボード. [cited 2023 Feb 8]; Available from: <https://dashboard.e-stat.go.jp/>
- (105) 福岡市. 『福岡市の観光・MICE』2022年版福岡市観光統計 [Internet]. [cited 2023 Feb 8]. Available from: chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/96122/1/kankoutoukei2022.pdf?20220721162621>
- (106) 松下琢磨. 福岡都心再生サミット2021「Beyond Coronavirusのまちづくり：Well-beingを感じられるまちへ」. 2021.
- (107) 富山県. ウェルビーイング県民意識調査結果（速報） [Internet]. 2022 [cited 2023 Feb 8]. Available from:
https://www.pref.toyama.jp/documents/30134/20221121_sokuhou_wellbeing_chosa.pdf
- (108) 山田秀樹. 大学生の幸せに関する研究 —テキストマイニングによる自由記述の分析—. 東海大学高等教育研究. 2016; 15.

謝辞

本研究では、文献調査に加え、公益財団法人Well-being for Planet Earth 代表理事 石川善樹氏、荒川区自治総合研究所の皆様、熊本学園大学 シニア客員教授 坂本正氏、熊本県企画振興部企画課 久米田氏へのインタビューを通じて、多くの学びを得た。ご協力いただいた皆様はこの場を借りてお礼申し上げたい。また、アンケートに際し、内浜校区自治協議会、内浜公民館、博多駅エリア発展協議会、博多まちづくり推進協議会、We Love 天神協議会、福岡地域戦略推進協議会、福岡未来創造プラットフォーム、の皆様にも多大なるご協力をいただいた。心より感謝申し上げたい。

【執筆者と担当章】

研究主査 菊澤 育代（総括）

はじめに、第1章、第2章、第3章、第4章、第5章、第6章

研究主査 山田 美里

第1章、第3章、第4章、第5章、表紙絵

【データ収集等】

主任研究員・情報戦略室長 畠山 尚久

研究スタッフ 張 睿

短期インターン 上野 竜大生（九州大学大学院 森林政策学研究室 M1）

事業支援係長 羽田野 祐樹

2022 年度総合研究報告書

ウェルビーイング

～新たな都市の評価に関する研究～

2023 年 3 月 31 日 第 1 版発行

発行 公益財団法人 福岡アジア都市研究所 (URC)

〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 2 丁目 8 - 1

TEL) 092-710-6431 FAX) 092-710-6433

E-mail) info@urc.or.jp WEB) <https://urc.or.jp/>

■免責事項

本書は、できる限り正確な情報を掲載しておりますが、その全てを保障するものではありません。本書利用により生じたいかなる損害において一切責任を負いません。

■著作権

本書のコンテンツについては、リンク先情報、提供元が記載されている画像等を除き、(公財)福岡アジア都市研究所が著作権を所有します。本書を引用される際は、出典名を「(公財)福岡アジア都市研究所 (URC)」と明示してください。なお、当研究所に著作権が帰属しないコンテンツの引用については、別途、提供元の許諾を得る必要があります。

Copyright © 2023 The Fukuoka Asian Urban Research Center. All Rights Reserved.

ISBN 978-4-9911556-3-5



ISBN 978-4-9911556-3-5